

【3P1B201】ピアノ		音楽総合学科		1年前期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	横井 香織・三ツ橋 義晴						
資格・制限等	P・P/MTコース必修						
実務家教員	横井：音楽教室講師・10年 三ツ橋：音楽教室講師・9年						
授業内容	エチュード、バロック、古典派の作品を学びながら、ピアノを弾く姿勢、楽譜を正確に読む、指使いの考え方、スケール・アルペジオ、楽曲の構成を理解することから表現へ繋げるなど、演奏の基本を確認し、演奏技術を身に付けていきます。						
授業方法	演習を中心とした個人レッスンを行います。音楽的知識や技術修得の確認のため、中間発表(中間試験)も含めて授業を展開していきます。						
到達目標	知識・理解	基礎的な音楽知識を身に付けて楽譜の理解に努め、作曲家や作品についての知識も修得し、楽曲理解に繋げることができる。					
	思考・判断・表現	音色や響きを追求し、楽曲にふさわしい演奏表現をすることができる。					
	技能	基礎テクニックを修得し、演奏技術の向上に努めることができる。					
	関心・意欲・態度	指導者と円滑なコミュニケーションを図りながら、積極的な取り組みができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	30	30	-	60
	中間発表(中間試験)		-	5	5	-	10
	受講態度		15	-	-	15	30
	合 計(点)		15	35	35	15	100
評価の特記事項	受講態度は課題等の学修への取組状況で評価します。						
テキスト	『全訳ハノンピアノ教本』全音楽譜出版社、または手持ちのもの(1,296円)ISBN:978-4-11-104010-0 『ツェルニー30番以上の練習曲』指定なし 『J.S.バッハ：インヴェンション・シンフォニア』指定なし						
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内 容							
実施回	授業内容・目標						
1	授業説明(グループFaceTime・LINEビデオ通話使用) 各々が選んだ楽曲を演奏(ICT を活用した双方型授業：授業前日までに演奏動画をLINEにて提出、担当教員がチェックし授業時にFaceTime・LINEビデオ通話等にて指導) [課題(準備)] 選んだ曲をレッスンできるように準備しておく(2～3h)						
2	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品(1) 課題の確認、中間発表(中間試験)曲を中心に正確な譜読み(ICT を活用した双方型授業：授業前日までに演奏動画をLINEにて提出、担当教員がチェックし授業時にFaceTime・LINEビデオ通話等にて指導) [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、各曲1曲ずつ譜読みをする(2～3h)						
3	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品(2) 課題の確認、テクニック練習(ICT を活用した双方型授業：授業前日までに演奏動画をLINEにて提出、担当教員がチェックし授業時にFaceTime・LINEビデオ通話等にて指導) [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、テクニックを向上する(2～3h)						
4	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品(3) 課題の確認、強弱・速度・音楽用語 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、楽譜に忠実に強弱、速度、音楽用語を表現する(2～3h)						
5	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品(4) 課題の確認、暗譜 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、暗譜に取り組む(2～3h)						
6	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品(5) 課題の確認、弾き込み [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、弾き込んで演奏力を高める(2～3h)						
7	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品(6) 課題の確認、仕上げ [課題(復習)] レッソンの復習をし、中間発表(中間試験)に向けて仕上げる(2～3h)						
8	中間発表(中間試験)：調号1つまでのスケール・アルペジオ、練習曲 ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品(試験曲)(1) 試験曲を中心に正確な譜読みの再確認 [課題(予習)] 試験曲の譜読みを再確認する(2～3h)						
9	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品(試験曲)(2) 課題の確認、テクニック練習 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、テクニックを向上する(2～3h)						
10	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品(試験曲)(3) 課題の確認、曲想 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、楽譜を熟読して曲想を付ける(2～3h)						
11	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品(試験曲)(4) 課題の確認、音色 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、楽曲にふさわしい音色を研究する(2～3h)						
12	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品(試験曲)(5) 課題の確認、音楽表現 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、表現力を高める(2～3h)						
13	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品(試験曲)(6) 課題の確認、暗譜 [課題(復習)] レッソンの復習をし、確実に暗譜演奏ができるようにする(2～3h)						
14	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品(試験曲)(7) 課題の確認、弾き込み [課題(復習)] レッソンの復習をし、弾き込んで演奏力を高める(2～3h)						
15	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品(試験曲)(8) 課題の確認、仕上げ [課題(復習)] レッソンの復習をし、音楽性を高め仕上げる(2～3h)						
時間外での学修	レッスン時に次回までの課題が提示されますので、授業外で毎日怠らずに練習し、毎回のレッスンでレベルアップできるよう取り組みましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：38時間】						
受講学生へのメッセージ	レッスン内容を楽譜やノート等を書き留めるなど、自ら学ぶ姿勢で積極的に受講してください。オフィスアワーは各レッスン室で授業前後の休み時間です。						

【3P1S202】ピアノ		音楽総合学科		1年後期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	横井 香織・三ツ橋 義晴						
資格・制限等	P・P/MTコース必修						
実務家教員	横井 : 音楽教室講師・10年 三ツ橋: 音楽教室講師・9年						
授業内容	前期に引き続き、練習曲、バッハの作品に取り組みながら、ロマン派の作品も学びます。前期に学んだ基礎テクニックや練習法を更に発展させ、演奏技術、表現力を高めます。						
授業方法	演習を中心とした個人レッスンをを行います。音楽的知識や技術修得の確認のため、中間発表(中間試験)も含めて授業を展開していきます。						
到達目標	知識・理解	音楽的知識を身に付けて楽譜の理解に努め、作曲家や作品についての知識も修得し、楽曲理解に繋げることができる。					
	思考・判断・表現	音色や響きを追求し、楽曲にふさわしい演奏表現をすることができる。					
	技能	演奏技術の向上に努めることができる。					
	関心・意欲・態度	音楽的感性を養う努力をし、指導者と円滑なコミュニケーションを図りながら、積極的な取り組みができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	30	30	-	60
	中間発表(中間試験)		-	5	5	-	10
	受講態度		15	-	-	15	30
	合 計(点)		15	35	35	15	100
評価の特記事項	受講態度は課題等の学修への取組状況で評価します。						
テキスト	『全訳ハノンピアノ教本』全音楽譜出版社、または手持ちのもの(1,296円)ISBN:978-4-11-104010-0 『ツェルニー30番以上の練習曲』指定なし 『J.S.バッハ:インヴェンション・シンフォニア』指定なし						
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内 容							
実施回	授業内容・目標						
1	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品(1) 休暇中の課題のレッスンの確認 [課題(準備・予習)] 課題をレッスンできるように準備しておく 各曲1曲ずつ正確に譜読みの確認をする(2~3h)						
2	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品(2) 課題の確認、中間発表(中間試験)曲を中心にテクニック練習 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、テクニックを向上する(2~3h)						
3	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品(3) 課題の確認、曲想 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、楽譜を熟読して曲想を付ける(2~3h)						
4	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品(4) 課題の確認、音楽性 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、音楽性を高める(2~3h)						
5	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品(5) 課題の確認、暗譜 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、暗譜に取り組む(2~3h)						
6	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品(6) 課題の確認、弾き込み [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、弾き込んで演奏力を高める(2~3h)						
7	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品(7) 課題の確認、仕上げ [課題(復習)] レッソンの復習をし、中間発表(中間試験)に向けて仕上げる(2~3h)						
8	中間発表(中間試験): 調号2つまでのスケール・アルペジオ、バッハ インヴェンション ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品(試験曲)(1) 試験曲を中心に正確な譜読みの再確認 [課題(予習)] 試験曲の譜読みの再確認をする(2~3h)						
9	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品(試験曲)(2) 課題の確認、テクニック練習 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、テクニックを向上する(2~3h)						
10	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品(試験曲)(3) 課題の確認、曲想 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、楽譜を熟読して曲想を付ける(2~3h)						
11	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品(試験曲)(4) 課題の確認、音色 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、各曲にふさわしい音色を研究する(2~3h)						
12	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品(試験曲)(5) 課題の確認、音楽表現 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、表現力を高める(2~3h)						
13	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品(試験曲)(6) 課題の確認、暗譜 [課題(復習)] レッソンの復習をし、確実に暗譜演奏ができるようにする(2~3h)						
14	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品(試験曲)(7) 課題の確認、弾き込み [課題(復習)] レッソンの復習をし、弾き込んで演奏力を高める(2~3h)						
15	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品(試験曲)(8) 課題の確認、仕上げ [課題(復習)] レッソンの復習をし、音楽的な演奏になるよう仕上げる(2~3h)						
時間外での学修	レッスン時に提示される各々の課題を授業外で毎日怠らず練習し、毎回のレッスンが質の高いレッスンとなるよう取り組みましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間: 38時間】						
受講学生へのメッセージ	レッスンでアドバイスを受けたことを自分の演奏に活かし、演奏力の向上に努めてください。 オフィスアワーは各レッスン室で授業前後の休み時間です。						

【3P1B205】電子オルガン		音楽総合学科		1年前期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	松井 宏行						
資格・制限等	Or・Or/MTコース必修						
実務家教員	松井： 楽器メーカー専属インストラクター・15年 / 楽器店 音楽講師・11年 上園： 音楽講師・31年						
授業内容	電子オルガンにおける様々な音楽ジャンルの演奏を経験・追究し、トータルで安定した演奏基盤を身につけます。具体的には、前半で 得意な音楽ジャンルのレパートリー演奏を追究し、後半では その他様々なジャンルの演奏を広く経験し、多様なジャンルへの演奏対応力を身につけ、新たな得意ジャンルを探索します。個人の演奏力や知識に応じて、その場で必要な楽器の操作 / レジストレーション等の制作力もカバーしていきます。						
授業方法	個人レッスン。ここのレベルにあった指導を行います。						
到達目標	知識・理解	取り組む楽曲において、その曲の構成や、用いられている表現手法を理解できる。					
	思考・判断・表現	取り組む楽曲において、楽譜から読み取れる情報をもとに、適切に演奏に取り入れて表現することができる。					
	技能	取り組む楽曲に対して、自らのこだわりを持って演奏することができる。					
	関心・意欲・態度	各曲を演奏する上で生じる疑問点を、自ら発見し、質問できる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	実技試験		20	25	25	-	70
	準備・課題		5	5	5	-	15
	受講態度		-	-	-	15	15
	合 計(点)		25	30	30	15	100
評価の特記事項	実技試験は、授業で取り組んだうちの2曲（得意ジャンル1曲 / その他ジャンル1曲）の演奏発表で評価します。また、準備・課題は、毎週の練習の結果で評価します。						
テキスト	これまで自身で取り組んだことのある得意ジャンルのレパートリーから2曲程度ピックアップし、第1週授業の際に 楽譜・レジストデータなどを準備してきてください。（この授業のために、新たに選曲し取り組んだ曲でも構いません。） その他に、個人の必要に応じて授業開始後テキストを案内する場合があります。						
参考書・教材	授業開始後、必要に応じて参考書・楽譜などを案内します。						
内 容							
実施回	授業内容・目標						
1	これまでの演奏経験や現在の演奏レパートリーの確認 / 今後のレッスン内容の方向性を検討～決定 [課題(準備)] 決定した得意ジャンルの演奏曲を練習し、まず自身の力の範囲内で仕上げてくる(2～3h)						
2	得意ジャンルのレパートリーにおける演奏追究(1) 例・演奏全体へのアドバイス（リズムの感じ方など） [課題(復習)] 全体的にアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する(2～3h)						
3	得意ジャンルのレパートリーにおける演奏追究(2) 例・鍵盤タッチ奏法 [課題(復習)] アドバイスされた箇所（例・鍵盤タッチ奏法）を練習し、演奏に反映する(2～3h)						
4	得意ジャンルのレパートリーにおける演奏追究(3) 例・エクスペリションペダル奏法 [課題(復習)] アドバイスされた箇所（例・Exp.ペダル奏法）を練習し、演奏に反映する(2～3h)						
5	得意ジャンルのレパートリーにおける演奏追究(4) 例・まとめのアドバイス [課題(復習)] アドバイスされた箇所を全体を復習し、演奏に反映する(2～3h)						
6	その他ジャンルへの演奏取り組み[1曲目](1) 例・クラシック [課題(復習)] アドバイスされた箇所（例・タッチ奏法）を練習し、演奏に反映する(2～3h)						
7	その他ジャンルへの演奏取り組み[1曲目](2) [課題(復習)] アドバイスされた箇所（例・Exp.ペダル奏法）を練習し、演奏に反映する(2～3h)						
8	その他ジャンルへの演奏取り組み[2曲目](1) 例・Jazz [課題(復習)] アドバイスされた箇所（例・リズム感）を練習し、演奏に反映する(2～3h)						
9	その他ジャンルへの演奏取り組み[2曲目](2) [課題(復習)] アドバイスされた箇所（例・タッチ奏法）を練習し、演奏に反映する(2～3h)						
10	その他ジャンルへの演奏取り組み[3曲目](1) 例・ラテン [課題(復習)] アドバイスされた箇所（例・リズム感）を練習し、演奏に反映する(2～3h)						
11	その他ジャンルへの演奏取り組み[3曲目](2) [課題(復習)] アドバイスされた箇所（例・タッチ奏法）を練習し、演奏に反映する(2～3h)						
12	その他ジャンルへの演奏取り組み[4曲目](1) 例・フュージョン / ニューエイジミュージック [課題(復習)] アドバイスされた箇所（例・2nd Exp.ペダル奏法）を練習し、演奏に反映する(2～3h)						
13	その他ジャンルへの演奏取り組み[4曲目](2) [課題(復習)] アドバイスされた箇所（例・ホリゾンタルタッチ奏法）を練習し、演奏に反映する(2～3h)						
14	得意ジャンルのレパートリー曲 演奏の仕上がりの確認と最終アドバイス [課題(他)] 得意ジャンルのレパートリー曲について、演奏全体を仕上げる(2～3h)						
15	その他ジャンルからの選択曲 演奏の仕上がりの確認と最終アドバイス [課題(他)] その他ジャンルからの選択曲について、演奏全体を仕上げる(2～3h)						
時間外での学修	・第6週～第13週の間も、第14週授業に向けて、前半で取り組んだ曲の練習を継続しましょう。 ・第15週授業では、第6週～第13週で取り組んだその他ジャンルの演奏曲の中から、実技試験で演奏したい1曲を選曲して取り組みます。第13週授業を終えた段階で、取り組む曲を決定して練習しましょう。 * [課題]は授業の到達目標達成に必要な内容ですので、()内の標準学習時間をめどにして、授業外で確実に学習を進めましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：40時間】						
受講学生へのメッセージ	皆さんが既に演奏しているレパートリーも、実はまだまだ奥の深いものかも知れません。この授業前半では、その奥深さを知り、一歩踏み込んだ演奏に取り組んでみましょう。また後半で、新たな得意ジャンルを開拓しましょう。 【オフィスアワー】当授業の教室にて 授業時間の前後5分程度						

【3P1S206】電子オルガン		音楽総合学科		1年後期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	松井 宏行						
資格・制限等	Or・Or/MTコース必修						
実務家教員	松井： 楽器メーカー専属インストラクター・15年 / 楽器店 音楽講師・11年 上園： 音楽講師・31年						
授業内容	電子オルガンの演奏力向上とともに、レパートリーの拡充に取り組みます。具体的には、前半で 自身で選曲した新規レパートリーの演奏に取り組み、後半では 与えられた課題曲の演奏に取り組みます。どちらの曲においても、細部にまでこだわった演奏を目指します。個人の演奏力や知識に応じて、その場で必要な楽器の操作 / レジストレーション等の制作力もカバーしていきます。						
授業方法	個人レッスン。ここのレベルにあった指導を行います。						
到達目標	知識・理解	取り組む楽曲において、その曲の構成や、用いられている表現手法を理解できる。					
	思考・判断・表現	取り組む楽曲において、楽譜から読み取れる情報をもとに、適切に演奏に取り入れて表現することができる。					
	技能	取り組む楽曲に対して、自らのこだわりを持って演奏することができる。					
	関心・意欲・態度	各曲を演奏する上で生じる疑問点を、自ら発見し、質問できる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		20	25	25	-	70
	準備・課題		5	5	5	-	15
	受講態度		-	-	-	15	15
	合 計(点)		25	30	30	15	100
評価の特記事項	実技試験は、授業で取り組んだ自由曲1曲/課題曲1曲の演奏発表で、準備・課題は、毎週の練習の成果で評価します。						
テキスト	第1週授業の際に、前半で取り組む自由曲の候補曲（2曲程度）の楽譜・レジストデータなどを準備してきてください。その他に、個人の必要に応じて 授業開始後 テキストを案内する場合があります。						
参考書・教材	授業開始後、必要に応じて 参考書・楽譜などを案内します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	前半で取り組む自由曲の候補曲を確認 / 今後のレッスン内容の方向性を検討～決定 [課題(準備)] 決定した自由曲の練習を開始し、まず自身の力の範囲内で曲の冒頭から1/3程度まで仕上げてくる(2～3h)						
2	自由曲における演奏追究（1） 曲の冒頭から1/3程度まで [課題(復習)] 曲の冒頭から1/3程度までアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する(2～3h)						
3	自由曲における演奏追究（2） 前回と同範囲 [課題(復習)] 曲のつづき～2/3程度まで 仕上げてくる(2～3h)						
4	自由曲における演奏追究（3） 曲のつづき～2/3程度まで [課題(復習)] 曲の2/3程度までアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する(2～3h)						
5	自由曲における演奏追究（4） 前回と同範囲 [課題(復習)] 曲のつづき～最後まで 仕上げてくる(2～3h)						
6	自由曲における演奏追究（5） 曲全体 [課題(復習)] 曲全体のアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する(2～3h)						
7	自由曲における演奏追究（6） 前回と同範囲 [課題(準備)] 後半で取り組む課題曲の練習を開始し、まず自身の力の範囲内で曲の冒頭から1/3程度まで仕上げてくる(2～3h)						
8	課題曲における演奏追究（1） 曲の冒頭から1/3程度まで [課題(復習)] 曲の冒頭から1/3程度までアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する(2～3h)						
9	課題曲における演奏追究（2） 前回と同範囲 [課題(復習)] 曲のつづき～2/3程度まで 仕上げてくる(2～3h)						
10	課題曲における演奏追究（3） 曲のつづき～2/3程度まで [課題(復習)] 曲の2/3程度までアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する(2～3h)						
11	課題曲における演奏追究（4） 前回と同範囲 [課題(復習)] 曲のつづき～最後まで 仕上げてくる(2～3h)						
12	課題曲における演奏追究（5） 曲全体 [課題(復習)] 曲全体のアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する(2～3h)						
13	課題曲における演奏追究（6） 前回と同範囲 [課題(他)] 前半で取り組んだ自由曲を再度仕上げてくる(2～3h)						
14	自由曲演奏の仕上がりの確認と最終アドバイス [課題(他)] 自由曲の演奏全体を仕上げ、課題曲も仕上げてくる。(2～3h)						
15	課題曲演奏の仕上がりの確認と最終アドバイス [課題(他)] 課題曲のアドバイスされた箇所を練習し、演奏全体を仕上げる(2～3h)						
時間外での学修	・ 授業開始前に、この授業前半で取り組む自由曲の候補曲を2曲用意し、簡単に譜読みを済ませておいてください。 ・ 第8週～第13週の間も、第14週授業に向けて、前半で取り組んだ自由曲を練習しましょう。 * [課題]は授業の到達目標達成に必要な内容ですので、()内の標準学習時間をめどにして、授業外で確実に学習を進めましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：40時間】						
受講学生へのメッセージ	自分で選んだ曲と、与えられた課題曲という2つの対照的な演奏を、平等に取り組んでみましょう。いずれの楽曲においても深くこだわった練習をしていきます。魅力的な演奏に上げると同時に、皆さんのレパートリーを増強していきましょう。 [オフィスアワー]当授業の教室にて 授業時間の前後5分程度						

【302B205】副科ピアノ		音楽総合学科		1年前期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	横井 香織						
資格・制限等	Or・Or/MTコース必修						
実務家教員	音楽教室講師・10年						
授業内容	ピアノ演奏に必要なとされる強く独立性のある指作り、自らの体で強弱や音色を創り出し表現する演奏技術を修得します。						
授業方法	演習を中心とした個人レッスンを行います。音楽的知識や技術修得に向け、学修成果の発表も含めて授業を展開していきます。						
到達目標	知識・理解	幅広い音楽的知識を身に付け、ピアノ演奏法を理解することができる。					
	思考・判断・表現	楽曲に対する思考力を働かせ、ふさわしい演奏表現をすることができる。					
	技能	演奏技術を向上することができる。					
	関心・意欲・態度	指導者と円滑なコミュニケーションを図りながら、常にピアノに関心を持って積極的な取り組みができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	30	30	-	60
	受講態度		20	-	-	20	40
	合 計(点)		20	30	30	20	100
評価の特記事項	受講態度は課題等の学修への取組状況で評価します。						
テキスト	『全訳ハノンピアノ教本』全音楽譜出版社(1,296円)ISBN:978-4-11-104010-0 『ツェルニー30番以上の練習曲』指定なし 『ソナチネアルバム1』または『ソナタアルバム1』指定なし						
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内 容							
実施回	授業内容・目標						
1	授業説明 曲決め [課題(準備)] 楽譜を持っている学生は楽譜を持参する(1~2h)						
2	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(1) 正確な譜読み [課題(予習)] 各曲1曲ずつ正確に譜読みをする(1~2h)						
3	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(2) 課題の確認、テクニック練習 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、スムーズに弾けるようにする(1~2h)						
4	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(3) 課題の確認、テクニックの向上 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、反復練習をしてテクニックを向上する(1~2h)						
5	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(4) 課題の確認、強弱 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、強弱を付ける(1~2h)						
6	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(5) 課題の確認、曲想 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、音楽用語を調べ、曲想を付ける(1~2h)						
7	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(6) 課題の確認、テンポアップ [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、徐々にテンポを上げて弾けるようにする(1~2h)						
8	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(7) 課題の確認、試験曲を中心に部分練習 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、演奏が困難な箇所を反復練習し、演奏技術を高める(1~2h)						
9	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(8) 課題の確認、音色づくり [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、楽曲にふさわしい音色を考える(1~2h)						
10	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(9) 課題の確認、バランス [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、響きのバランスを考える(1~2h)						
11	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(10) 課題の確認、音楽表現 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、楽曲にふさわしい音楽表現をする(1~2h)						
12	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(11) 課題の確認、暗譜 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、暗譜に取り組む(1~2h)						
13	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(12) 学修成果の発表、課題の確認、確実な暗譜 [課題(復習)] レッソンの復習をし、確実に暗譜演奏ができるようにする(1~2h)						
14	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(13) 課題の確認、弾き込み [課題(復習)] レッソンの復習をし、よく弾き込む(1~2h)						
15	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(14) 課題の確認、仕上げ [課題(復習)] レッソンの復習をし、試験に向けて仕上げる(1~2h)						
時間外での学修	授業外で毎日ピアノを練習する習慣を身に付け、毎回のレッスンでレベルアップするように取り組みましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：23時間】						
受講学生へのメッセージ	レッスン内容を自ら楽譜やノート等へ書き留めるなど、自ら学ぶ姿勢で積極的に受講してください。オフィスアワーはB206で毎週金曜日の午後です。						

【302S206】副科ピアノ		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	横井 香織						
資格・制限等	Or・Or/MTコース必修						
実務家教員	音楽教室講師・10年						
授業内容	前期に修得した基礎を土台とし、個々の目標に合わせた曲目やバッハや古典派の作品も取り入れながら、更にピアノの演奏技術を高め、表現力を身に付けていきます。						
授業方法	演習を中心とした個人レッスンを行います。音楽的知識や技術修得に向け、学修成果の発表も含めて授業を展開していきます。						
到達目標	知識・理解	幅広い音楽的知識を身に付け、ピアノ演奏法を理解することができる。					
	思考・判断・表現	楽曲に対する思考力を働かせ、ふさわしい演奏表現をすることができる。					
	技能	演奏技術を向上することができる。					
	関心・意欲・態度	指導者と円滑なコミュニケーションを図りながら、常にピアノに関心を持って積極的な取り組みができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	30	30	-	60
	受講態度		20	-	-	20	40
	合 計(点)		20	30	30	20	100
評価の特記事項	受講態度は課題等の学修への取組状況で評価します。						
テキスト	『全訳ハノンピアノ教本』全音楽譜出版社(1,296円) ISBN:978-4-11-104010-0 『ツェルニー30番以上の練習曲』指定なし 『ソナチネアルバム1』または『ソナタアルバム1』指定なし						
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(1) 休暇中の課題のレッスン [課題(準備)] 初回の授業でレッスンできるよう練習しておく(1~2h)						
2	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(2) 課題の確認、譜読みの確認 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、譜読みが正確にできているか確認する(1~2h)						
3	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(3) 課題の確認、テクニック練習 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、テクニックを向上する(1~2h)						
4	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(4) 課題の確認、テクニックの向上 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、反復練習をしてテクニックをさらに向上する(1~2h)						
5	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(5) 課題の確認、強弱 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、強弱を付ける(1~2h)						
6	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(6) 課題の確認、曲想 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、音楽用語を調べ、曲想を付ける(1~2h)						
7	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(7) 課題の確認、テンポアップ [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、徐々にテンポを上げて弾けるようにする(1~2h)						
8	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(8) 課題の確認、試験曲を中心に部分練習 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、演奏が困難な個所を反復練習し、演奏技術を高める(1~2h)						
9	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(9) 課題の確認、音色づくり [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、楽曲にふさわしい音色を考える(1~2h)						
10	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(10) 課題の確認、バランス [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、響きのバランスを考える(1~2h)						
11	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(11) 課題の確認、音楽表現 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、楽曲にふさわしい音楽表現をする(1~2h)						
12	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(12) 課題の確認、暗譜 [課題(復習)] レッソンの復習をし、暗譜に取り組む(1~2h)						
13	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(13) 学修成果の発表、課題の確認、確実な暗譜 [課題(復習)] レッソンの復習をし、確実に暗譜演奏ができるようにする(1~2h)						
14	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(14) 課題の確認、弾き込み [課題(復習)] レッソンの復習をし、よく弾き込む(1~2h)						
15	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(15) 課題の確認、仕上げ [課題(復習)] レッソンの復習をし、試験に向けて仕上げる(1~2h)						
時間外での学修	授業外での毎日の練習を怠らず、毎回のレッスンでレベルアップするように取り組みましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：23時間】						
受講学生へのメッセージ	自らの指や体で音色を創り出して、自然な演奏ができるよう、積極的に演奏法を修得しましょう。 オフィスアワーはB206で毎週金曜日の午後です。						

【3P1B205】副科電子オルガン		音楽総合学科		1年前期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	相原 里美						
資格・制限等	P・P/MTコース必修						
実務家教員	音楽教室講師・26年						
授業内容	電子オルガンの演奏法を学びます。ステージアの基本的な操作を勉強します。又、市販のデータを分析し、入力技術を学び、演奏法を研究し修得します。						
授業方法	毎週1回の個人レッスンです。個々のレベルにあった指導をします。時には、数名で協力しあってデータを入力することもあります。						
到達目標	知識・理解	色々なジャンルの音楽を体験し理解できる。					
	思考・判断・表現	楽譜からアレンジャーの意図が読み取れる。					
	技能	データをいかした演奏力の向上 表情豊かな演奏ができる。					
	関心・意欲・態度	学んだ内容を復習、理解し、練習する。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		15	15	40	-	70
	授業態度		-	-	-	15	15
	課題に対する練習状況		-	-	-	15	15
合 計(点)		15	15	40	30	100	
評価の特記事項	実技試験は、授業で取り組んだ自由曲演奏の発表で、評価します。						
テキスト	個々に合わせて選択します。						
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス・今後の授業の進め方 etc. ICTを活用した双方向型授業（LINE使用） 授業時、LINE通話にて指導 [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1～2h)						
2	電子オルガンの操作法など、課題の確認 ICTを活用した双方向型授業（LINE使用） 電子オルガンの演奏を視聴し、感想等をLINEにて提出 担当教員がチェックし、授業時にLINE通話にて指導 [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1～2h)						
3	電子オルガンの奏法、課題の確認 ICTを活用した双方向型授業（LINE使用） コードネーム付きメロディー譜を3段譜に書き、LINEにて提出 担当教員がチェックし、授業時にLINE通話にて指導 [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1～2h)						
4	レジストについて、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、各楽器の音域に気を付けながらレジストを組む(1～2h)						
5	強弱(EXP.P)、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、EXP.Pを使用し強弱をつけられるようにする(1～2h)						
6	ベース奏法について、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、ベースに慣れる(1～2h)						
7	簡単な3段譜の演奏をしてみる、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、ゆっくりなテンポで弾けるようにする(1～2h)						
8	試験に向けての取り組み（１）選曲、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、選曲後に各自譜読みに取り組む(1～2h)						
9	試験に向けての取り組み（２）譜読みの確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、正確に譜読みを行う(1～2h)						
10	試験に向けての取り組み（３）強弱、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、強弱をつけて弾けるようにする(1～2h)						
11	試験に向けての取り組み（４）奏法の研究、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、タッチに気を付けて弾けるようにする(1～2h)						
12	試験に向けての取り組み（５）レジスト分析、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、タッチを活かし、曲に合った弾き方ができるようにする(1～2h)						
13	試験に向けての取り組み（６）全体の流れ、バランスの確認、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、全体の流れを考えながら弾き込む(1～2h)						
14	試験に向けての取り組み（７）暗譜、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、暗譜に取り組む(1～2h)						
15	試験に向けての取り組み（８）仕上げ、課題の確認 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、試験に向けて弾き込んで仕上げる(1～2h)						
時間外での学修	色々なジャンルの音楽をたくさん聴きましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：22時間】						
受講学生へのメッセージ	空き時間を利用して、毎日練習しましょう。 [オフィスアワー]当授業の教室にて、授業時間の前後の休み時間です。						

【3P1S206】副科電子オルガン		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	相原 里美						
資格・制限等	P・P/MTコース必修						
実務家教員	音楽教室講師・26年						
授業内容	色々なジャンルの音楽を体験します。市販曲の構成、編曲を理解しながらデータを分析、参考にして、入力技術を学び、小アレンジに挑戦します。前期と同様、演奏法を研究し修得します。						
授業方法	毎週1回の個人レッスンです。個々に適した指導を行います。						
到達目標	知識・理解	色々なジャンルの音楽を体験し理解できる。					
	思考・判断・表現	楽譜からアレンジャーの意図が読み取れる。					
	技能	データをいかした演奏力の向上。 表情豊かな演奏ができる。					
	関心・意欲・態度	学んだ内容を復習、理解し、練習する。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		15	15	40	-	70
	授業態度		-	-	-	15	15
	課題に対する練習状況		-	-	-	15	15
	合 計(点)		15	15	40	30	100
評価の特記事項	実技試験は、授業で取り組んだ自由曲の発表で、評価します。						
テキスト	個々に合わせて選択します。						
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内 容							
実施回	授業内容・目標						
1	休暇中の宿題を発表する、選曲 [課題(準備)]選曲後、各自譜読みに取り組む(1～2h)						
2	前期の復習、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、次の曲の練習をする(1～2h)						
3	レパートリーを増やす(1) 譜読みの確認、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、見落としのないよう正確な譜読みを行う(1～2h)						
4	レパートリーを増やす(2) オルガン奏法、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、曲に合った弾き方ができるようにする(1～2h)						
5	電子オルガンの操作など、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、ステージアの機能を使ってみる(1～2h)						
6	レジストについて、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、各楽器の音域、組み合わせを考えながらレジストを組む(1～2h)						
7	データ分析、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、入力技術を理解する(1～2h)						
8	小アレンジに挑戦：アレンジ方法、選曲、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、選曲後、各自アレンジに取り組かかる(1～2h)						
9	小アレンジに挑戦：取り組み(1) 課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、アレンジを進める(1～2h)						
10	小アレンジに挑戦：取り組み(2) 課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、さらにアレンジを進める(1～2h)						
11	試験に向けての取り組み(1) 課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、選曲後に各自譜読みに取り組む(1～2h)						
12	試験に向けての取り組み(2) 譜読みの確認、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、正確な譜読みを行う(1～2h)						
13	試験に向けての取り組み(3) 全体の流れ、バランスの確認、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、全体の流れを考えながら弾き込む(1～2h)						
14	試験に向けての取り組み(4) 暗譜、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、暗譜に取り組む(1～2h)						
15	試験に向けての取り組み(5) 発表、仕上げ、課題の確認 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、試験に向けて弾き込んで仕上げる(1～2h)						
時間外での学修	色々なジャンルの音楽をたくさん聴きましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:22時間】						
受講学生へのメッセージ	毎日の練習を怠らない様、空き時間を利用して、電子オルガンに向いましょう。 [オフィスアワー]当授業の教室にて、授業前後の休み時間です。						

【3S3S202】P・O r アンサンブル		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	横井 香織・相原 里美						
資格・制限等	P・Or・P/MT・Or/MTコース必修						
実務家教員	横井：音楽教室講師・10年 相原：音楽教室講師・26年						
授業内容	ピアノ連弾や2台ピアノ、2台電子オルガン、ピアノと電子オルガンのデュオなど、ソロとは違ったアンサンブルの音色や魅力、連帯感を楽しみながら、アンサンブルにおける演奏技術や表現力を身に付けます。また、アンサンブルを通して人と合わせることの難しさや大切さ、協調性や責任感なども学びます。						
授業方法	演習を中心とした1組ずつの演奏・指導を行います。アンサンブル演奏の知識・技術修得の確認のため、発表も含めて授業を展開していきます。						
到達目標	知識・理解	各アンサンブル形態における演奏法についての知識を身に付け、理解することができる。					
	思考・判断・表現	楽曲についてパートナーと研究し、楽曲にふさわしい演奏表現をすることができる。					
	技能	アンサンブル演奏の技術を身に付け、各パートを把握・理解しながら、バランスの良いハーモニーで息の合った演奏をすることができる。					
	関心・意欲・態度	パートナーと充分なコミュニケーションを図りながら積極的に取り組み、協調性・責任感を養うことができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	30	30	-	60
	発表		-	5	5	-	10
	受講態度		10	-	-	20	30
	合 計(点)		10	35	35	20	100
評価の特記事項	受講態度は学修への取組状況で評価します。						
テキスト							
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1(横井)	授業説明(今後の授業の進め方等)、パートナー決め、選曲(ピアノ連弾曲) [課題(準備)] ピアノ連弾の演奏会や動画などで、ピアノ連弾とはどのようなものか観ておく 選曲後、各自譜読みに取り組む(1~2h)						
2(横井)	ピアノ連弾曲(1)課題の確認、譜読みの確認 [課題(予習・復習)] 見落としのないよう、正確に譜読みを行う(1~2h)						
3(横井)	ピアノ連弾曲(2)課題の確認、合わせ [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、パートナーと合わせて弾けるようにしておく(1~2h)						
4(横井)	ピアノ連弾曲(3)課題の確認、バランスの確認 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、自分のパートの役割を理解して、全体のバランスを考える(1~2h)						
5(横井)	ピアノ連弾曲(4)課題の確認、曲想 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、パートナーと楽曲を研究し、曲想を付ける(1~2h)						
6(横井)	ピアノ連弾曲(5)発表、課題の確認、音楽表現 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、表現力豊かな演奏ができるように弾き込む(1~2h)						
7(横井)	ピアノ連弾曲(6)課題の確認、仕上げ [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、バランス、呼吸、音楽表現を確認しながら仕上げる(1~2)						
8(横井)	ピアノ連弾曲試験 [課題(復習)] レッソンの復習をし、試験に向けて弾き込む(1~2h)						
9(相原)	授業説明(今後の授業の進め方等)、パートナー決め、選曲(2台電子オルガン曲) [課題(準備)] 動画などで2台電子オルガンのアンサンブルとはどのようなものか観ておく 選曲後、各自譜読みに取り組む。(1~2h)						
10(相原)	2台電子オルガン曲(1)課題の確認、譜読みの確認 [課題(予習・復習)] 見落としのないよう、正確に譜読みを行う(1~2h)						
11(相原)	2台電子オルガン曲(2)課題の確認、合わせ [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、パートナーと合わせて弾けるようにしておく(1~2h)						
12(相原)	2台電子オルガン曲(3)課題の確認、バランスの確認 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、自分のパートの役割を理解して、全体のバランスを考える(1~2h)						
13(相原)	2台電子オルガン曲(4)課題の確認、曲想 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、パートナーと楽曲を研究し、曲想を付ける(1~2h)						
14(相原)	2台電子オルガン曲(5)発表、課題の確認、音楽表現 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、表現力豊かな演奏ができるように弾き込む(1~2h)						
15(相原)	2台電子オルガン曲(6)課題の確認、仕上げ [課題(復習)] レッソンの復習をし、バランス、呼吸、音楽表現を確認しながら試験に向けて弾き込む(1~2h)						
時間外での学修	アンサンブル演奏の前提として、個々のパートの演奏力が必要です。責任を持って授業外で個々の練習を行い、授業までにパートナーと合わせ、毎回の授業でアンサンブル演奏が成立するように準備しましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：23時間】						
受講学生へのメッセージ	一人でも授業を欠席するとアンサンブルとしてのレッスンができませんので、欠席をしないようにしてください。 オフィスアワーは授業教室で授業前後の休み時間です。						

【3S3S201】伴奏法(P)		音楽総合学科		1年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	横井 香織						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	音楽教室講師・10年						
授業内容	伴奏法として誰もが思い浮かぶことの一つに、メロディよりも控えめに演奏するということが挙げられるでしょう。しかし、それだけでは充分ではないことも周知のことです。この授業では、主に歌曲を用いて伴奏法を学修しますが、伴奏譜を弾くだけではなく、メロディの歌詞の理解、呼吸、フレージング、構成などを深く理解することが大切であり、その理解が楽曲にふさわしい音楽表現に繋がると考えられます。これらを理解するために効果的な弾き歌いも学修し、また、様々な場面に対応するために、コードネーム付きメロディ譜の伴奏付けも学修します。						
授業方法	演習を中心として、一人ずつ演奏・指導します。伴奏法の知識と技術を身に付けるために、発表も含めて授業を展開していきます。						
到達目標	知識・理解	音楽的知識を身に付け、理解することができる。					
	思考・判断・表現	楽曲を深く研究して理解し、ふさわしい演奏表現をすることができる。					
	技能	適切な呼吸、フレージング、メロディとのバランスを考えた伴奏ができる。					
	関心・意欲・態度	伴奏者としてのコミュニケーション力や協調性を養いながら、積極的に学修することができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験	-	30	40	-	70	
	受講態度	10	-	-	20	30	
	合 計(点)	10	30	40	20	100	
評価の特記事項	受講態度は学修への取組状況で評価します。						
テキスト	『コンコーネ50番 中声用』全音楽譜出版社(972円) ISBN:978-4-11-711420-1						
参考書・教材	その都度提示します。						
内 容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス 授業の進め方について・伴奏について(グループLINEビデオ通話使用) [課題(準備)] ピアノ伴奏のある演奏会や動画等で、伴奏とはどのようなものが観ておく(1~2h)						
2	弾き歌い(1) 伴奏の譜読み(ICTを活用した双方向型授業: 授業前日までに演奏動画をLINEにて提出、担当教員がチェックし授業時にFaceTime・LINEビデオ通話等にて指導) [課題(予習)] ひと通り弾けるようにしておく(1~2h)						
3	弾き歌い(2) 伴奏の確認、課題の確認(ICTを活用した双方向型授業: 授業前日までに演奏動画をLINEにて提出、担当教員がチェックし授業時にFaceTime・LINEビデオ通話等にて指導) [課題(予習・復習)] 授業の復習をし、スムーズに弾けるようにしておく(1~2h)						
4	弾き歌い(3) メロディの把握、課題の確認 [課題(予習・復習)] 授業の復習をし、メロディを歌いながら伴奏を付けて弾き歌いができるようにしておく(1~2h)						
5	弾き歌い(4) ブレス・フレージング・バランス、課題の確認 [課題(予習・復習)] 授業の復習をし、メロディとともにブレスを取り、フレージング、バランスを考える(1~2h)						
6	歌曲伴奏(1) メロディと伴奏の把握 [課題(予習)] メロディと伴奏を弾けるようにしておく(1~2h)						
7	歌曲伴奏(2) ブレス・フレージング・バランス、課題の確認 [課題(予習・復習)] 授業の復習をし、メロディとともにブレスを取り、フレージング、バランスを考える(1~2h)						
8	歌曲伴奏(3) 曲想・音楽表現、課題の確認 [課題(予習・復習)] 授業の復習をし、楽曲にふさわしい曲想・表現を考える(1~2h)						
9	コードネーム付きメロディ(1) コードネームについて [課題(予習)] コードネームの知識を修得する(1~2h)						
10	コードネーム付きメロディ(2) 片手伴奏・両手伴奏について、課題の確認 [課題(予習・復習)] 授業の復習をし、譜読みをしておく(1~2h)						
11	コードネーム付きメロディ(3) 曲想・音楽表現、課題の確認 [課題(予習・復習)] 楽曲にふさわしい音楽表現ができるようにする(1~2h)						
12	試験曲(1) 譜読み・コード付け、課題の確認 [課題(予習)] 正確な譜読み、コード付けをしておく(1~2h)						
13	試験曲(2) テクニックの向上、課題の確認 [課題(予習・復習)] 授業の復習をし、スムーズに弾けるようにする(1~2h)						
14	試験曲(3) ブレス、音楽表現、課題の確認 [課題(予習・復習)] 授業の復習をし、メロディのブレスに合わせて弾けるようにし、楽曲にふさわしい音楽表現を考える(1~2h)						
15	試験曲(4) 仕上げ、課題の確認 [課題(復習)] 授業の復習をし、メロディとのバランス、曲想などを再確認する(1~2h)						
時間外での学修	伴奏法の知識と技術を修得するために、授業外でも歌曲や器楽曲の演奏会に出掛けたり、CD等を聴くなどして、積極的にメロディと伴奏のバランス、伴奏の理解に努めましょう。 【この科目望ましい授業外での総学修時間: 23時間】						
受講学生へのメッセージ	伴奏によって楽曲の完成度が違ってきます。演奏技術や表現力を磨き、伴奏に活かしてください。オフィスアワーは研究室B206で毎週金曜日の午後です。						

【302B209】サウンドメイク		音楽総合学科		1年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	松井 宏行						
資格・制限等	Or・Or/MTコース必修						
実務家教員	楽器メーカー専属インストラクター・15年 / 楽器店 音楽講師・11年						
授業内容	現代の音楽には様々な表現手法が存在します。現代で音楽を演奏する者として知っておくべき、社会に溢れる音楽の様々な表現手法を、電子オルガンにおいて仮想的に体験し認識を深めます。前期は、具体的には、電子オルガンの操作習得 / 電子音の仕組み理解 / エフェクトの知識学修 / リズムの打ち込み制作などに取り組みます。						
授業方法	＜演習＞ ・種々の表現手法について紙面上で知識を学修し、それらを電子オルガン上で再現していきます。 ・電子オルガンを活用し、詳細な操作・再現手法をマスターしていきます。 ・授業終盤では、学んだ知識や操作を活かし、総合的な応用制作に取り組みます。						
到達目標	知識・理解	様々な表現手法を知り、世の中に溢れる音楽において、それらの存在を理解できる。					
	思考・判断・表現	与えられた情報をもとに、適切な表現手法を選択し、適切なサウンドを構成できる。					
	技能	種々の表現手法において、こだわりをもった調整ができる。					
	関心・意欲・態度	表現手法を研究する上で生じる疑問を、自ら発見し、質問できる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		20	10	-	-	30
	実技試験		15	20	15	-	50
	受講態度		-	-	-	20	20
	合 計(点)		35	30	15	20	100
評価の特記事項	筆記試験は、修得した知識に関する設問に対して、紙面上で回答する形式です。実技試験は、与えられる課題に対して、楽器を操作して制作物を作り、提出します。						
テキスト	なし						
参考書・教材	各回の内容の必要に応じて受講資料をプリントで配付						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	授業の概要紹介～電子オルガンの操作習得（１）パネル上のボタン配置の把握 [課題(復習)] パネル上のボタンの操作・知識を復習する（1h）						
2	電子オルガンの操作習得（２）ディスプレイセレクトについて [課題(復習)] ディスプレイセレクトの操作・知識を復習する（1h）						
3	電子オルガンの操作習得（３）各種の詳細設定画面の概要把握 [課題(復習)] 各種の詳細設定画面の操作・知識を復習する（1h）						
4	電子オルガンの知識（１）音源について [課題(復習)] 音源について知識を復習する（1h）						
5	電子オルガンの操作習得（４）ボイスのセレクト～ボイスコンディションについて [課題(復習)] ボイスのセレクト～ボイスコンディションの操作・知識を復習する（1h）						
6	電子オルガンの操作習得（５）リズムの基本操作 [課題(復習)] リズムの操作・知識を復習する（1h）						
7	電子オルガンの知識（２）RPPの仕組みについて [課題(復習)] RPPの仕組みについて知識を復習する（1h）						
8～10	電子オルガンの操作習得（６）リズムパターンの作成 [課題(復習)] リズムパターン作成の操作・知識を復習する（1h）						
11	電子オルガンの知識（３）エフェクトについて：空間系・モジュレーション系 [課題(復習)] 空間系・モジュレーション系エフェクトの知識を復習する（1h）						
12	電子オルガンの知識（４）エフェクトについて：歪み系・ダイナミクス系・その他 [課題(復習)] 歪み系・ダイナミクス系・その他のエフェクトの知識を復習する（1h）						
13	電子オルガンの知識（５）ボイスエディットについて [課題(復習)] ボイスエディットについて知識を復習する（1h）						
14	電子オルガンの操作習得（７）ボイスエディットの活用cc [課題(復習)] ボイスエディット活用の操作・知識を復習する（1h）						
15	前期で習得した事項を活かしたトータル制作 [課題(他)] 実技試験に向けた制作練習(1h)						
時間外での学修	各回の演習で学ぶ電子オルガンの操作は、同様の操作を繰り返し経験していくことで身につくものです。演習で取り扱った内容は、日頃から積極的に操作してみるようにしましょう。また、演習で得た知識は、電子オルガンに限らず、現代の様々な音楽の表現手法につながります。身の回りの音楽ではどのように活用されているか、常に意識して音楽と接すると良いでしょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】						
受講学生へのメッセージ	細かい操作や耳馴染みのない用語が多く登場するかもしれませんが、実はいずれも身近にある音楽に深く関わっているものです。電子音楽の視点から、様々な音楽のサウンドを多角的に探求してみましょう。 [オフィスアワー]当授業の教室にて 授業時間の前後5分程度						

【302S210】サウンドメイク		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	松井 宏行						
資格・制限等	Or・Or/MTコース必修						
実務家教員	楽器メーカー専属インストラクター・15年 / 楽器店 音楽講師・11年						
授業内容	現代の音楽には様々な表現手法が存在します。現代で音楽を演奏する者として知っておくべき、社会に溢れる音楽の様々な表現手法を、電子オルガンにおいて仮想的に体験し認識を深めます。後期は、具体的には、オーケストラ系 / ポピュラー系などのジャンルごとに楽曲例を取り上げ、精巧なサウンドメイク（音作り）に取り組みます。						
授業方法	< 演習 > ・種々の表現手法について紙面上で知識を学修し、それらを電子オルガン上で再現していきます。 ・電子オルガンを活用し、詳細な操作・再現手法をマスターしていきます。 ・授業終盤では、学んだ知識や操作を活かし、総合的な応用制作に取り組みます。						
到達目標	知識・理解	様々な表現手法を知り、世の中に溢れる音楽において、それらの存在を理解できる。					
	思考・判断・表現	与えられた情報をもとに、適切な表現手法を選択し、適切なサウンドを構成できる。					
	技能	種々の表現手法において、こだわりをもった調整ができる。					
	関心・意欲・態度	表現手法を研究する上で生じる疑問を、自ら発見し、質問できる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		20	10	-	-	30
	実技試験		15	20	15	-	50
	受講態度		-	-	-	20	20
	合 計(点)		35	30	15	20	100
評価の特記事項	筆記試験は、修得した知識に関する設問に対して、紙面上で回答する形式です。実技試験は、与えられる課題に対して、楽器を操作して制作物を作り、提出します。						
テキスト	なし						
参考書・教材	各回の内容の必要に応じて受講資料をプリントで配付						
内 容							
実施回	授業内容・目標						
1	授業の概要紹介～精巧なサウンドメイク（１）電子オルガンにおける効果的な音作りについて [課題(復習)] 効果的な音作りについて知識を復習する (1h)						
2	精巧なサウンドメイク（２）音作りのポイントについて [課題(復習)] 音作りのポイントについて知識を復習する (1h)						
3	様々な楽器と奏法（１）アコースティック楽器を知る：管楽器 [課題(復習)] 管楽器について知識を復習する (1h)						
4	様々な楽器と奏法（２）アコースティック楽器を知る：弦楽器・打楽器 [課題(復習)] 弦楽器・打楽器について知識を復習する (1h)						
5	オーケストラ系のサウンドメイク（１）ボイスの選択～組合せ [課題(復習)] ボイスの選択～組合せの操作・知識を復習する (1h)						
6	オーケストラ系のサウンドメイク（２）リズム制作 [課題(復習)] リズム制作の操作・知識を復習する (1h)						
7	オーケストラ系のサウンドメイク（３）制作実習 [課題(復習)] ここまでの操作・知識を復習する (1h)						
8	ポピュラー系のサウンドメイク（１）ボイスの選択～組合せ [課題(復習)] ボイスの選択～組合せの操作・知識を復習する (1h)						
9	ポピュラー系のサウンドメイク（２）リズム制作 [課題(復習)] リズム制作の操作・知識を復習する (1h)						
10	ポピュラー系のサウンドメイク（３）制作実習 [課題(復習)] ここまでの操作・知識を復習する (1h)						
11	任意楽曲のサウンドメイク（１）ボイスの選択～組合せ [課題(復習)] ボイスの選択～組合せの操作・知識を復習する (1h)						
12	任意楽曲のサウンドメイク（２）リズム制作 [課題(復習)] リズム制作の操作・知識を復習する (1h)						
13	任意楽曲のサウンドメイク（３）仕上げ [課題(復習)] ここまでの操作・知識を復習する (1h)						
14	サウンドメイクの周辺知識（１）PAについて [課題(復習)] PAについて知識を復習する (1h)						
15	サウンドメイクの周辺知識（２）DAW・スマートツールの活用～サウンドの共有について [課題(復習)] DAW・スマートツールの活用～サウンドの共有について知識を復習する (1h)						
時間外での学修	各回の演習で学ぶ電子オルガンの操作は、同様の操作を繰り返し経験していくことで身につくものです。演習で取り扱った内容は、日頃から積極的に操作してみるようにしましょう。また、演習で得た知識は、電子オルガンに限らず、現代の様々な音楽の表現手法につながります。身の回りの音楽ではどのように活用されているか、常に意識して音楽と接すると良いでしょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】						
受講学生へのメッセージ	細かい操作や耳馴染みのない用語が多く登場するかもしれませんが、実はいずれも身近にある音楽に深く関わっているものです。電子音楽の視点から、様々な音楽のサウンドを多角的に探求してみましょう。 [オフィスアワー]当授業の教室にて 授業時間の前後5分程度						

【3S4B201】グレード対策A (ピアノ)		音楽総合学科		1年前期		
		1単位	選択	演習	30時間	
教員	上園 弥生					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	グレード試験官・26年、音楽講師・31年					
授業内容	ヤマハの演奏グレードの項目の実習、主に、即興演奏、初見演奏の実習。指導グレードのコード進行法について、学びます。					
授業方法	グループレッスンですが、各々のレベルに合わせて個別指導もおこないます。					
到達目標	知識・理解	コード進行、変奏の方法を理解し、まとめられる。				
	思考・判断・表現	即興課題を音楽的に演奏できる。				
	技能	その場で思った通りに即興演奏できる力をつける。				
	関心・意欲・態度	課題に積極的に取り組む。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	実技試験	15	15	40	-	70
	受講態度	-	-	-	15	15
	課題に対する練習状況	-	-	-	15	15
	合 計(点)	15	15	40	30	100
評価の特記事項						
テキスト						
参考書・教材	授業開始後提示します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	ガイダンス (LINE・FaceTime・Google DuoによるICT双方向型授業) ヤマハのグレードについて、即興演奏について説明。 [課題](復習、準備)学習した事を復習し、練習する。(1～2h)					
2	バスの進行について (LINE・FaceTime・Google DuoによるICT双方向型授業) [課題](復習)学習した事を復習し、練習する。(1～2h)					
3	コードネームについて (LINE・FaceTime・Google DuoによるICT双方向型授業) [課題](復習、他)学習した事を復習し、練習する。(1～2h)					
4	伴奏形について [課題](復習、他)学習した事を復習し、練習する。(1～2h)					
5	変奏の仕方について [課題](復習、他)学習した事を復習し、練習する。(1～2h)					
6	曲の構成について [課題](復習、他)学習した事を復習し、練習する。(1～2h)					
7	まとめ方 [課題](復習、他)学習した事を復習し、練習する。(1～2h)					
8	重音奏について [課題](準備、復習、)学習した事を復習し、練習する。(1～2h)					
9	モチーフ即興について [課題](準備、復習)学習した事を復習し、練習する。(1～2h)					
10	実習 授業外の課題を参考にする。 [課題](準備、復習)学習した事を復習し、練習する。(1～2h)					
11	実習 授業外の課題を参考にする。 [課題](復習、他)学習した事を復習し、練習する。(1～2h)					
12	実習 授業外の課題を参考にする。 [課題](復習、他)学習した事を復習し、練習する。(1～2h)					
13	実習 授業外の課題を参考にする。 [課題](復習、他)学習した事を復習し、練習する。(1～2h)					
14	実習 試験に向けての取り組み [課題](復習、他)学習した事を復習し、練習する。(1～2h)					
15	実習 試験に向けての取り組み [課題](復習、他)学習した事を復習し、練習する。(1～2h)					
時間外での学修	学習した事を復習し、積極的に課題に取り組みましょう。 [課題]は授業の到達目標達成に必要な内容ですので()の標準学修時間をめどにして、授業外で確実に学修を進めましょう [この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:20時間]					
受講学生へのメッセージ	苦手意識を持たないで、積極的にとりくみましょう。 オフィスアワーは、講義後教室にて行います。					

【3S4S202】グレード対策A(ピアノ)		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	上園 弥生						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	グレード試験官・26年、音楽講師・31年						
授業内容	引き続き、即興演奏の基礎から応用まで、コード進行法について、個々のレベルに合わせて勉強します。変奏の定着と演奏表現を学びます。初見演奏のポイントを理解し練習します。						
授業方法	グループレッスンですが、個別にも一人一人のレベルに合わせて指導します。						
到達目標	知識・理解	変奏の方法と、コード進行を理解し、まとめられる。					
	思考・判断・表現	即興課題を音楽的に演奏できる。					
	技能	その場で思った通りに即興演奏できる力をつける。					
	関心・意欲・態度	課題に積極的に取り組む。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		15	15	40	-	70
	受講態度		-	-	-	15	15
	課題に対する練習状況		-	-	-	15	15
合 計(点)		15	15	40	30	100	
評価の特記事項							
テキスト	ありません。						
参考書・教材	そのつど提示します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	前期の復習と確認 カデンツ、コードネーム について [課題](準備、復習)学んだ事を理解し復習する。課題に取り組む。(1～2h)						
2	伴奏付け 変奏の仕方について 確認 [課題](準備、復習)学習した事を復習し、練習する。(1～2h)						
3	バス進行について確認 [課題](復習、他)学習した事を復習し、練習する。(1～2h)						
4	もりあげ方について [課題](復習、他)学習した事を復習し、練習する。(1～2h)						
5	クライマックスをどこにおくか [課題](復習、他)学習した事を復習し、練習する。(1～2h)						
6	モチーフ即興実習 [課題](準備、復習)学習した事を復習し、練習する。(1～2h)						
7	Bの和音進行について [課題](準備、復習)学習した事を復習し、練習する。(1～2h)						
8	形式について 色々な拍子におけるまとめ方 [課題](準備、復習)学習した事を復習し、練習する。(1～2h)						
9	モチーフの発展の仕方について コード進行について [課題](復習、他)学習した事を復習し、練習する。(1～2h)						
10	和音進行と配置について [課題](復習、他)学習した事を復習し、練習する。(1～2h)						
11	まとめ方について [課題](復習、他)学習した事を復習し、練習する。(1～2h)						
12	即興演奏A課題実習(試験に向けて) 授業外の課題を参考にする。 [課題](復習、他)この学習した事を復習し、練習する。(1～2h)						
13	即興演奏B課題実習(試験に向けて) 授業外の課題を参考にする。 [課題](準備、復習)学習した事を復習し、練習する。(1～2h)						
14	初見演奏の予見について [課題](復習、他)学習した事を復習し、練習する。(1～2h)						
15	初見演奏実習 授業外の課題を参考にする。 [課題](復習、他)学習した事を復習し、練習する。(1～2h)						
時間外での学修	学習した事を毎日繰り返し練習しましょう。 [課題]は授業の到達目標達成に必要な内容です。で、(標準学修時間をめどにして、授業外で確実に学修を進めましょう。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：20時間])						
受講学生へのメッセージ	苦手意識を持たないで、積極的に取り組みましょう。オフィスアワーは、講義後教室にて行います。						

【3S4B205】グレード対策A(電子オルガン)		音楽総合学科		1年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	石原 朱実						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	演奏グレード即興A、Bモチーフ即興 5級程度の課題演習 基礎編（オルタネートベース、カウンター奏、メロディフェイク、ブロック奏）						
授業方法	テキストの項目順に基礎作りのためのトレーニング、カデンツ、スケールetc. # 3つまでコードパターントレーニングをこのレベルに応じて指導する。						
到達目標	知識・理解	即興演奏とは何かを理解する。 音楽の形式、構造、和声の仕組みを理解できる。 即興A、新曲の形式を捉え、曲想を把握できる。					
	思考・判断・表現	与えられたテーマから曲想を読み取りリズムを感じられるようにする。					
	技能	楽譜を指示通り弾くのみでなく、自分なりのアレンジ演奏ができる。					
	関心・意欲・態度	自分なりのアレンジ演奏ができるという喜びを感じるようになる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		20	20	20	10	70
	受講態度（課題消化）		-	-	10	20	30
	合 計(点)		20	20	30	30	100
評価の特記事項							
テキスト	『エレクトーン即興演奏法基礎編』財団法人ヤマハ音楽振興会(1,404円)ISBN:4636134877						
参考書・教材	その他はコピーで渡します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	即興演奏とは何か A新曲課題 Bモチーフ即興 [課題（復習）] 即興演奏とは何かをしっかりと理解して課題に取り組む（1～2h）						
2	即興における基礎トレーニング、コードネーム、カデンツ、スケール等を個別に確認 [課題（復習）]コードネーム、カデンツ、スケールなど基礎トレーニングをこなし定着させる（1～2h）						
3	オルタネーティングベースについて 7 7 7 7 基本的ライン等個別に説明し、実演。 [課題（復習）] オルタネーティングベースを復習し定着させる(1～2h)						
4	コードパターンによる演習 [課題（復習）]学んだ内容を活かして課題演習する(1～2h)						
5	カウンターラインとは？ 指導筆記グレードとの共通性について [課題（復習）]カウンターラインを復習し定着させる(1～2h)						
6	コードパターンによる演習 [課題（復習）]今まで学んだ内容を定着させる(1～2h)						
7	即興A新曲演奏：形式、構造、リズムの捉え方 [課題（復習）] 形式、構造、リズムの捉え方をしっかりと理解して即興演奏に繋げる（1～2h）						
8	リズムパターンの説明：ラテン（ビギン、ルンバ）スウィング、ロック（8，16ビート）ワルツ [課題（復習）]各リズムパターンを復習し、定着させる(1～2h)						
9	既成曲をコピーして渡し、それを演奏する [課題（復習）]今まで学んだ内容をしっかりと復習して演習課題に取り組む(1～2h)						
10	メロディーフェイクについて [課題（復習）]メロディーフェイクを演習する(1～2h)						
11	課題による演習 [課題（復習）]今まで学んだ内容の復習と演習(1～2h)						
12	ブロック奏とは？ メロディにその他のパートを付ける方法 [課題（復習）]ブロック奏の復習(1～2h)						
13	課題による演習 [課題（復習）]今まで学んだ内容の理解を深め即興演奏に繋げる(1～2h)						
14	課題による演習 [課題（復習）]今まで学んだ内容の理解を深め即興演奏に繋げる(1～2h)						
15	即興A新曲演奏のまとめ、個人チェック [課題（復習）]即興演奏に習熟する(1～2h)						
時間外での学修	多くの音楽を注意深く聴き、多くの良質のアレンジ譜を演奏する中でフィーリングを培っていく。 [この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15～30時間]						
受講学生へのメッセージ	ひたすら粘り強く、着実に練習してください。 オフィスアワーは非常勤講師控室にて毎週金曜日の12:40～12:55です。						

【3S4S206】グレード対策A(電子オルガン)		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	石原 朱実						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	即興演奏A：前期に学んだ基礎の確認と応用 即興演奏B：モチーフ即興の演習と5級程度の課題実習						
授業方法	前期に学んだスケール、カデンツ、コード進行の基礎確認と演奏グレード5級実技試験問題集の実習・発表						
到達目標	知識・理解	即興演奏を通じて楽曲構成と和声進行、リズム etc.を理解し、内容を即座に捉え演奏できるようにする。					
	思考・判断・表現	演奏グレード5級程度の課題に、音楽として曲想、表現力をつけることができる。					
	技能	楽譜を指示通り弾くのみでなく、自分なりのアレンジ演奏ができる。					
	関心・意欲・態度	自分なりのアレンジ演奏ができるという喜びを感じるようになる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		20	20	20	10	70
	受講態度		-	-	10	20	30
	合 計(点)		20	20	30	30	100
評価の特記事項							
テキスト	『エレクトーン演奏グレード5級 試験問題一覧2013～2015年』財団法人ヤマハ音楽振興会(1,080円))ISBN:9784864617185						
参考書・教材	コピーにて渡します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	前期で学んだ基礎項目（オルタネートベース・カウンターライン・リズム設定）の確認 [課題（復習）]オルタネートベース・カウンターライン・リズム設定などの項目を復習し定着させる (1～2h)						
2	モチーフ即興について 曲の構成・2部3部形式 [課題（復習）]モチーフ即興の曲の構成を復習する(1～2h)						
3	2小節程度のモチーフの発展の仕方 [課題（復習）]モチーフの発展の仕方を復習し、演習する(1～2h)						
4	反復進行、セクエンスについて [課題（復習・発展）]反復進行、セクエンスを理解し、即興に活かす(1～2h)						
5	メロディーの反復とコード進行の反復について [課題（復習）]反復を復習、理解し、定着させる(1～2h)						
6	サビのメロディーの作り方とコードパターンの説明 [課題（復習・発展）]サビのメロディーの作り方とコードパターンを復習し、それを活かした即興演習を する(1～2h)						
7	課題の演習 [課題（復習）]今まで学んだ内容の復習と演習(1～2h)						
8	課題の演習 [課題（復習）]課題演習に取り組む(1～2h)						
9	個人チェック 前もって与えられた課題を発表 [課題（復習）]今まで学んだ内容を復習し、練習課題に取り組む(1～2h)						
10	過去の問題集より実習 [課題（復習）]学んだ内容の復習と演習(1～2h)						
11	初見演奏とは [課題（復習）]初見演奏の課題をこなす(1～2h)						
12	課題の演習 [課題（復習）]学んだ内容の復習と課題の演習(1～2h)						
13	即興A 新曲演奏のまとめ [課題（復習）]今まで学んだ内容を復習し、即興演奏の課題に取り組む(1～2h)						
14	即興B モチーフ即興のまとめ [課題（復習）]即興の内容を理解定着させ、演習に取り組む(1～2h)						
15	実際の試験と同様、緊張感の中での即興演奏 [課題（復習）]今まで学んだ内容の総復習(1～2h)						
時間外での学修	前期と同じく、多くの音楽を聴き、その曲の構成・和声進行をアナリーゼし、即興演奏に応用できるように する。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間数：15～30時間]						
受講学生への メッセージ	# 3つまでの長短調スケール・カデンツは確実にできるようにすること。 オフィスアワーは非常勤講師控室にて毎週金曜日の12:40～12:55です。						

【3S4B209】グレード対策B		音楽総合学科		1年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	横井 香織						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	音程、調性、音階、和音記号、コードネームなどの基礎知識を修得し、カワイピアノ演奏グレードの課題である和音記号付きメロディー&ベース、コード&ベースなどの伴奏付けと、カワイピアノ指導グレードの課題である音楽理論問題と聴音を学修します。						
授業方法	演習を中心として、音楽的知識の理解や技術の修得に向け、小グループでの活動や発表も含めて授業を展開していきます。						
到達目標	知識・理解	音程、調性、音階、和音、コードネームなどの基礎知識を理解することができます。					
	思考・判断・表現	課題に適したベースやコードを的確に判断して演奏することができる。					
	技能	音楽聴取能力と楽譜を正確に記述する能力を身に付けることができる。					
	関心・意欲・態度	積極的な取り組みが継続できる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	30	-	-	30
	筆記試験		30	-	30	-	60
	受講態度		-	-	-	10	10
	合 計(点)		30	30	30	10	100
評価の特記事項	受講態度は学修への取組状況で評価します。						
テキスト	『音楽用語ハンドブック<改訂版>』カワイ出版(1,728円)ISBN:978-4-7609-5019-5 『キーボード・アレンジ ピアノ篇』カワイ出版(2,700円)ISBN:4-7609-7621-3						
参考書・教材	必要に応じて配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	授業説明（Zoom使用） 音名、音程、調、調号、和音記号、コードネームについて（ICTを活用した双方向型授業：【全員】Zoom・グループFaceTime 【個人】FaceTime 使用、課題は学生ポータルで提出・返却） [課題(準備)] これまでに学んだことのある楽典を復習し、音名、音程、調性、和音記号、コードネームなどの基礎知識を理解する（1h～2h）						
2	音名、音程、調、調号、和音記号、コードネームについて / 音楽用語（1）【あ】～【い】 / 楽語（1）P.142～P.143 / 音階 / 聴音 / 課題の確認（ICTを活用した双方向型授業：【全員】Zoom・グループFaceTime 【個人】FaceTime 使用、課題は学生ポータルで提出・返却） [課題(復習)] 学修した内容を復習し、音名、音程、調性、和音記号、コードネームなどの基礎知識を理解し、音楽用語・楽語を覚え、音階について理解をする（1h～2h）						
3	伴奏付け：固有和音 ・ ・ （1） / 音楽用語（2）【う】～【お】 / 楽語（2）P.143～P.144 / 和音 / 聴音 / 課題の確認（ICTを活用した双方向型授業：【全員】Zoom・グループFaceTime 【個人】FaceTime 使用、課題は学生ポータルで提出・返却） [課題(復習)] 学修した内容を復習し、 ・ ・ の伴奏付けができるようにし、音楽用語・楽語を覚え、和音について理解する（1h～2h）						
4	伴奏付け：固有和音 ・ ・ （2） / 音楽用語（3）【お】～【き】 / 楽語（3）P.144～P.145 / 音階と和音 / 聴音 / 課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、 ・ ・ の伴奏付けができるようにし、音楽用語・楽語を覚え、音階と和音について理解する（1h～2h）						
5	伴奏付け：固有和音 ・ ・ （3） / 音楽用語（4）【く】～【し】 / 楽語（4）P.145～P.146 / コードネーム（1）3和音 / 聴音 / 課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、 ・ ・ の伴奏付けができるようにし、音楽用語・楽語を覚え、3和音とそのコードネームについて理解する（1h～2h）						
6	伴奏付け：固有和音 ・ ・ （1） / 音楽用語（5）【し】～【そ】 / 楽語（5）P.146～P.147 / コードネーム（2）3和音 / 聴音 / 課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、 ・ ・ の伴奏付けができるようにし、音楽用語・楽語を覚え、3和音とそのコードネームについて理解する（1h～2h）						
7	伴奏付け：固有和音 ・ ・ （2） / 音楽用語（6）【そ】～【つ】 / 楽語（6）P.148 / コードネーム（3）7の和音 / 聴音 / 課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、 ・ ・ の伴奏付けができるようにし、音楽用語・楽語を覚え、7の和音とそのコードネームについて理解する（1h～2h）						
8	伴奏付け：固有和音 ・ ・ （3） / 音楽用語（7）【て】～【は】 / 楽語（7）P.149 / コードネーム（4）7の和音 / 聴音 / 課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、 ・ ・ の伴奏付けができるようにし、音楽用語・楽語を覚え、7の和音とそのコードネームについて理解する（1h～2h）						
9	伴奏付け：借用和音 ドッペルドミナント（1） / 音楽用語（8）【は】～【ふ】 / 楽語（8）P.150～P.151 / コードネーム（5）その他の4和音 / 聴音 / 課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、ドッペルドミナントの伴奏付けができるようにし、音楽用語・楽語を覚え、その他の4和音とそのコードネームについて理解する（1h～2h）						
10	伴奏付け：借用和音 ドッペルドミナント（2） / 音楽用語（9）【へ】～【ろ】 / 楽語（9）P.151～P.152 / コードネーム（6）その他の4和音 / 聴音 / 課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、ドッペルドミナントの伴奏付けができるようにし、音楽用語・楽語を覚え、その他の4和音とそのコードネームについて理解する（1h～2h）						
11	伴奏付け：借用和音 ドッペルドミナント（3） / 音楽用語（10）復習 / 楽語（10）復習 / 楽典問題（1）音程の確認 / 聴音 / 課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、ドッペルドミナントの伴奏付けができるようにし、音楽用語・楽語を確実に覚え、音程について確実に理解する（1h～2h）						

内容	
実施回	授業内容・目標
12	伴奏付け：その他の借用和音 副属七の和音（１）／音楽用語（１１）復習 / 楽語（１１）復習 / 楽典問題（２）コードネームの確認／聴音／課題の確認 【課題(復習)】 学修した内容を復習し、副属七の和音の伴奏付けができるようにし、音楽用語・楽語を確実に覚え、コードネームについて確実に理解する（1h～2h）
13	伴奏付け：その他の借用和音 副属七の和音（２）／音楽用語（１２）復習 / 楽語（１２）復習 / 楽典問題（３）和音記号の確認／聴音／課題の確認 【課題(復習)】 学修した内容を復習し、副属七の和音の伴奏付けができるようにし、音楽用語・楽語を確実に覚え、和音記号について確実に理解する（1h～2h）
14	伴奏付け：その他の借用和音 副属七の和音（３）／音楽用語（１３）復習 / 楽語（１３）復習 / 楽典問題（４）音階の確認／聴音／課題の確認 【課題(復習)】 学修した内容を復習し、副属七の和音の伴奏付けができるようにし、音楽用語・楽語を確実に覚え、音階について確実に理解する（1h～2h）
15	伴奏付け：まとめ・受験対策／音楽用語（１４）復習 / 楽語（１４）復習 / 楽典問題（５）総合問題／聴音／課題の確認 【課題(復習)】 前期に学修した内容を復習し、音楽用語・楽語を確実に覚え、受験に向けて準備をする（1h～2h）
時間外での学修	知識・技術の修得のためには毎日の積み重ねが大切です。授業外で必ず復習しましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：23時間】
受講学生へのメッセージ	積極的に理解に努め、分からないことは質問するなどして必ず解決しましょう。 オフィスアワーは研究室 B 206 で毎週金曜日の午後です。

【3S4S210】グレード対策B		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	横井 香織						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	前期の内容に加え、カワイピアノ演奏グレードの課題である和音記号付きメロディー＆ベース、コード＆ベースなどの伴奏付けと、カワイピアノ指導グレードの内容である、音楽用語、楽曲の知識、コードネーム、調判定・移調、楽曲分析と聴音を学修します。						
授業方法	演習を中心として、音楽的知識の理解や技術の修得に向け、小グループでの活動や発表も含めて授業を展開していきます。						
到達目標	知識・理解	音楽用語、楽曲の知識、コードネーム、調判定・移調、楽曲分析などの知識を理解することができる。					
	思考・判断・表現	課題に適したベースやコードを的確に判断して演奏することができる。					
	技能	音楽聴取能力と楽譜を正確に記述する能力を身に付けることができる。					
	関心・意欲・態度	積極的な取り組みが継続できる					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	30	-	-	30
	筆記試験		30	-	30	-	60
	受講態度		-	-	-	10	10
	合 計(点)		30	30	30	10	100
評価の特記事項	受講態度は学修への取組状況で評価します。						
テキスト	『音楽用語ハンドブック<改訂版>』カワイ出版(1,728円)ISBN:978-4-7609-5019-5 『キーボード・アレンジ ピアノ篇』カワイ出版(2,700円)ISBN:4-7609-7621-3						
参考書・教材	必要に応じて配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	伴奏付け：前期の復習 転回形によるベース（１） ・ の第１転回形／曲種（１）【あ】～【お】／作品と作曲家（１）組曲 /コード・調判定・移調（１）／楽曲分析（１）楽曲形式を生み出す諸要素／聴音 [課題(復習)] 前期に学修した内容を復習し、 ・ の第１転回形の伴奏付けができるようにし、曲種・作品を覚え、楽典・楽曲分析について理解する（1h～2h）						
2	伴奏付け：転回形によるベース（２） - の第２転回形 - 、 の第２転回形 の第１転回形／曲種（２）【か】～【く】／作品と作曲家（２）組曲 /コード・調判定・移調（２）／楽曲分析（２）器楽の諸形式／聴音／課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、 - の第２転回形 - 、 の第２転回形 の第１転回形の伴奏付けができるようにし、曲種・作品を覚え、楽典・楽曲分析について理解する（1h～2h）						
3	伴奏付け：転回形によるベース（３） の第１転回形、属七の和音の第１・２・３転回形／曲種（３）【け】～【さ】／作品と作曲家（３）組曲 /コード・調判定・移調（３）／楽曲分析（３）終止について／聴音／課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、 の第１転回形、属七の和音の第１・２・３転回形の伴奏付けができるようにし、曲種・作品を覚え、楽典・楽曲分析について理解する（1h～2h）						
4	伴奏付け：固有和音／曲種（４）【し】～【つ】／作品と作曲家（４）歌劇曲 /コード・調判定・移調（４）／楽曲分析（４）／聴音／課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、固有和音の伴奏付けができるようにし、曲種・作品を覚え、楽典・楽曲分析について理解する（1h～2h）						
5	伴奏付け：借用和音（１）ドッペルドミナント、 の第１転回形／曲種（５）【て】～【は】／作品と作曲家（５）歌劇曲 /コード・調判定・移調（５）／楽曲分析（５）／聴音／課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、ドッペルドミナント、 の第１転回形の伴奏付けができるようにし、曲種・作品を覚え、楽典・楽曲分析について理解する（1h～2h）						
6	伴奏付け：借用和音（２）マイナー、マイナーの第２転回形／曲種（６）【ふ】～【ま】／作品と作曲家（６）歌劇曲 /コード・調判定・移調（６）／楽曲分析（６）／聴音／課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、マイナー、マイナーの第２転回形の伴奏付けができるようにし、曲種・作品を覚え、楽典・楽曲分析について理解する（1h～2h）						
7	伴奏付け：借用和音（３）副属七の和音の第１転回形 /曲種（７）【み】～【わ】／作品と作曲家（７）ピアノ協奏曲／コード・調判定・移調（７）／楽曲分析（７）／聴音／課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、副属七の和音の第１転回形の伴奏付けができるようにし、曲種・作品を覚え、楽典・楽曲分析について理解する（1h～2h）						
8	伴奏付け：借用和音（４）副属七の和音の第１転回形 、ドッペルドミナントの第１転回形 /曲種（８）復習 各種名称／作品と作曲家（８）ヴァイオリン協奏曲／コード・調判定・移調（８）／楽曲分析（８）／聴音／課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、副属七の和音の第１転回形、ドッペルドミナントの第１転回形の伴奏付けができるようにし、曲種・作品を覚え、楽典・楽曲分析について理解する（1h～2h）						
9	伴奏付け：借用和音（５）副属七の和音の第１転回形 、ドッペルドミナントの第１転回形 /曲種（９）復習 各種名称／作品と作曲家（９）弦楽曲／コード・調判定・移調（９）／楽曲分析（９）／聴音／課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、副属七の和音の第１転回形、ドッペルドミナントの第１転回形の伴奏付けができるようにし、曲種・作品を覚え、楽典・楽曲分析について理解する（1h～2h）						
10	伴奏付け：借用和音（６）副属七の和音の第１転回形 、曲種（10）復習 器楽・器楽合奏に関するもの／作品と作曲家（10）歌曲／コード・調判定・移調（10）／楽曲分析（10）／聴音／課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、副属七の和音の第１転回形の伴奏付けができるようにし、曲種・作品を覚え、楽典・楽曲分析について理解する（1h～2h）						
11	伴奏付け：復習、ディミニッシュ（１）／曲種（11）復習 声楽に関するもの／作品と作曲家（11）ピアノ曲 /コード・調判定・移調（11）／楽曲分析（11）／聴音／課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、復習のページ、ディミニッシュの伴奏付けができるようにし、曲種・作品を覚え、楽典・楽曲分析について理解する（1h～2h）						

内容	
実施回	授業内容・目標
12	伴奏付け：復習、ディミニッシュ（２）／曲種（12）復習 舞曲／作品と作曲家（12）ピアノ曲 /コード・調判定・移調（12）／楽曲分析（12）／聴音／課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、復習のページ、ディミニッシュの伴奏付けが確実にできるようにし、曲種・作品を覚え、楽典・楽曲分析について理解する（1h～2h）
13	伴奏付け：転調（１）／曲種（13）復習 組曲／作品と作曲家（13）ピアノ曲 /コード・調判定・移調（13）／楽曲分析（13）／聴音／課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、転調の伴奏付けができるようにし、曲種・作品を覚え、楽典・楽曲分析について理解する（1h～2h）
14	伴奏付け：転調（２）／曲種（14）復習 色々な性格楽曲／作品と作曲家（14）ピアノ曲 /コード・調判定・移調（14）／楽曲分析（14）／聴音／課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、転調の伴奏付けが確実にできるようにし、曲種・作品を覚え、楽典・楽曲分析について理解する（1h～2h）
15	まとめ・受験対策、課題の確認 [課題(復習)] 後期に学修した内容を復習し、受験に向けて準備をする（1h）
時間外での学修	知識・技術の修得のためには毎日の積み重ねが大切です。授業外で必ず復習しましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：23時間】
受講学生へのメッセージ	積極的に理解に努め、分からないことは質問するなどして必ず解決しましょう。 オフィスアワーは研究室 B 206で毎週金曜日の午後です。

【3S4B213】グレード対策基礎		音楽総合学科		1年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	三輪 泰子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	音楽教室講師・17年						
授業内容	指導グレードに必要な和声学、音楽知識を身に付け、各自、希望するグレード取得を目指します。						
授業方法	講義形式ですが、課題理解のための個人指導にも力を入れていきます。						
到達目標	知識・理解	和声と楽典の基礎的な知識を身に付け、問題演習する。					
	思考・判断・表現	西洋音楽の土台となっている和声感を感じられるようにしたい。楽典を習熟することで、演奏者としての表現力を高めたい。					
	技能	グレード取得により、社会的評価を得て、就職活動へと繋げていく。					
	関心・意欲・態度	和声と楽典の知識を、演奏、創作、音楽指導活動に活かせるようにする。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	試験		50	20	20	-	90
	受講態度		-	-	-	10	10
	合 計(点)		50	20	20	10	100
評価の特記事項							
テキスト	『和声 理論と実習』島岡 譲 他 音楽之友社(3,024円)ISBN:978-4276102057)『ヤマハ指導グレード5,4,3級筆記試験問題一覧2013～2015年実施』ヤマハ音楽振興会(1,430円)ISBN:9784864617437						
参考書・教材	授業中に配布するプリントを、教材にして下さい。						
内 容							
実施回	授業内容・目標						
1	和声学、楽典の予備知識、調号の理解 [課題（準備）]教科書を購入して、読んでみましょう。(1h) ノートに、長調、短調を調号順に書き出してみましょう。(1h)						
2	基本位置3和音の配置、音階上にできる和音 [課題（復習）]課題1.2を解いてみましょう。(1h) ノートに、長音階、短音階上にできる和音を書きだしてみましょう。(1h)						
3	基本位置3和音の配置、コードネームの理解 [課題（復習）]課題3.4を解いてみましょう。(1h) 長音階、短音階上に出来る3和音に、コードネームを書き入れましょう。(1h)						
4	基本位置3和音の配置、コードネームの理解 [課題（復習）]課題5（ ）を解いてみましょう。(1h) 長音階、短音階上に出来る4和音に、コードネームを書き入れましょう。(1h)						
5	基本位置3和音の配置、譜表、音名の理解 [課題（復習）]課題6（ ）を解いてみましょう。(1h) 音部記号、日本音名、ドイツ音名を覚えましょう。(1h)						
6	和音設定の原理、音符と休符の理解 [課題（復習）]課題7（T,D,S）を解いてみましょう。(1h) 音符と休符の種類を覚えましょう。(1h)						
7	和音設定の原理、拍子とリズムの理解 [課題（復習）]課題8（複合カデンツ）を解いてみましょう。(1h) 拍子記号、種類を覚えて、リズム譜を書いてみましょう。(1h)						
8	和音設定の原理、音程の理解 [課題（復習）]課題9（終止形）を解いてみましょう。(1h) 音程の名称と種類を覚えましょう。(1h)						
9	各種の調（長調）、音程の理解 [課題（復習）]課題10を解いてみましょう。(1h) 音程の性質名の変化、転回を覚えましょう。(1h)						
10	各種の調（短調） [課題（復習）]課題11を解いてみましょう。(1h)音階構成音の名称を覚えましょう。(1h)						
11	各種の調（総合） [課題（復習）]課題12を解いてみましょう。(1h)五度圏を理解し、表を書きましょう。(1h)						
12	補充課題 [課題（復習）]3和音基本位置（1～3）を解いてみましょう。(1h) 近親調と遠隔調を理解し、図を書いてみましょう。(1h)						
13	補充課題 [課題（復習）]3和音基本位置（4～6）を解いてみましょう。(1h)グレード問題集1を解きましょう。(1h)						
14	補充課題 [課題（復習）]3和音基本位置（7～10）を解いてみましょう。(1h)グレード問題集2を解きましょう。(1h)						
15	期末テストに向けて質疑応答 [課題（復習）]わからない所を質問できるようにまとめておきましょう。(1h)グレード問題集3を解きましょう。(1h)						
時間外での学修	理解のためには、授業内の演習だけでなく、予習復習が必要不可欠です。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間；15時間]						
受講学生へのメッセージ	和声学と楽典は、西洋音楽の基本です。演奏力、アレンジ力向上のためにも、積極的に受講してください。オフィスアワーは、教室で授業前後です。						

【3S4S214】グレード対策基礎		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	三輪 泰子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	音楽教室講師・17年						
授業内容	指導グレードに必要な和声学、音楽知識を身に付け、各自、希望するグレード取得を目指します。						
授業方法	講義形式ですが、課題理解のための個人指導にも力を入れていきます。						
到達目標	知識・理解	和声楽典の基礎的な知識を身に付け、問題演習する。					
	思考・判断・表現	西洋音楽の土台となっている和声感を感じられるようにしたい。楽典を習熟することで、演奏者としての表現力を高めたい。					
	技能	グレード取得により、社会的評価を得て、就職活動へと繋げていく。					
	関心・意欲・態度	和声の知識を、演奏、創作、音楽指導活動に活かせるようにする。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	試験	50	20	20	-	90	
	受講態度	-	-	-	10	10	
	合 計(点)	50	20	20	10	100	
評価の特記事項							
テキスト	『和声 理論と実習』音楽之友社(3,024円)ISBN:978-4276102057 『ヤマハ指導グレード5,4,3級筆記問題一覧2013～2015年実施』ヤマハ音楽振興会(1,430円))ISBN:9784864617437 「和声学」「ヤマハ問題一覧」、前期履修者は購入済						
参考書・教材	授業中に配布するプリントを、教材にして下さい。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	3和音の第1転回位置 [課題]課題13,14,15を解いてみましょう。(1h)移調問題を演習して、理解を深めましょう。(1h)						
2	3和音の第1転回位置 [課題(復習)]課題16,17,18を解いてみましょう。(1h)調の判定問題を演習して、理解を深めましょう。(1h)						
3	3和音の第1転回位置 [課題(復習)]課題19(1～4)を解いてみましょう。(1h)三和音の種類、転回に関する問題を演習して、理解を深めましょう。(1h)						
4	3和音の第1転回位置 [課題(復習)]課題19(5～8)を解いてみましょう。(1h)四和音の種類、転回に関する問題を演習して、理解を深めましょう。(1h)						
5	3和音の第1転回位置 [課題(復習)]課題19(9～12)を解いてみましょう。(1h)増三和音、減三和音の種類、転回に関する問題を演習して、理解を深めましょう。(1h)						
6	補充課題の実習(3和音の第1転回位置) [課題(復習)]課題(1～5)を解いてみましょう。(1h)コードネームに関する問題を演習して、理解を深めましょ。(1h)						
7	補充課題の実習(3和音の第1転回位置) [課題(復習)]課題(6～10)を解いてみましょう。(1h)速度標語に関する問題を演習して、理解を深めましょう。(1h)						
8	3和音の第2転回位置 [課題(復習)]課題20,21,22,23を解いてみましょう。(1h)曲想標語に関する問題を演習して、理解を深めましょう。(1h)						
9	3和音の第2転回位置 [課題(復習)]課題24(1～6)を解いてみましょう。(1h)強弱記号、曲中で速度を変化させる言葉を覚えて、理解を深めましょ。(1h)						
10	3和音の第2転回位置 [課題(復習)]課題24(7～12)を解いてみましょう。(1h)付加語、奏法標語、略記法に関する問題を演習して、理解を深めましょ。(1h)						
11	補充課題の実習(3和音の第2転回位置) [課題(復習)]課題(1～5)を解いてみましょう。(1h) 楽式に関する問題を演習して、理解を深めましょ。(1h)						
12	補充課題の実習(3和音の第2転回位置) [課題(復習)]課題(6～10)を解いてみましょう。(1h)グレード問題集4を解きましょう。(1h)						
13	補充課題の実習(3和音総合) [課題(復習)]課題(1～5)を解いてみましょう。(1h)グレード問題集5を解きましょう。(1h)						
14	補充課題の実習(3和音総合)(1h) [課題(復習)]課題(6～10)を解いてみましょう。(1h)グレード問題集6を解きましょう。(1h)						
15	期末テストに向けて質疑応答 [課題(復習)]わからない所を質問できるようにまとめておきましょう。(1h)グレード問題集7を解きましょ。(1h)						
時間外での学修	理解のためには、授業内の演習だけでなく、予習復習が必要不可欠です。 「この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間」						

受講学生への メッセージ	和声学と楽典は、西洋音楽の基本です。演奏力、アレンジ力向上のためにも、積極的に受講してください。 オフィスアワーは、教室で授業前後です。
-----------------	---

【3S9S101】音楽総合特講		音楽総合学科		1年後期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	鈴木 孝育・矢田貝 真一						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	音楽の学びを深めていくために基礎的な教養の涵養を図るとともに、音楽に関して学んだ成果を公務として直接生かしていける職業（音楽活動によって職務を果たす自衛隊音楽隊・警察音楽隊・消防音楽隊などの公務員）に求められる基本的な教養についての理解を図ります。また音楽隊の隊員もしくは人事担当者、公務員対策の外部講師をゲスト・スピーカーとして招き、活動や求められる資質等の基本について理解を図ります。音楽隊以外の公務員希望者や一般企業就職希望者にとってもきわめて有意義な学修内容です。						
授業方法	高校までの国語・社会・数学の基礎的な内容について復習を行い、教養として必要な基本的事項の理解と定着を図ります。そのための教材として、実際の採用試験の問題等を活用しながら、学修を進めていきます。また、作文・面接試験についての説明・対策も行います。						
到達目標	知識・理解	音楽を学ぶ基盤となる国語、社会、数学についての基礎的な知識と社会人に教養として求められる知識を身につける。					
	思考・判断・表現	復習した基礎的な知識を、音楽活動に必要な思考力や判断力、表現力を培うために活用させようと努力できる。					
	技能	音楽を学ぶために必要な教養の一つとして、知的操作や技法の基礎を身につける。					
	関心・意欲・態度	音楽を学ぶために必要となる豊かな教養を一層高められるよう、積極的で継続した学びの態度を身につけることができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		40	10	-	-	50
	学修記録表		10	10	5	-	25
	学修成果の自己評価		-	-	5	10	15
	受講態度		-	-	-	10	10
	合 計(点)		50	20	10	20	100
評価の特記事項	受講態度は、学修姿勢や提出物などの状況で評価します。						
テキスト	『『短大生・専門学校生の就職筆記試験対策 一般常識チェック&マスター 改訂版』』山野晴雄 他著 実教出版(857円) ISBN:978-4-407-32160-9 授業で指示します。						
参考書・教材	授業で指示もしくは配付します。						
内 容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス：授業の目的と目標、授業の進め方や学修活動、準備物の説明、確認テスト [課題（復習・予習）]確認テストの復習と次時内容の予習を確実に行う（3～5h）						
2	地理 1・漢字 1 の定着と発展 [課題（復習・予習）]地理 1・漢字 1 の復習と次時内容の予習を確実に行う（3～5h）						
3	式の計算 1・漢字 2 の定着と発展 [課題（復習・予習）]式の計算 1・漢字 2 の復習と次時内容の予習を確実に行う（3～5h）						
4	地理 2・漢字 3 の定着と発展 [課題（復習・予習）]地理 2・漢字 3 の復習と次時内容の予習を確実に行う（3～5h）						
5	式の計算 2・漢字 4 の読み書きの定着と発展 [課題（復習・予習）]式の計算 2・漢字 4 の復習と次時内容の予習を確実に行う（3～5h）						
6	日本史 1・漢字 5 の定着と発展 [課題（復習・予習）]学日本史 1・漢字 5 の復習と次時内容の予習を確実に行う（3～5h）						
7	文字式と漢字 6 の定着と発展 [課題（復習・予習）]文字式と漢字 6 の復習と次時内容の予習を確実に行う（2～6h）						
8	日本史 2 と漢字 7 の定着と発展 [課題（復習・予習）]日本史 2・漢字 7 の復習と次時内容の予習を確実に行う（3～5h）						
9	式の展開・因数分解と同字異読語の定着と発展 [課題（復習・予習）]式の展開・因数分解の復習と次時内容の予習を確実に行う（3～5h）						
10	まとめ(第1回～9回までの学修の確認と定着) [課題（復習）]学んだ内容の総合的な復習を確実に行う（3～5h）						
11	公務員就職支援講座 就職活動の流れ、心構え、進路希望調査 [課題（復習・発展）]個々の就職に対する意識を高め、将来について考える（3～5h）						
12	公務員就職支援講座 公務員に適した人材、日本の雇用制度や就職状況 [課題（予習・準備）]公務員に適した人材の研究と日本の雇用制度や就職状況の把握、自己についての情報を集める（3～5h）						
13	公務員就職支援講座 企業が求める人材について、自己の特徴についてまとめる グループ討議を行う [課題（復習・準備）]自己理解と、企業が求める人材についてのまとめと職業観についての個別発表の準備（3～5h）						
14	公務員試験支援講座 職業観について、各自個別発表 [課題（復習・発展）]職業観についての他者の発表から、自己の職業観について考察する。（3～5h）						
15	公務員試験支援講座 公務員の仕事内容について知る。 [課題（復習）]各種公務員のそれぞれの仕事内容についてまとめる。（3～5h）						
時間外での学修	学修した問題や課題とされた問題を確実に復習し、内容の定着を図ってください。授業以外での学修の取組が希望の実現を確実に左右します。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間]						

<p>受講学生への メッセージ</p>	<p>音楽を活用する公務員への就職をめざして、採用試験を想定した学修や音楽隊の活動内容を学びます。音楽隊以外の公務員をめざす学生や一般企業就職希望者にとっても活用可能な内容です。積極的に学ぼうとする意識をもって受講してください。 *授業の順序や内容は、進捗等の都合で変更されることがあります。 オフィスアワー：質問等があれば、授業後に担当教員に申し出てください。</p>
-------------------------	---

【3S8B201】ヴォーカル		音楽総合学科		1年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	五島 由美子						
資格・制限等	P・Or・MT・P/MT・Or/MT・W/MTコース必修						
実務家教員	声楽家43年、声楽指導40年、合唱指導26年						
授業内容	歌唱を通して音楽の表現力を身に付ける授業です。 前期はイタリア歌曲を取り上げます。正しい発声を身に付けて、表現力を深めていきます。						
授業方法	グルーブレッスンを中心として、お互いの声を聴きながら学びます。						
到達目標	知識・理解	歌唱する上での、作曲家の意図・言葉の表現が理解できる。					
	思考・判断・表現	言葉の由来を理解した上で、音楽的な表現ができる。					
	技能	各自の歌唱技術の問題点を速やかに解決できる。					
	関心・意欲・態度	各自の課題に関心を持ち、積極的に努力して学修に取り組むことができる。					
	備考	・○・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	試験		20	30	10	5	65
	発表・レポート		5	5	5	5	20
	学習成果の自己評価		5	5	-	-	10
	受講態度(学習や提出等の状況)		-	-	-	5	5
	合 計(点)		30	40	15	15	100
評価の特記事項							
テキスト	『コンコーネ 50 番(中声用)』全音楽譜出版社 『カンターレ』音楽之友社 手持ち可						
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス 正しい声の出し方 プレスの仕方 身体表現等を学ぶ コンコーネ No.2 [課題(復習・予習)] (呼吸は一番大切なことなので、しっかり訓練して下さい。 1h)						
2	グルーブ授業であるから、お互いに声を聴き合い学ぶ。 イタリア歌曲導入 コンコーネ No.2 Caro mio ben [課題(復習・予習)] (身体表現なので、姿勢には普段から気を付ける事。 1h)						
3	イタリア語の発声を学び、日本語との相違点を確認する。 コンコーネ No.2 Caro mio ben [課題(復習・予習)](イタリア歌曲は母音の明るさが特徴なので、明るい母音を毎日訓練しましょう。 1h)						
4	イタリア歌曲の持つ明るい響きを学ぶ。 コンコーネ No.2 Caro mio ben [課題(復習・予習)](顔に前面に響きが来るように、日々体を使って会話しましょう。 1h)						
5	イタリア古典作曲家の作品を学ぶ。 コンコーネ No.2 Nel cor piu non mi sento [課題(復習・予習)](独特な子音の練習を欠かさず行います。 1h)						
6	イタリア語独自の発音に注意しながら歌うことができる。 コンコーネ No.1 Nel cor piu non mi sento [課題(復習・予習)](ハミングでの練習で息を長くしましょう。 1h)						
7	装飾音の取り扱いに注意して歌う。 コンコーネ No.1 Nel cor piu non mi sento [課題(復習・予習)](毎日歌詞を読む訓練をします。 1h)						
8	イタリアバロックの作曲家、ヘンデルの曲を学ぶ。 コンコーネ No.1 Ombra mai fu [課題(復習・予習)](母音で息を長くします。 1h)						
9	フレーズの長さを考える。 コンコーネ No.1 Ombra mai fu [課題(復習・予習)](母音によって響きが変わらないように、全ての母音で練習します。 1h)						
10	フレーズの長さを保つ練習。 コンコーネ No.1 Ombra mai fu [課題(復習・予習)](ピアノと合わせる練習をしましょう。 1h)						
11	フレーズの長さを考える。 コンコーネ No.3 Ombra mai fu [課題(復習・予習)](リズム感が大切です。体でリズムが刻めるようにします。 1h)						
12	イタリア民謡を学ぶ。 コンコーネ No.3 O sole mio [課題(復習・予習)](イタリア ナポリ民謡の流れを調べる。 1h)						
13	独特の節回しを知る。 コンコーネ No.3 O sole mio [課題(復習・予習)](南の明るい響きを感じる。 1h)						
14	試験曲を選曲する。各自課題を出し合い、話し合う。 コンコーネ No.3 [課題(復習・予習)](伴奏者とコミュニケーションをとる。 1h)						
15	伴奏合わせをする。 コンコーネ No.3 [課題(復習・予習)](伴奏に合わせ、各自の思いが伝わる演奏ができるようにする。 1h)						
時間外での学修	毎日発声の訓練を怠らない。 [この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間]						

受講学生への メッセージ	声楽の勉強は、ピアノ・楽器への応用が著しい課目です。しっかり技術を身につけましょう。 オフィスアワーは授業後教室にて 木曜日14:30～14:40
-----------------	--

【3S8S202】ヴォーカル		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	五島 由美子						
資格・制限等	P・Or・MT・P/MT・Or/MT・W/MTコース必修						
実務家教員	声楽家43年、声楽指導40年、合唱指導26年						
授業内容	歌唱を通して、音楽の表現力を高める授業です。後期は日本歌曲とドイツ歌曲を取り上げます。それぞれの作曲家の意図をくみ取り、言葉と音楽の関係を交え進めていきます。						
授業方法	グルーブレッスンの中で相互に他声を聴きあい、意見交換をする。						
到達目標	知識・理解	音楽の基礎的理論や、曲の生まれた背景を理解し、人に音楽を伝えるための知識を修得することができる。					
	思考・判断・表現	音楽演奏や教育を行うにあたって、必要な理論を適切に理解し、相手の理解に応じて伝えることができる。					
	技能	音楽の専門家としての情報収集能力と技術を持ち、関係職種と連携できるコミュニケーション能力がある。					
	関心・意欲・態度	常に自己資質の向上を目指し、積極的に音楽を通して人とコミュニケーションを取ろうとする意欲がある。					
	備考	・○・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法		20	30	10	5	65
	試験		10	10	5	10	35
	学修態度（発表・受講態度）						
	合 計(点)		30	40	15	15	100
評価の特記事項							
テキスト	『コンコーネ 50番（中声用）』全音楽譜出版社 『カンターレ』音楽之友社 手持ち可						
参考書・教材	なし						
内 容							
実施回	授業内容・目標						
1	日本歌曲を学ぶ。 浜辺の歌 コンコーネ No.4 課題（準備・予習）（日本歌曲の歴史を学ぶ。 1h)						
2	イタリア歌曲との相違点を学ぶ。 浜辺の歌 コンコーネ No.4 課題（準備・予習）（浜辺の歌の歌詞を朗読する。 1h)						
3	情景を浮かべながら歌う。 赤とんぼ コンコーネ No.5 課題（準備・予習）（作曲家 山田耕筰について文献を調べる。 1h)						
4	作詞者・作曲者の意図を知る。 赤とんぼ コンコーネ No.5 課題（準備・予習）（赤とんぼの歌詞を朗読する。 1h)						
5	言葉に沿って音楽の流れをつかむ。 早春賦 コンコーネ No.6 課題（準備・予習）（作曲家 中田章について文献を調べる。 1h)						
6	響きの位置を確認しながら歌う。 早春賦 コンコーネ No.6 課題（準備・予習）（早春賦の歌詞を朗読する。 1h)						
7	日本歌曲のまとめ。 浜辺の歌 赤とんぼ 早春賦 各自選曲した曲を発表し演奏する。 課題（復習）（発表し、演奏した曲を復習する 1h）						
8	ドイツ歌曲を学ぶ。 Heidenröslein 課題（準備・予習）（ドイツ歌曲について調べておく 1h)						
9	ドイツ語の歌詞を味わう。 Heidenröslein 課題（準備・予習）（シューベルトについての文献を調べる。 1h)						
10	ドイツ語の歌詞の深い意味を知る。 Heidenröslein 課題（準備・予習）（歌詞を朗読する。 1h)						
11	ドイツ歌曲を学ぶ。 Auf Flügeln des Gesanges 課題（準備・予習）（メンデルスゾーンについて文献を調べる。 1h)						
12	ピアノと合わせる。 Auf Flügeln des Gesanges 課題（準備・予習）（ピアノとの合わせを緻密に行う。 1h)						
13	ベートーヴェンの歌曲を学ぶ。 Au die Musik 課題（準備・予習）（ベートーヴェン歌曲について文献を調べる。 1h)						
14	ピアノとの合わせを行う。 Au die Musik 課題（準備・予習）（交響曲作曲家のベートーヴェンの歌曲を調べる。 1h)						
15	ドイツ歌曲のまとめ。 既習曲から各自選択し、伴奏合わせをする。 課題（準備・予習）（曲の選択をする。 1h)						
時間外での学修	毎日の発声練習を欠かさないこと。 身体 の訓練を怠らない事。 [この科目で求める望ましい授業外での総学修時間： 15 時間]						
受講学生へのメッセージ	身体表現の授業です。健康には留意してください。 オフィスアワーは授業後教室にて 木曜日12:10～12:20						

【3S8B205】ソルフェージュ		音楽総合学科		1年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	五島 由美子						
資格・制限等	P・Or・MT・P/MT・Or/MT・W/MTコース必修						
実務家教員	声楽家43年、声楽指導40年、合唱指導26年						
授業内容	音楽を的確に表現するための、音楽的基礎能力の育成・視覚・聴覚訓練をしていきます。						
授業方法	実技、実践を中心として基礎的な音楽知識の修得をしていきます。						
到達目標	知識・理解	音感、リズム感、和声感を身につけフレーズを理解し音楽活動の基礎を養う。					
	思考・判断・表現	得られた知識を実際の音楽の現場に対応できるものとする。					
	技能	音楽の専門家としての情報収集能力と技術を持ち、関係職種と連携できるコミュニケーション能力がある。					
	関心・意欲・態度	常に自己資質の向上を目指し、積極的に音楽を通して人とコミュニケーションを取ろうとする意欲がある。					
	備考	・○・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	発表(グループ発表含む)		20	-	10	10	40
	筆記試験		30	10	-	-	40
	自己評価		5	5	-	-	10
	受講態度		-	-	-	10	10
	合 計(点)		55	15	10	20	100
評価の特記事項							
テキスト	『コールユーブンゲン』大阪開成館 『コンコーネ(中声用)』全音楽譜出版社 『新曲視唱(1)』エー・ティー・エヌ 手持ち可						
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス ソルフェージュの概要を説明し、授業の目標・内容を理解する。 コンコーネNo.1 コールユーブンゲンNo.2 聴音 (課題・予習 コールユーブンゲンNo.4・No.6を予習しておく。 1h)						
2	コンコーネNo.1 コールユーブンゲンNo.4・No.6 聴音 (課題・予習、復習 コールユーブンゲンNo.7・No.9を予習し、No.4・No.6の復習をする。 1h)						
3	コンコーネNo.1 コールユーブンゲンNo.7・No.9 聴音 (課題・予習、復習 コールユーブンゲンNo.11・No.13を予習し、No.7・No.9の復習をする。 1h)						
4	コンコーネNo.1 コールユーブンゲンNo.11・No.13 聴音 (課題・予習、復習 コールユーブンゲンNo.15・No.17を予習し、No.11・No.13の復習をする。 1h)						
5	コンコーネNo.1 コールユーブンゲンNo.15・No.17 聴音 到達度確認テスト (課題・予習、復習 コールユーブンゲンNo.18を予習し、No.15・No.17の復習をする。 1h)						
6	コンコーネNo.2 コールユーブンゲンNo.18 新曲視唱No.1～No.10 聴音 (課題・予習、復習 コールユーブンゲンNo.19を予習し、No.18の復習をする。 1h)						
7	コンコーネNo.2 コールユーブンゲンNo.19 新曲視唱No.11～No.20 聴音 (課題・予習、復習 コールユーブンゲンNo.20を予習し、No.19の復習をする。 1h)						
8	コンコーネNo.2 コールユーブンゲンNo.20 新曲視唱No.21～No.30 聴音 (課題・予習、復習 コールユーブンゲンNo.23を予習し、No.20の復習をする。 1h)						
9	コンコーネNo.2 コールユーブンゲンNo.23 新曲視唱No.31～No.40 聴音 (課題・予習、復習 コールユーブンゲンNo.24を予習し、No.23の復習をする。 1h)						
10	コンコーネNo.2 コールユーブンゲンNo.24 新曲視唱No.41～No.50 聴音 到達度確認テスト (課題・予習、復習 コールユーブンゲンNo.25を予習し、No.24の復習をする。 1h)						
11	コンコーネNo.3 コールユーブンゲンNo.25 新曲視唱No.51～No.60 聴音 (課題・予習、復習 コールユーブンゲンNo.26を予習し、No.25の復習をする。 1h)						
12	コンコーネNo.3 コールユーブンゲンNo.26 新曲視唱No.61～No.70 聴音 (課題・予習、復習 コールユーブンゲンNo.27を予習し、No.26の復習をする。 1h)						
13	コンコーネNo.3 コールユーブンゲンNo.27 新曲視唱No.111～No.120 聴音 (課題・予習、復習 コールユーブンゲンNo.28を予習し、No.27の復習をする。 1h)						
14	コンコーネNo.3 コールユーブンゲンNo.28 新曲視唱No.121～No.130 聴音 (課題・予習、復習 コールユーブンゲンNo.29を予習し、No.28の復習をする。 1h)						
15	コンコーネNo.3 コールユーブンゲンNo.29 新曲視唱No.131～No.140 聴音 到達度確認テスト (課題・復習 コールユーブンゲンNo.2～No.29までの復習をする。 2h)						
時間外での学修	毎回授業で学んだ課題の復習、予習をしっかりと行うことがソルフェージュ上達を確実なものにします。 [この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：16時間]						
受講学生へのメッセージ	一回一回の授業がとても大切です。欠席しないよう体調にも気を付けてください。 オフィスアワーは授業後教室にて 金曜日14:40～14:40						

【3S8S206】ソルフェージュ		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	五島 由美子						
資格・制限等	P・Or・MT・P/MT・Or/MT・W/MTコース必修						
実務家教員	声楽家43年、声楽指導40年、合唱指導26年						
授業内容	1年前期で修得した音楽を、更なる確に表現するための音楽的基礎能力の育成、聴覚訓練をしていきます。						
授業方法	実技、実践を中心として基礎的な音楽知識の習得をしていきます。						
到達目標	知識・理解	音感、リズム感、和声感を身につけフレーズを理解し音楽活動の基礎を養う。					
	思考・判断・表現	得られた知識を実際の音楽の現場に対応できるものにする。					
	技能	音楽の専門家としての情報収集能力と技術を持ち、関係職種と連携できるコミュニケーション能力がある。					
	関心・意欲・態度	常に自己資質の向上を目指し、積極的に音楽を通して人とコミュニケーションを取ろうとする意欲がある。					
	備考	・○・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	発表		20	-	10	10	40
	筆記試験		30	10	-	-	40
	自己評価		5	5	-	-	10
	受講態度		-	-	-	10	10
	合 計(点)		55	15	10	20	100
評価の特記事項							
テキスト	『コールユーブンゲン』大阪開成館 『コンコーネ(中声用)』全音楽譜出版社 『新曲視唱(1)』エー・ティー・エヌ 手持ち可						
参考書・教材	なし						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	コンコーネNo.4 コールユーブンゲンNo.30 新曲視唱No.141～No.150 聴音 (課題・予習、復習 コールユーブンゲンNo.31を予習し、No.30の復習をする。 1h)						
2	コンコーネNo.4 コールユーブンゲンNo.31 新曲視唱No.151～No.160 聴音 (課題・予習、復習 コールユーブンゲンNo.32を予習し、No.31の復習をする。 1h)						
3	コンコーネNo.5 コールユーブンゲンNo.32 新曲視唱No.161～No.170 聴音 (課題・予習、復習 コールユーブンゲンNo.33を予習し、No.32の復習をする。 1h)						
4	コンコーネNo.5 コールユーブンゲンNo.33 新曲視唱No.171～No.180 聴音 (課題・予習、復習 コールユーブンゲンNo.34・No.35を予習し、No.33の復習をする。 1h)						
5	コンコーネNo.6 コールユーブンゲンNo.34・No.35 新曲視唱 第2章No.1～No.10 聴音 到達度確認テスト (課題・予習、復習 コールユーブンゲンNo.36を予習し、No.34・No.35の復習をする。 1h)						
6	コンコーネNo.6 コールユーブンゲンNo.36 新曲視唱 第2章No.11～No.20 聴音 (課題・予習、復習 コールユーブンゲンNo.37を予習し、No.36の復習をする。 1h)						
7	コンコーネNo.7 コールユーブンゲンNo.37 新曲視唱 第2章No.21～No.30 聴音 (課題・予習、復習 コールユーブンゲンNo.38を予習し、No.37の復習をする。 1h)						
8	コンコーネNo.7 コールユーブンゲンNo.38 新曲視唱 第2章No.31～No.40 聴音 (課題・予習、復習 コールユーブンゲンNo.39を予習し、No.38の復習をする。 1h)						
9	コンコーネNo.8 コールユーブンゲンNo.39 新曲視唱 第2章No.41～No.50 聴音 (課題・予習、復習 コールユーブンゲンNo.40・No.41を予習し、No.39の復習をする。 1h)						
10	コンコーネNo.8 コールユーブンゲンNo.40・No.41 新曲視唱 第2章No.51～No.60 聴音 到達度確認テスト (課題・予習、復習 コールユーブンゲンNo.42を予習し、No.40・No.41の復習をする。 1h)						
11	コンコーネNo.11 コールユーブンゲンNo.42 新曲視唱 第2章No.61～No.70 聴音 (課題・予習、復習 コールユーブンゲンNo.43を予習し、No.42の復習をする。 1h)						
12	コンコーネNo.11 コールユーブンゲンNo.43 新曲視唱 第2章No.71～No.80 聴音 (課題・予習、復習 コールユーブンゲンNo.44を予習し、No.43の復習をする。 1h)						
13	コンコーネNo.12 コールユーブンゲンNo.44 新曲視唱 第2章No.81～No.90 聴音 (課題・予習、復習 コールユーブンゲンNo.45を予習し、No.44の復習をする。 1h)						
14	コンコーネNo.12 コールユーブンゲンNo.45 新曲視唱 第3章No.1～No.10 聴音 (課題・予習、復習 コールユーブンゲン1年のまとめ。 既習曲の復習 1h)						
15	コンコーネNo.12 到達度確認テスト 新曲視唱 第3章No.11～No.20 聴音 (課題・復習 コールユーブンゲン1年のまとめ。 既習曲の復習 1h)						
時間外での学修	毎回授業で学んだ課題の復習、予習をしっかりと行うことがソルフェージュ上達を確実なものにします。 [この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間]						
受講学生へのメッセージ	一回一回の授業がとても大切です。欠席しないよう体調にも気を付けてください。 オフィスアワーは授業後教室にて 金曜日14:30～14:40						

【3S8B109】音楽理論		音楽総合学科		1年前期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	長尾 洪基						
資格・制限等	MT・P/MT・Or/MTコース必修						
実務家教員	作編曲家、吹奏楽指導者（含 高等学校教員）・31年						
授業内容	音楽を演奏するためには、楽譜についての「約束事」を知る必要があります。それが音楽理論です。すでに知っていることなども、基本から系統立てて学修します。音・音楽についての正確な知識を身に付け、自身の演奏する楽曲について理解を高め、演奏に活かされることを目指します。						
授業方法	講義授業ですが、質疑応答の時間を設け、問題を解きながら進めていきます。						
到達目標	知識・理解	楽譜についての基礎的な知識を理解することができる。					
	思考・判断・表現	修得した基礎知識を応用することができる。					
	関心・意欲・態度	理論を実践に活かすことができるよう、意欲的に取り組むことができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	試験		40	20	-	-	60
	小テスト		15	5	-	-	20
	受講態度		-	-	-	20	20
	合 計(点)		55	25	-	20	100
評価の特記事項							
テキスト	『新装版「楽典」理論と実習』音楽之友社(2,106円) ISBN:978-4276100008						
参考書・教材	必要な資料等は配布します。五線ノートは準備してください。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	授業説明 音・純正律と十二平均律 楽譜の書き方 【課題（準備）】 テキストの序章をひと通り読んでおく、音部記号・音符を書いてみる（4h）						
2	譜表と音名 【課題（復習）】 学修した内容の復習・宿題（4h）						
3	音符と休符 【課題（復習）】 学修した内容の復習・宿題（4h）						
4	リズムと拍子（１） リズム、拍と拍子、拍子の記法、拍子に関する演奏上の注意、強起と弱起 【課題（復習）】 学修した内容の復習・宿題（4h）						
5	リズムと拍子（２） 拍子の種類、拍子の変化、シンコペーション、リズムに関する記譜上の注意 【課題（復習）】 学修した内容の復習・宿題（4h）						
6	音程（１） 度数、音程における完全・長・短などの種類、幹音どうしの2音によってできる音程 【課題（復習）】 学修した内容の復習・宿題（4h）						
7	音程（２） 派生音（ ・ などのついた音）を含む2音によってできる音程 【課題（復習）】 学修した内容の復習・宿題（4h）						
8	音程（３） 複音程 【課題（復習）】 学修した内容の復習・宿題（4h）						
9	音程（４） 音程の転回、協和音程と不協和音程 【課題（復習）】 学修した内容の復習・宿題（4h）						
10	音階（１） 長音階と短音階 【課題（復習）】 学修した内容の復習・宿題（4h）						
11	音階（２） 長音階と短音階 【課題（復習）】 学修した内容の復習・宿題（4h）						
12	音階（３） 調 【課題（復習）】 学修した内容の復習・宿題（4h）						
13	音階（４） 調 【課題（復習）】 学修した内容の復習・宿題（4h）						
14	音階（５） 調の相互関係 【課題（復習）】 学修した内容の復習・宿題（4h）						
15	前期まとめ 【課題（復習・準備）】 学修した内容の復習・試験対策（4～10h）						
時間外での学修	復習・宿題は必ず行いましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間；60時間】						
受講学生へのメッセージ	一項目ずつ理解し次々と応用していけるよう、欠席はせず、理解できないことは積極的に質問してください。 オフィスアワーは授業教室で授業前後の休み時間です。						

【3S8S110】音楽理論		音楽総合学科		1年後期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	長尾 洪基						
資格・制限等	MT・P/MT・Or/MTコース必修						
実務家教員	作編曲家、吹奏楽指導者（含 高等学校教員）・31年						
授業内容	前期に引き続き、音・音楽についての正確な知識を身に付け、音楽理論の理解を深めていきます。学修した理論が実践に活かされることを目指します。						
授業方法	講義授業ですが、質疑応答の時間を設け、問題を解きながら進めていきます。						
到達目標	知識・理解	楽譜についての基礎的な知識を理解することができる。					
	思考・判断・表現	修得した基礎知識を応用することができる。					
	関心・意欲・態度	理論を実践に活かすことができるよう、意欲的に取り組むことができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	試験		40	20	-	-	60
	小テスト		15	5	-	-	20
	受講態度		-	-	-	20	20
合 計(点)		55	25	-	20	100	
評価の特記事項							
テキスト	『『新装版「楽典」理論と実習』』音楽之友社(2,106円)ISBN:978-4276100008 「音楽理論」履修者は購入済						
参考書・教材	必要な資料等は配布します。五線ノートは準備してください。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	音階（６） 移調と転調 [課題（復習）] 学修した内容の復習・宿題（4h）						
2	音階（７） 移調と転調 [課題（復習）] 学修した内容の復習・宿題（4h）						
3	音階（８） 調の判定 [課題（復習）] 学修した内容の復習・宿題（4h）						
4	音階（９） 調の判定 [課題（復習）] 学修した内容の復習・宿題（4h）						
5	音階（10） 調の判定、その他の音階 [課題（復習）] 学修した内容の復習・宿題（4h）						
6	和音（１） 三和音と七の和音 [課題（復習）] 学修した内容の復習・宿題（4h）						
7	和音（２） 三和音の種類 [課題（復習）] 学修した内容の復習・宿題（4h）						
8	和音（３） 和音の基本形および転回形 [課題（復習）] 学修した内容の復習・宿題（4h）						
9	和音（４） 音階各音上の三和音、七の和音 [課題（復習）] 学修した内容の復習・宿題（4h）						
10	和音（５） 和音の機能、主要三和音と副三和音 [課題（復習）] 学修した内容の復習・宿題（4h）						
11	速さ・強さに関する表示法 [課題（復習）] 学修した内容の復習・宿題（4h）						
12	曲想・奏法に関する表示法（１） 曲想に関する用語（発想標語） [課題（復習）] 学修した内容の復習・宿題（4h）						
13	曲想・奏法に関する表示法（２） 奏法を指示する用語・記号 [課題（復習）] 学修した内容の復習・宿題（4h）						
14	曲想に関する表示法（３） 装飾音・装飾記号、略記法 [課題（復習）] 学修した内容の復習・宿題（4h）						
15	まとめ [課題（復習・準備）] 学修した内容の復習・試験対策（4h）						
時間外での学修	復習・宿題は必ず行いましょう。 [この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間]						
受講学生へのメッセージ	一項目ずつ理解し次々と応用していけるよう、欠席はせず、理解できないことは積極的に質問してください。 オフィスアワーは授業教室で授業前後の休み時間です。						

【3S8B111】音楽史		音楽総合学科		1年前期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	三輪 泰子						
資格・制限等	P・Or・P/MT・Or/MTコース必修						
実務家教員	音楽教室講師・17年						
授業内容	音楽のルーツ、歴史、作曲家が生きた時代とその生涯について学びます。						
授業方法	講義形式で行います。自分に必要な音楽をたくさん聴きたい、感じたい、学びたいという姿勢で取り組んで欲しいので、ノートは、必ず、取っていただきます。						
到達目標	知識・理解	音楽史の基礎的な知識を身に付け、人に伝えられるようになる。					
	思考・判断・表現	音楽分野全般への感性を高めるために、音楽の背景を知る。					
	技能	音楽史を学ぶ事により得た情報能力を、コミュニケーション能力に発展させる。					
	関心・意欲・態度	音楽史の知識を、演奏、音楽指導活動に活かせるようにする。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート		40	20	20	-	80
	ノートチェック		-	-	-	10	10
	受講態度		-	-	-	10	10
	合 計(点)		40	20	20	20	100
評価の特記事項							
テキスト	『西洋音楽史概説』門馬直美 春秋社(3,024円) ISBN: 978-4393930014						
参考書・教材	特にありません。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	古代、中世の音楽 [課題（準備）]音楽史の本を読んでみましょう。(3～5h)						
2	ルネサンス音楽 [課題（予習）]モンテベルディ、パレストリーナを聴いてみましょう。(3～5h)						
3	バロック音楽 [課題（予習）]ヴィヴァルディ、バッハ、ヘンデルを聴いてみましょう。(3～5h)						
4	クラシック音楽 [課題（予習）]モーツァルトを聴いてみましょう。(3～5h)						
5	クラシック音楽 [課題（予習）]ベートーヴェンを聴いてみましょう。(3～5h)						
6	ロマン主義音楽 [課題]メンデルスゾーン、シューベルトを聴いてみましょう。(3～5h)						
7	ロマン主義音楽 [課題（予習）]シューマン、ショパンを聴いてみましょう。(3～5h)						
8	第1回レポート [課題（準備）]興味・関心を持った作曲家、曲、時代について、調べてまとめましょう。。(3～5h)						
9	ロマン主義音楽 [課題（予習）]リストを聴いてみましょう。(3～5h)						
10	新ロマン主義音楽 [課題（予習）]ヴァーグナー、ブラームスを聴いてみましょう。(3～5h)						
11	フランス音楽 [課題（予習）]ビゼー、サンサーンスを聴いてみましょう。(3～5h)						
12	イタリア音楽 [課題（予習）]ヴェルディ、プッチーニを聴いてみましょう。(3～5h)						
13	イギリス音楽 [課題（予習）]エルガー、ホルストを聴いてみましょう。(3～5h)						
14	ウィーンの音楽 [課題（予習）]Jシュトラウスを聴いてみましょう。(3～5h)						
15	アメリカの音楽 [課題（予習）]フォスター、ガーシュウィンを聴いてみましょう。(3～5h)						
時間外での学修	興味をもった作曲家について調べたり、音楽を聴いたりしてください。図書館を有効利用するのも良いと思います。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間；60時間]						
受講学生へのメッセージ	音楽を勉強していく上で、音楽史を知することは、演奏力の向上にもつながると思います。積極的に受講してください。 一生懸命書いたノートは、大切な記録となると思います。 オフィスアワーは、教室で授業前後です。						

【3S8S112】音楽史		音楽総合学科		1年後期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	三輪 泰子						
資格・制限等	P・Or・P/MT・Or/MTコース必修						
実務家教員	音楽教室講師・17年						
授業内容	音楽のルーツ、歴史、作曲家が生きた時代とその生涯について学びます。						
授業方法	講義形式で行います。自分に必要な音楽をたくさん聴きたい、感じたい、学びたいという姿勢で取り組んで欲しいので、ノートは、必ず、取っていただきます。						
到達目標	知識・理解	音楽史の基礎的な知識を身に付け、人に伝えられるようになる。					
	思考・判断・表現	音楽分野全般への感性を高めるために、音楽の背景を知る。					
	技能	音楽史を学ぶ事により得た情報能力を、コミュニケーション能力に発展させる。					
	関心・意欲・態度	音楽史の知識を、演奏、音楽指導活動に活かせるようにする。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート		40	20	20	-	80
	ノートチェック		-	-	-	10	10
	受講態度		-	-	-	10	10
	合 計(点)		40	20	20	20	100
評価の特記事項							
テキスト	『西洋音楽史概説』門馬 直美 春秋社(3,024円) ISBN:978-4393930014 「音楽史」履修者は購入済						
参考書・教材	特にありません。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ロシアの音楽 [課題（予習）]ロシア5人組、ムソルグスキーの音楽を聴いてみましょう。(3～5h)						
2	ロシアの音楽 [課題（予習）]チャイコフスキーの音楽を聴いてみましょう。(3～5h)						
3	ノルウェー、フィンランドの民族主義音楽 [課題（予習）]グリーグ・シベリウスの音楽を聴いてみましょう。(3～5h)						
4	チェコスロヴァキアの音楽 [課題（予習）]スメタナ、ドヴォルザークの音楽を聴いてみましょう。(3～5h)						
5	スペインの音楽 [課題（予習）]アルベニス、グラナドスの音楽を聴いてみましょう。(3～5h)						
6	民族主義音楽のまとめ [課題（予習）]お気に入りの曲を見つけて聴いてみおもしろ。(3～5h)						
7	第3回レポート [課題（準備）]ノートチェックもしますので、忘れないようにしましょう。(3～5h)						
8	近代・現代の音楽 [課題（予習）]ドビュッシー・ラヴェルの音楽を聴いてみましょう。(3～5h)						
9	近代・現代の音楽 [課題（予習）]シェーンベルク、ストラヴィンスキーの音楽を聴いてみましょう。(3～5h)						
10	近代・現代の音楽 [課題（予習）]プロコフィエフ、バルトークの音楽を聴いてみましょう。(3～5h)						
11	近代・現代の音楽 [課題（予習）]ハチャトゥーリアンの音楽を聴いてみましょう。(3～5h)						
12	近代・現代の音楽 [課題]（予習）]バレフスキーの音楽を聴いてみましょう。(3～5h)						
13	近代・現代の音楽 [課題（予習）]バルトークの音楽を聴いてみましょう。(3～5h)						
14	日本の音楽 [課題（復習）]日本の音色にも、耳を傾けてみましょう。(3～5h)						
15	世界の音楽 [課題（復習）]インターネットを利用して、動画を見てみましょう。(3～5h)						
時間外での学修	興味をもった作曲家について調べたり、音楽を聴いたりしてください。図書館を有効利用するのも良いと思います。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間]						
受講学生へのメッセージ	音楽を勉強していく上で、音楽史を知することは、演奏力の向上にもつながると思います。積極的に受講してください。 一生懸命書いたノートは、大切な記録となると、思います。 オフィスアワーは、教室で授業前後です。						

【3S3B205】鍵盤楽器		音楽総合学科		1年前期		
		1単位	選択	演習	30時間	
教員	野口 歩					
資格・制限等	MT・W/MTコース必修					
実務家教員						
授業内容	鍵盤楽器であるピアノの基礎的な演奏技術や奏法を習得し、音楽の楽しさ素晴らしさを感じ、より豊かな演奏表現ができるようにしていきます。					
授業方法	一人一人の進度に合った個人レッスンです。 レッスンの時間までの空き時間は、自主練習をして待っていること。 オンライン授業の期間は、学生ひとりひとりがあらかじめ録音もしくは録画したデータをもとに、lineのビデオ通話を使用して、双方型授業を進める。					
到達目標	知識・理解	ピアノの演奏に必要な基礎的な奏法を身につけることができる。				
	思考・判断・表現	演奏する曲にふさわしい奏法や表現力を、自ら考え培うことができる。				
	技能	音楽の専門家として役立てていけるために必要な演奏技術を身に付けることができる。				
	関心・意欲・態度	曲に対する関心を持ち理解を深め、意欲的に取り組む姿勢を持つことで音楽を通して、人との関わりを大切にいくことができる。				
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	実技試験	-	30	30	-	60
	受講態度	25	-	-	15	40
	合 計(点)	25	30	30	15	100
評価の特記事項	受講態度は課題の取り組み状況を含みます。					
テキスト						
参考書・教材	個々のレベルに合った楽譜を選択します。					
内 容						
実施回	授業内容・目標					
1	ガイダンス・lineのビデオ通話を使用して、ひとりひとりに次回からの授業の進め方の説明と、練習曲を個々に選択する。 [課題(準備)]次回からの曲の譜読みをする。(1h)					
2	練習曲(1)指使い[lineのビデオ通話で奏法の確認。] [課題(復習)]指のポジションや指使いを確認する。(1h)					
3	練習曲(2)部分練習[lineのビデオ通話で、練習法を確認。] [課題(復習)]片手奏や部分練習を十分に行う。(1h)					
4	練習曲(3)音楽表現 [課題(復習)]音の強弱やフレーズを考えて演奏する。(1h)					
5	練習曲(4)曲想 [課題(復習)]曲想を、自ら考えて演奏する。(1h)					
6	練習曲(5)弾き込み [課題(復習)]曲の流れを考えて、反復練習する。(1h)					
7	練習曲(6)仕上げ [課題(復習)]練習を積み重ねてきた曲をまとめる。(1h)					
8	試験曲の選曲を個々に行う。 [課題(準備)]試験曲の譜読みをする。(1h)					
9	試験曲(1)指使い [課題(復習)]指使いの工夫やポジションの再確認する。(1h)					
10	試験曲(2)フレージング・バランス [課題(復習)]曲にふさわしいテンポや音のバランスを考える。(1h)					
11	試験曲(3)曲想 [課題(復習)]音楽の流れや響きを考える。(1h)					
12	試験曲(4)暗譜・曲の理解を深めるために必要不可欠な為時間をかけて取り組む [課題(復習)]暗譜を丁寧にする。(1h)					
13	試験曲(5)弾き込み [課題(復習)]曲の流れをとらえて、止まらないで演奏できるように弾き込む。(1h)					
14	試験曲(6)仕上げ [課題(復習)]何度も練習を積み重ねる。(1h)					
15	試験曲(7)前期のまとめとして、自信をもって演奏できるように繰り返し練習する。 [課題(準備)]休暇中の課題曲を決める。(1h)					
時間外での学修	個々の進度に合わせて進めていきますので、レッスンで学んだことの復習と次回レッスンまでの目標を達成できるように自主練習を心がけてください。 [この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間]					
受講学生へのメッセージ	レッスンで習得したことを改善していけるように日々の積み重ねが大切です。 オフィスアワーは、レッスン時間の前後休み時間です。					

【3S3S206】鍵盤楽器		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	野口 歩						
資格・制限等	MT・W/MTコース必修						
実務家教員							
授業内容	鍵盤楽器であるピアノの基礎的な演奏技術や奏法を習得し、音楽の楽しさや素晴らしさを感じ、より豊かな演奏表現ができるようにしていきます。						
授業方法	一人一人の進度に合った個人レッスンです。 レッスンの時間までの空き時間は、練習室で自主練習をしてください。						
到達目標	知識・理解	ピアノの演奏に必要な基礎的な奏法を身につけることができる。					
	思考・判断・表現	演奏する曲にふさわしい奏法や表現力を、自ら考え培うことができる。					
	技能	音楽の専門家として役立てていけるために必要な演奏技術を身に付けることができる。					
	関心・意欲・態度	曲に対する関心を持ち理解を深め、意欲的に取り組む姿勢を持つことで音楽を通して、人との関わりを大切にしていけることができる。					
	備考	・ の記号はD P・到達目標との結びつきの強さを示します。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	30	30	-	60
	受講態度		25	-	-	15	40
	合 計(点)		25	30	30	15	100
評価の特記事項	実技試験は受講生全員で行います。受講態度は課題の取り組み状況を含みます。						
テキスト							
参考書・教材	個々のレベルに合った楽譜を選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	休暇中の課題の発表・見直し(1h) [課題(準備)]次回からの練習曲の選曲をする。						
2	練習曲(1)譜読み [課題(復習)]選曲した練習曲の譜読みをする。(1h)						
3	練習曲(2)部分練習 [課題(復習)]片手奏や部分練習を十分に行う。(1h)						
4	練習曲(3)音楽表現 [課題(復習)]音の強弱やフレーズを考えて演奏する。(1h)						
5	練習曲(4)曲想 [課題(復習)]曲想を、自ら考えて演奏する。(1h)						
6	練習曲(5)弾き込み [課題(復習)]曲の流れを考えて、反復練習する。(1h)						
7	練習曲(6)仕上げ [課題(復習)]練習を積み重ねてきた曲をまとめる。(1h)						
8	試験曲の選曲を個々に行う [課題(準備)]試験曲の譜読みをする。(1h)						
9	試験曲(1)指使い [課題(復習)]指使いの工夫やポジションの再確認する。(1h)						
10	試験曲(2)フレージング・バランス [課題(復習)]曲にふさわしいテンポや音のバランスを考える。(1h)						
11	試験曲(3)曲想 [課題(復習)]音楽の流れや響きを考える。(1h)						
12	試験曲(4)暗譜・曲の理解を深めるために必要不可欠な為時間をかけて取り組む [課題(復習)]暗譜を丁寧にする。(1h)						
13	試験曲(5)弾き込み [課題(復習)]曲の流れをとらえて、止まらないで演奏できるように弾き込む。(1h)						
14	試験曲(6)仕上げ [課題(復習)]何度も練習を積み重ねる。(1h)						
15	試験曲(7)総まとめ [課題(復習)]これまでに習得した演奏技術や音楽表現を活かした演奏ができるようにする。(1h)						
時間外での学修	個々の進度に合わせて進めていきますので、レッスンで学んだことの復習と次回レッスンまでの目標を達成できるように自主練習を心がけてください。 [この科目で求める望ましい授業外での総学修時間： 15 時間]						
受講学生へのメッセージ	レッスンで習得したことを改善していけるように日々の積み重ねが大切です。 オフィスアワーは、レッスン時間の前後休み時間です。						

【3T7F201】スポーツ・レクリエーション		音楽総合学科		1年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	垣添 忠厚						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	垣添：特別支援学校教諭（18年）、小学校教諭（5年）						
授業内容	子どもから大人まで幅広い年齢層で自分に合った軽スポーツやレクリエーションを楽しむことができます。これら軽スポーツやレクリエーションの特性について理解し、レクリエーションの中で行われる遊びや活動によってもたらされる「楽しさ」についてスポーツと関連させ、保育や地域活動等で活かせるレクリエーションを学びます。						
授業方法	レクリエーション・インストラクターの資格取得を目指し、主に体育館で実技を実施します。内容によって教室にて講義を実施します。						
到達目標	知識・理解	レクリエーションの特性について理解する。					
	思考・判断・表現	保育者として、レクリエーションの方法について理解し、実践することができる。					
	技能	学んだ知識や技能を保育や地域活動等で活かすことができる。					
	関心・意欲・態度	レクリエーション活動の中で、仲間と協力することができる。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	発表		10	-	10	-	20
	レポート		-	15	-	-	15
	自己評価		-	15	-	-	15
	課題提出		-	-	20	-	20
	受講態度		-	-	-	30	30
	合 計(点)		10	30	30	30	100
評価の特記事項	発表(各自1回)、課題提出(4回)、レポートと自己評価は出席カードの内容を基に評価します。受講態度は毎時間の取り組み姿勢を評価します。						
テキスト	『楽しさをとおした心の元気づくり』公益財団法人 日本レクリエーション協会 (1,980円) ISBN:978-4-931180-95-6 『アイスブレイキング集』公益財団法人 日本レクリエーション協会 (990円) ISBN:978-4-931180-72-7						
参考書・教材	幼稚園教育要領解説、保育所保育指針、ほか必要に応じて配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	課題：学生ポータルに提示した資料を参考にレクリエーション概論「レクリエーションとレクリエーション・インストラクター」及びレクリエーション支援と理論についての課題に取り組む。 [課題(復習)] 課題を完成させ提出する。(1h~2h)						
2	課題：学生ポータルに提示した資料を参考に楽しさと心の元気づくりの理論 「楽しさを通した心の元気づくりと対象者の心の元気」の課題に取り組む。 [課題(復習)] 課題を完成させ提出する。(1h~2h)						
3	講義：学生ポータルに提示した資料及びオープンな教育リソースを参考に楽しさと心の元気づくりの理論「心の元気と地域のきずな」の課題に取り組む。 [課題(復習)] 課題を完成させ提出する。(1h~2h)						
4	演習：楽しさと心の元気づくりの方法として、ミナモ体操、ミナモダンスを実践する。 [課題(復習)] ミナモ体操、ミナモダンスの師範演技ができるように練習する。(1h~2h)						
5	演習：レクリエーション支援の方法 -1「良好な集団づくりの方法1」について、レクリエーションをとおして実践する。 [課題(予習)] 良好な集団づくりに関連するレクリエーションについて調べる。(1h~2h)						
6	演習：レクリエーション支援の方法 -2「良好な集団づくりの方法2」について、レクリエーションをとおして実践する。 [課題(復習)] 実践した内容を、レポートにまとめる。(1h~2h)						
7	講義：レクリエーション支援の理論 「コミュニケーションと信頼関係づくり」を理解する。 [課題(復習)] 学修した内容を振り返り、レポートにまとめる。(1h~2h)						
8	演習：レクリエーション支援の方法 -1「信頼関係の方法1」について、自分が展開するレクリエーションを決め計画する。 [課題(予習)] 信頼関係を深めるためのレクリエーションについて調べる。(1h~2h)						
9	演習：レクリエーション支援の方法 -2「信頼関係の方法2」について計画書を作成する。 [課題(復習)] 各自が設定したレクリエーションの計画書を完成させる。(1h~2h)						
10	グループワーク：レクリエーション支援の理論 「自主的、主体的に楽しむ力を高める理論」を理解し、グループに分かれレクリエーション課題について話し合う。 [課題(復習)] レクリエーションを自主的、主体的に進めるための課題をレポートにまとめる。(1h~2h)						
11	発表：レクリエーション支援の方法 -1「自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法1」 [課題(復習)]。学修内容を振り返り、レポートにまとめる。(1h~2h)						
12	発表：レクリエーション支援の方法 -2「自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法2」(発表) [課題(復習)]。学修内容を振り返り、レポートにまとめる。(1h~2h)						
13	発表：レクリエーション支援の方法 -3「自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法3」(発表) [課題(復習)]。学修内容を振り返り、レポートにまとめる。(1h~2h)						
14	発表：レクリエーション支援の方法 -4「自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法4」(発表) [課題(復習)] 学修内容を振り返り、レポートにまとめる。(1h~2h)						
15	発表：レクリエーション支援の方法 -5「自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法5」(発表) [課題(復習)]。学修内容を振り返り、レポートにまとめる。(1h~2h)						
時間外での学修	感染症の流行による社会情勢から、学外実習(ボランティア)への参加が難しい状況ですので、各自が担当するレクリエーションの課題について、公益財団法人日本レクリエーション協会のホームページを活用し、主体的に準備、計画を進めること。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15~30時間】						

受講学生への メッセージ	スポーツやレクリエーションのおもしろさや達成感を十分に体験できるよう意欲的に取り組んでください。 安全には十分に注意し、運動のできる服装と体育館シューズは必ず着用してください。 オフィスアワーは研究室（H203：H号館2F）で毎週金曜日12：15～12：45です。
-----------------	--

【3T7F202】スポーツ・レクリエーション		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	垣添 忠厚						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	垣添：特別支援学校教諭(18年)、小学校教諭(5年)						
授業内容	子どもから大人まで幅広い年齢層で自分に合った軽スポーツやレクリエーションを楽しむ人が増加しています。コミュニケーションを深めるためのゲームやニュースポーツを中心にレクリエーション的な要素を取り入れながら実践します。また、スポーツ・レクリエーションに関する知的理解と指導法について学びます。10月31日(土)または11月1日(日)は、学外授業となります(授業時に説明します)。						
授業方法	レクリエーション・インストラクターの資格取得を目指し、授業は主に体育館で実施します。						
到達目標	知識・理解	各種目の競技特性を理解し、実践することができる。					
	思考・判断・表現	保育者として、状況を把握判断し、主体的に活動することができる。					
	技能	学んだ知識や技能を保育や地域活動等で活かすことができる。					
	関心・意欲・態度	レクリエーション・活動の中で仲間と協力することができる。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート		15	-	-	-	15
	自己評価		15	-	-	-	15
	発表		-	20	20	-	40
	受講態度		-	-	-	30	30
	合 計(点)		30	20	20	30	100
評価の特記事項	レポート、自己評価、発表(2回)、は出席カードを基に評価します。受講態度は、毎時間の取り組みを評価します。						
テキスト	『楽しさをとおした心の元気づくり』公益社団法人 日本レクリエーション協会 (1,980円)ISBN:978-4-931180-95-6 『アイスブレーキング集』公益社団法人 日本レクリエーション協会 (990円)ISBN:978-4-931180-72-7						
参考書・教材	幼稚園教育要領解説、保育所保育指針、ほか必要に応じて配付します。						
内 容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス、学外授業の説明 [課題(準備)] 授業内容を理解し学外授業の計画を立てる。(1h~2h)						
2	コミュニケーションワーク (個人ゲーム) [課題(準備)] 個人ゲームについて理解し、手づくりのゲームを準備する。(1h~2h)						
3	コミュニケーションワーク (集団ゲーム) [課題(準備)] 個人ゲームについて理解し、手づくりのゲームを準備する。(1h~2h)						
4	目的に合わせたレクリエーション・ワーク(ドッジボール) [課題(復習)] ドッジボールのルールを理解し、ノートにまとめる。(1h~2h)						
5	対象に合わせたレクリエーション・ワーク(フライングディスク・ディスクゴルフ)及び学外授業の説明 [課題(復習)] ディスクゴルフのコースづくりを計画し、ノートにまとめる。(1h~2h)						
6	学外授業：ねんりんピック開会式またはレクリエーション体験コーナー(参加者またはスタッフとして) [課題(復習)] 学外授業の内容をノートにまとめる。(1h~2h)						
7	対象に合わせたレクリエーション・ワーク(ボールゲーム) [課題(復習)] これまでの授業内容をノートにまとめる。(1h~2h)						
8	学外授業：ねんりんピック開会式またはレクリエーション体験コーナー(参加者またはスタッフとして) [課題(復習)] 学外授業の内容をノートにまとめる。(1h~2h)						
9	学外授業：ねんりんピック開会式またはレクリエーション体験コーナー(参加者またはスタッフとして) [課題(復習)] 学外授業の内容をノートにまとめる。(1h~2h)						
10	活動領域に合わせたアクティビティ(伝言ゲーム) [課題(準備)] クリスマス会に向けて準備をする。(1h~2h)						
11	イベント企画 (グループ作り、計画準備) [課題(準備・復習)] クリスマス会の計画と準備をノートにまとめる。(1h~2h)						
12	イベント企画 (企画準備・内容確認) [課題(準備・復習)] クリスマス会の準備をし、ノートにまとめる(1h~2h)						
13	イベント企画 (クリスマス会(発表)、まとめ、ノート(課題)の確認 [課題(復習)] クリスマス会を振り返り、後期の学修内容をノートにまとめる。(1h~2h)						
14	学外授業：ねんりんピック開会式またはレクリエーション体験コーナー(参加者またはスタッフとして) [課題(復習)] 学外授業の内容をノートにまとめる。(1h~2h)						
15	学外授業：ねんりんピック開会式またはレクリエーション体験コーナー(参加者またはスタッフとして) [課題(復習)] 学外授業の内容をノートにまとめる。(1h~2h)						
時間外での学修	特定非営利活動法人岐阜県レクリエーション協会又は特定非営利活動法人大垣市レクリエーション協会主催の催しに積極的に参加すること。(参加手続きが必要な場合が有ります) [この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15~30時間]						
受講学生へのメッセージ	スポーツやレクリエーションのおもしろさや達成感を十分に体験できるよう意欲的に取り組んでください。安全には十分に注意し、運動のできる服装と体育館シューズは必ず着用してください。 オフィスアワーは研究室(H203:H号館2F)で毎週金曜日12:15~12:45です。						

【3T7S105】子どもの保健		音楽総合学科		1年前期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	杉本 陽子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	看護師・18年						
授業内容	「子どもの保健」は、子どもの心と体の健康について考え、子どもの健康を守り、健やかな育ちを支えることについて学ぶ科目です。取り巻く環境からの影響を受けながら成長する子どもたちの特徴を理解するとともに、子どもの身体的成長や機能的発達、病気の子どもと家族、母子保健活動と施策について学びます。						
授業方法	テキストと配付資料等の教材を用いた講義が中心ですが、受講生の考えや意見を求めながら双方向で進めていきます。また、授業で提示する課題の提出を求めます。						
到達目標	知識・理解	子どもの成長・発達、病気の子どもと家族、母子保健活動と施策について、基本的な知識を理解できる。					
	思考・判断・表現	子どもの成長・発達と母子保健活動・施策の関連性を考え、子どもの心と体の健康を守るための取り組みと課題について考えを述べるができる。					
	技能	関連する資料から子どもの保健に関する現状や課題について説明できる。					
	関心・意欲・態度	子どもの成長・発達と母子保健活動・施策について関心を持ち、積極的・主体的に学修に取り組むことができる。					
	備考	・○・ は、DP・到達目標との結びつきの強さを示します。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		55	10	10	-	75
	課題提出		5	5	5	-	15
	自己評価		-	-	-	5	5
	受講態度		-	-	-	5	5
	合 計(点)		60	15	15	10	100
評価の特記事項	自己評価および受講態度は、毎回の出席カード内容から評価します。						
テキスト	『新基本保育シリーズ11 子どもの保健』松田博雄・金森三枝：編集 中央法規出版(2,200円))ISBN:978-4-8058-5791-5						
参考書・教材	必要な資料は授業で配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス、子どもの健康と保育（授業内容や提出課題について理解し、子どもとは、おとなとは、養護と教育、保育における活動の場について学ぶ）[課題（予習）]テキスト第1講を通読する(1h)[課題（復習）]学びを振り返りまとめる(1h)						
2	子どもの保健衛生統計（健康の概念、出生、子どもの死亡、子どもの疾病・異常、子どもの貧困について学ぶ）[課題（予習）]テキスト第2講・第3講を通読する(1h)[課題（復習）]学びを振り返りまとめる(1h)						
3	子どもの健康と母子保健施策（母子保健法、児童福祉法とその活動・施策について学ぶ）[課題（予習）]テキスト第3講・第8講を通読する(1h)[課題（復習）]学びを振り返りまとめる(1h)						
4	地域保健活動と児童虐待防止（地域における保健活動、児童虐待の防止等に関する法律とその活動・施策について学ぶ）[課題（予習）]テキスト第4講を通読する(1h)[課題（復習）]学びを振り返りまとめる(1h)						
5	成長と発達、子どもの身体的成長～身長・体重・運動機能～（成長・発達の原則、身長・体重の変化や運動機能について学ぶ）[課題（予習）]テキスト第5講を通読する(1h)[課題（復習）]学びを振り返りまとめる(1h)						
6	子どもの身体的成長～頭部・胸部・歯・骨～（頭部・胸部・歯・骨の変化、成長評価について学ぶ）[課題（予習）]テキスト第5講を通読する(1h)[課題（復習）]学びを振り返りまとめる(1h)						
7	子どもの機能的発達～生理機能、水分代謝、基本的生活習慣～（子どもの体温・循環・呼吸、水分代謝、食事・排泄・清潔・衣服・睡眠について学ぶ）[課題（予習）]テキスト第6講を通読する(1h)[課題（復習）]学びを振り返りまとめる(1h)						
8	子どもの機能的発達～消化、腎・泌尿器、中枢神経、血液、免疫、言語～（子どもの消化機能、腎・泌尿器機能、中枢神経機能、血液機能、免疫機能、言語機能について学ぶ）[課題（予習）]テキスト第6講を通読する(1h)[課題（復習）]学びを振り返りまとめる(1h)						
9	子どもの健康状態と病気（子どもの病気の理解と反応、病気が子どもに及ぼす影響、子どもの病気が家族に及ぼす影響、病気により良く対応するための関わりについて学ぶ）[課題（予習）]テキスト第9講を通読する(1h)[課題（復習）]学びを振り返りまとめる(1h)						
10	急性期にある子どもと家族（急性期とは、子どもに特有の、子どもによくある急性症状・急性疾患について学ぶ）[課題（予習）]テキスト第7講・第14講を通読する(1h)[課題（復習）]学びを振り返りまとめる(1h)						
11	慢性期にある子どもと家族（慢性期とは、子どもに特有の、子どもによくある慢性疾患について学ぶ）[課題（予習）]テキスト第11講・第12講を通読する(1h)[課題（復習）]学びを振り返りまとめる(1h)						
12	ハイリスク新生児と家族（低出生体重児の特徴、新生児期特有の疾患をもつ子どもと家族について学ぶ）[課題（予習）]テキスト第10講を通読する(1h)[課題（復習）]学びを振り返りまとめる(1h)						
13	先天異常をもつ子どもと家族（先天異常の原因と種類、先天性疾患をもつ子どもと家族について学ぶ）[課題（予習）]テキスト第10講・第11講を通読する(1h)[課題（復習）]学びを振り返りまとめる(1h)						
14	予後不良の子どもと家族（予後とは、小児がんの子どもと家族について学ぶ）[課題（予習）]テキスト第13講を通読する(1h)[課題（復習）]学びを振り返りまとめる(1h)						
15	子どもの疾病予防と予防接種（予防接種法とその施策について学ぶ）[課題（予習）]テキスト第15講を通読する(1h)[課題（復習）]学びを振り返りまとめる(1h)						
時間外での学修	[課題（予習）（復習）]は授業の到達目標達成に必要な内容であり、確実な理解につなげるためです。（ ）の標準学修時間をめどにして、授業外で確実に学修しましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】						
受講学生へのメッセージ	日頃から子どもに関するニュースや出来事に関心を持ち、日常生活で接する子どもの様子を意識的に観察してみてください。						

【3T7S106】教育原理		音楽総合学科		1年後期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	矢田貝 真一						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	中学校教諭・20年						
授業内容	いじめ、不登校、非行、学力低下など多くの教育に関わる課題とその解決が求められるわが国にあって、「教育とは何か」という問いへの自分なりの考えを持つために、教育の目的・内容・方法・行政を含む制度などの基本原理について理解し、教育思想や制度の歴史についての認識を深めていきます。						
授業方法	講義を中心としますが、とらえ方や考え方などの討議やグループでの発表も取り入れながら進めます。知識を身につけるだけでなく、教育というものに対する自分なりのとらえ方や考え方の形成をめざして、授業を展開していきます。						
到達目標	知識・理解	音楽と関連して、教育についての知識を習得し理解することができる。					
	思考・判断・表現	教育に関して学んだ内容を音楽と結びつけて考え、思考力や判断力、表現力にもとづいて「教育とは何か」という問いに自分なりに答えられる。					
	技能	教育に関して学んだ内容を、音楽の技能と結びつけてとらえ、活用することができる。					
	関心・意欲・態度	教育について興味や関心を持ち、積極的に学修に取り組むことができる。					
	備考	・○・ の記号は音楽総合学科のDP及び到達指標との結びつきの強さを示す。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		40	10	10	-	60
	レポート・発表		5	10	5	-	20
	自己評価		-	-	5	5	10
	受講態度		-	-	-	10	10
	合 計(点)		45	20	20	15	100
評価の特記事項	自己評価は学修成果に対する自己の評価、受講態度は学修取組・発表・提出等の状況とします。						
テキスト	ありません。						
参考書・教材	『幼稚園教育要領解説』文部科学省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府他、『保育所保育指針解説』厚生労働省、いずれも平成30年。『小学校学習指導要領』文部科学省、平成29年。他の学習指導要領(ここまでは、いずれもWeb上で閲覧・ダウンロード可能)。山口意友『教育の原理とは何か[改訂版]日本の教育理念を問う』ナカニシヤ出版、2017(本学図書館所蔵)。他に必要な資料は配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス (この授業での学ぶ目標や内容、学び方と心構えなどについて理解する) [課題(復習・発展)]この授業で最も興味や関心を持った内容をあげ、学びたいことをまとめる(2～4h)						
2	教育とは何か (教育と環境の関係、学校教育・社会教育・家庭教育などについて知識を深め、教育というものについて考える) [課題(予習)]「教育」がどのようにとらえられているのかを調べてまとめる(2～4h)						
3	教育の本質と要素 (授業外の課題で調べてきた課題も活用しながら、ヒトに教育がなぜ必要か、教育の本質、教育の要素と相互関係などについて知識を得て理解を深める) [課題(予習)]教育基本法での「教育の目的」と学校教育法での「短期大学の目的」を調べてまとめる(3～5h)						
4	教育の目的や目標 (授業外の課題で調べてきた課題も活用しながら、教育基本法の理念、わが国の学校教育の目的と構造について理解を深める) [課題(予習)]わが国の現在の学校教育制度について調べ、そのかかえる課題もあわせてまとめる(3～5h)						
5	わが国の教育制度 (授業外の課題で調べてきた課題も活用しながら、公教育の考え方、教育法規・教育制度の変遷としくみ、教育制度を支える教育行政について理解を深める) [課題(復習・発展)]教育制度をめぐる課題をひとつ取り上げてまとめ、自分の考えや意見をのべる(2～4h)						
6	諸外国の教育制度 (制度やしくみのちがいが、考え方の相違点と共通点について知識を得て理解を深め、授業外の課題で調べてきた内容も活用しながら、教育制度をめぐる課題について考える) [課題(復習・発展)]これまでの学びや経験から、教育者に人々が何を求めていると考えられるかをまとめる(3～5h)						
7	教育者に必要なもの (教員養成の変遷について理解し、調べてきた課題も活用しながら、教育する者に必要な資質と能力について理解を深める) [課題(復習)]前半の学修内容を振り返ってまとめる(4～6h)						
8	中間のまとめ (授業外の課題でこれまで調べてきたことも活用しながら、第1回～第7回に学んだ内容を復習する) [課題(予習)]教育に関する思想(コメニウス、ルソー、ペスタロッチ、ヘルバルト、デューイ、カントなどの教育のとらえ方)について調べてまとめる(4～6h)						
9	教育の歴史と思想(1) (諸外国の教育観や子供観の変化・教育の歴史・近代教育制度の成立と展開・教育に関する思想について知識を深め、授業外の課題で調べてきた内容も活用しながら理解を深める) [課題(復習・発展)]学んだ教育観を参考に、最もふさわしい教育者のあり方について考えてまとめる(3～5h)						
10	教育の歴史と思想(2) (わが国の子供観や社会観・近代教育制度の成立と展開・教育に関する思想について知識を深め、これまで授業外の課題で調べてきたことも活用しながら教育課題について考える) [課題(予習)]幼稚園から高等学校までのいずれかひとつの校種の教育要領または学習指導要領について、平成29年改訂の主な趣旨を調べてまとめる(3～5h)						
11	教育や保育の基準 (教育要領や学習指導要領等の性格と位置づけを理解し、授業外の課題で調べてきた内容も活用しながら、過去の改訂の変遷や改訂主旨と背景について理解を深める) [課題(予習)]「教育課程」の意味について調べてまとめる(3～5h)						
12	教育課程と指導計画 (授業外の課題で調べてきた内容も活用しながら、教育課程の役割や原理と編成の方法などについて基本的な知識を得て理解を深める) [課題(予習)]「カリキュラム・マネジメント」について用語の意味を調べてまとめる(3～5h)						
13	カリキュラム・マネジメントと評価 (授業外の課題で調べてきた内容も活用しながら、カリキュラム・マネジメントや評価などについて理解を深め、実際の事例について考える) [課題(予習・準備)]「教育とは何か」という問いへの考えをまとめ、わが国の教育の特長や課題も調べてまとめる(4～6h)						
14	わが国における教育の特長や課題を考える (授業外の課題で調べた内容も活用して、わが国における教育の特長や課題を考えてまとめる、発表内容をグループで話し合っまとめて準備する) [課題(準備)]教育に対する自分の考えと教育の特長や課題に関するレポートをまとめる、発表内容を練習して準備する(3～5h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
15	教育の特長や課題についての発表と全体のまとめ（授業外の課題で調べてきた内容も活用しながら、これまで授業で学んだことをもとに、わが国の教育の特長や課題をまとめ、これからの教育のあり方についても考える、準備してきたことを発表する）【課題(復習)】配付資料に基づいて全体を復習する(4～6h)
時間外での学修	【課題】は、授業の到達目標達成に必要となりますので、()の標準学修時間をめどに、確実に学修を進めましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：61時間】
受講学生へのメッセージ	授業ではグループで発表する活動もあるので、資料活用・表現などの力も身につけるよう努力しましょう。オフィスアワーはA305(A号館3F)で毎週木曜日の16：00から17：00です。質問等があれば、どうぞ。

【3T7S108】発達心理学		音楽総合学科		1年前期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	茂木 七香						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	病院臨床心理士・6年、学生相談室臨床心理士・8年						
授業内容	生まれてから現在まであなたの心と身体は様々な面で発達してきましたが、この後どうなるのでしょうか？発達というと赤ちゃんから大人までの期間のみがクローズアップされがちですが、その後も人は死ぬまで発達します。この授業では私たちの人生を「生涯発達心理学」の視点で捉え、各発達段階の特徴や個体としての変化、他者や社会との関わりなどを心理的側面から理解していきます。これまでの人生を振り返り、これから先、人生の終わりが来るまでの人の発達を概観しておきましょう。						
授業方法	基本的には講義形式ですが、課題に取り組み自分自身について振り返って記述する、クラウドサービス「Slido」に意見を入力するなど、受講生が能動的に学ぶ手法（アクティブラーニング）を取り入れて授業を行います。						
到達目標	知識・理解	全ての年齢の人を対象として捉え、その人の背景にある発達段階や発達課題に関する基礎的な知識を理解することができる。					
	思考・判断・表現	目の前の対象の行為や表出を相手の発達段階や理解度を考慮して多角的に分析し、判断する視点を持つことができる。					
	技能	対象を理解し、相手の特性に合ったコミュニケーションを行うための知識や技能を身に付ける。					
	関心・意欲・態度	新たに得た知識をもとに自らの学びを深め、自己理解や他者理解に努める。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	授業時間内課題		5	10	10	5	30
	授業時間外課題		10	10	5	5	30
	レポート		10	10	-	-	20
	受講態度		-	-	-	20	20
合 計(点)		25	30	15	30	100	
評価の特記事項	小レポート課題はルーブリック(評価基準)とともに提示します。授業時間内課題とは、授業中に記入し、提出するワークシートやミニツツペーパーのことです。受講態度は授業への取り組みの様子で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験（筆記試験）の受験資格はありません。						
テキスト	『やさしく学ぶ発達心理学』 浜崎隆司、田村隆宏 ナカニシヤ出版(2,500円) ISBN: 978-4779503887 補足資料を授業時に配付します。						
参考書・教材	保育所保育指針 幼稚園教育要項 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 その他、参考図書などは授業中に適宜紹介します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	生涯発達とは：生涯発達心理学の概念 各発達段階における発達課題 発達心理学研究の方法（遠隔授業） 【課題(復習)】教科書の第1章（P1～P22）を読んで復習する（2～4h）						
2	胎児期 乳児期：胎児の身体発達 赤ちゃんの能力（遠隔授業） 【課題(復習)】教科書の第2章1節（P23～P35）を読んで復習する（2～4h）						
3	乳児期：乳児期の人間関係（遠隔授業） 【課題(復習)】教科書の第2章2節（P36～P49）を読んで復習する（2～4h）						
4	1～4回目の授業の復習と補足： 生涯発達心理学の視点について（これ以降、対面授業） 【課題(復習)】教科書の第1章～第2章（P1～P49）を読んで復習する（2～4h）						
5	幼児期：認知の発達 表象機能、情動の発達 【課題(復習)】教科書の第3章1～2節（P51～P79）を読む（2～4h）						
6	幼児期：人間関係 親・友だち・きょうだい 【課題(復習)】教科書の第3章3節（P79～P94）を読む（2～4h）						
7	児童期：学習の発達 情動の発達 認知の発達 【課題(復習)】教科書の第4章1節（P95～P110）を読む（2～4h）						
8	児童期：仲間関係の発達過程 【課題(復習)】教科書の第4章2節（P110～P122）を読む（2～4h）						
9	青年期：自己と他者 青年期の諸問題 【課題(復習)】教科書の第5章1節（P123～P133）を読む（2～4h）						
10	青年期：友だち関係 恋愛 【課題(復習)】教科書の第5章2節（P133～P144）を読む（2～4h）						
11	成人期：社会的責任 職業 結婚 家庭 職場の人間関係 【課題(復習)】教科書の第6章（P145～P166）を読む（2～4h）						
12	中年期：人生の折り返し地点 中年期の危機 子どもの自立 【課題(復習)】教科書の第7章（P167～P185）を読む（2～4h）						
13	老年期：人生の完成期 人生との別れと死 【課題(復習)】教科書の第8章（P187～P209）を読む（2～4h）						
14	まとめ：生涯発達心理学の視点から、各発達段階を振り返る 【課題(復習)】授業中に作成した発達心理学一覧表を完成させる。テーマに基づいてレポート課題を作成する。（6～8h）						
15	レポート課題を用いた反転授業：他の人のレポートを読んで概要をまとめ、感想を書く。ルーブリック（評価基準）に基づいて評価を行う。 【課題(復習)】授業で取り組んだ内容の復習をする（2～4h）						
時間外での学修	毎回の授業時間外課題や小レポートにしっかり取り組んでください。次回授業で用いることもあります(反転授業)。日常生活では、あなたも周りの人も、これまでに様々な側面での発達を経て今ここに居て、この瞬間にもまだ発達しているのだということを意識し、世の中を新たな視点で捉え直してみてください。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】						
受講学生へのメッセージ	発達心理学は、あなたが今まさに生きている人生の過程についての学問です。当事者として楽しむ視点と学問として学ぶ視点の両方を持って受講すると、より深く学ぶことができます。 オフィスアワーは毎週火曜日の10時～12時、それ以外の時間でも、A306(A号館3階)に気軽に来てください。						

【3T7B110】音楽心理学		音楽総合学科		1年前期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	菅田 文子						
資格・制限等	MT・P/MT・Or/MT・W/MTコース必修						
実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年						
授業内容	音楽心理学とは何かについて学びます。簡単な実験に参加することで、実際に音楽が人の心身にもたらす作用について学びます。音楽療法資格の取得にはこの授業が必修となっています。						
授業方法	演習を含む講義形式です。						
到達目標	知識・理解	音楽心理学研究の流れについて理解し、基礎的な知識を身につけている。					
	思考・判断・表現	音楽心理学研究で用いられる研究法の違いを説明できる。					
	技能	音楽心理学で用いられる質問紙の点数計算ができる。					
	関心・意欲・態度	積極的に質問紙への解答、計算を含む課題に取り組み提出することができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		40	20	-	-	60
	課題提出		-	-	10	10	20
	受講態度		-	-	-	20	20
	合 計(点)		40	20	10	30	100
評価の特記事項	授業回数の1/3以上欠席した学生は受験資格がありません。						
テキスト							
参考書・教材	プリントを授業内で配布します。						
内 容							
実施回	授業内容・目標						
1	音楽心理学とは（Zoomによる遠隔授業） 実験 1：メンタルテンポの測定。安静時と活動後の違いの比較 [課題（復習）]Googleフォームにて復習テストを受ける。学んだ内容を復習し、メンタルテンポについてまとめる（4H）						
2	メンタルテンポと好みのテンポの関連について（Zoomによる遠隔授業） 実験 2：ゲシュタルト原理と音の群化について [課題（復習）]Googleフォームにて復習テストを受ける。学んだ内容を復習し、ゲシュタルトについて理解する（4H）						
3	リズム知覚能力の発達（Zoomによる遠隔授業） 実験 3：調の色彩的表象 [課題（復習）]Googleフォームにて復習テストを受ける。学んだ内容を復習し、色彩と音との印象の関係についてまとめる（4H）						
4	共感覚について 実験 4：楽器の音色による色彩的表象（12色以上の色鉛筆を持参してください）集団活動、発表 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、音色と色の関係についてまとめる（4H）						
5	絶対音感と相対音感について 実験 5：絶対音感テスト 音楽心理学の研究手法について（1）観察法（2）実験法（3）質問紙法 それぞれの特長と適した研究法について[課題（復習）]学んだ内容を復習し、心理学研究の手法について理解する。自分の持つ音感の特性について理解する（4H）						
6	音による感情伝達 実験 6：打楽器による感情表現 集団活動、発表 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、リズムの違いによる感情表現について理解する（4H）						
7	BGMについて BGMの歴史と現在の研究動向 [課題（復習）]身近な環境にあるBGMについて調べレポートにまとめる（4H）						
8	音楽と消費者行動 CMにおける音楽の与える影響、店頭における音楽の影響について [準備・課題]知っているCMソングについて調べレポートにまとめる（4H）						
9	音楽心理学で用いる心理尺度について AVSM、STAI 集団活動 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、心理尺度の計算について理解する（4H）						
10	音楽聴取に関する研究 1：感情の神経・生理学的測定について [課題（復習）]学んだ内容を復習し、音楽に対する生理的反応について理解する（4H）						
11	音楽聴取に関する研究 2：刺激間要因を問題として [課題（復習）]学んだ内容を復習し、音楽の違いによる感情反応の違いについて理解する（4H）						
12	音楽聴取に関する研究 3：聴取者間要因を問題として [課題（復習）]学んだ内容を復習し、聴取者の性格特性による感情反応の違いについて理解する（4H）						
13	演奏不安に関する研究について 討論、発表 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、演奏反応の克服のための方法についてまとめる（4H）						
14	最近のトピックス 脳研究と音楽認知 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、理解を深める（4H）						
15	テスト前の振り返り [課題（復習）]学んだ内容を復習し、テストの準備をする（4H）						
時間外での学修	プリントをみて学んだことを復習してください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】						

受講学生への メッセージ	実験の参加や心理尺度の評定など、学生が作業しなければならない活動も授業に含まれます。積極的に参加してください。 心理尺度の評定の提出状況なども採点に含まれます。 オフィスアワーは研究室（B403：B号館4階）で毎週木曜日の13：00～14：30です。
-----------------	---

【3T7B211】音楽療法演習		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	日比 あけみ						
資格・制限等	MT・(P)/MT・(Or)/MT・(W)/MTコース必修						
実務家教員	現場実践16年						
授業内容	対象者に合わせた音楽活動の計画・実践・振り返りを模擬実践にて行います。実際の現場に立つ前に、基礎的な実践方法を身につけます。						
授業方法	学内での演習、発表。実践形式で行います。						
到達目標	知識・理解	対象者理解、アセスメントができる。					
	思考・判断・表現	音楽の使い方が理解できる。					
	技能	音楽活動の計画・実践ができる。					
	関心・意欲・態度	模擬セッションで各役割を担当できる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実践発表		10	10	20	10	50
	受講態度		-	10	-	10	20
	レポート		-	-	10	10	20
	期末試験		10	-	-	-	10
	合 計(点)		20	20	30	30	100
評価の特記事項							
テキスト	『弾き語りキーボード・セッション(1) 音楽療法の必須100曲 高齢者編』あおぞら音楽社(2,484円))ISBN:978-4904437032 『弾き語りキーボード・セッション(2) 音楽療法の必須100曲 子ども編』あおぞら音楽社(2,484円))ISBN:978-4904437049 『弾き語りキーボード・セッション(3) 音楽療法の必須100曲 おとな編』あおぞら音楽社(2,646円))ISBN:978-4904437056						
参考書・教材	資料を配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション(年間計画・課題の確認) [課題(準備)]目標設定1(1~3h)						
2	グループ発表準備 [課題(準備)]計画、役割分担、練習(1~3h)						
3	グループ発表 [課題(準備・復習)]計画、実践、振り返り(1~3h)						
4	グループ発表 [課題(準備・復習)]計画、実践、振り返り(1~3h)						
5	グループ発表 [課題(準備・復習)]計画、実践、振り返り(1~3h)						
6	グループ発表 [課題(準備・復習)]計画、実践、振り返り(1~3h)						
7	グループ発表 [課題(準備・復習)]計画、実践、振り返り(1~3h)						
8	グループ発表評価、個人発表準備 [課題(準備)]自己評価、目標設定2、計画、練習(1~3h)						
9	個人発表 [課題(準備・復習)]計画、実践、振り返り(1~3h)						
10	個人発表 [課題(準備・復習)]計画、実践、振り返り(1~3h)						
11	個人発表 [課題(準備・復習)]計画、実践、振り返り(1~3h)						
12	個人発表 [課題(準備・復習)]計画、実践、振り返り(1~3h)						
13	個人発表 [課題(準備・復習)]計画、実践、振り返り(1~3h)						
14	個人発表評価 [課題(準備・復習)]自己評価、目標設定3(1~3h)						
15	演習のまとめ [課題(準備)]期末試験の取り組み(1~3h)						
時間外での学修	模擬実践を行うにあたり、授業外での準備は必須です。使用曲についての調査や練習は、事前に各自で進めてください。[この科目で求める望ましい学修外での総学修時間; 30時間]						
受講学生へのメッセージ	どのようにしたら相手と自分との関係作りがうまくいくのか、日常生活の中からも気付きを見つけてください。オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施。						

【3T7B114】音楽療法・基礎		音楽総合学科		1年後期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	菅田 文子						
資格・制限等	MT・(P)/MT・(Or)/MT・(W)/MTコース必修						
実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年						
授業内容	この授業では、音楽療法のアセスメントの原理・方法についての基本的な知識と、アセスメントが実際にできるような技術について学びます。具体的には、アセスメントの種類について学ぶことと、音楽療法場面のビデオを見ながら記録を取る練習を通じて音楽療法士に必要な臨牀的視点の獲得と、状況を的確に記録する文章能力を養います。						
授業方法	講義形式ですが授業の一部分で演習活動も含みます。小グループでの討論、検討結果の発表も行います。						
到達目標	知識・理解	音楽療法におけるアセスメントの種類や方法についての知識を持っている。					
	思考・判断・表現	ランニング・アセスメントのビデオを見て、対象者の行動を客観的に正しく記述することができる。 対象者のニーズを把握し、それに合った治療目標を設定し、目標を達成するための音楽活動を計画することができる。					
	技能	音楽療法に関する専門用語を理解し、使うことができる。					
	関心・意欲・態度	意欲的に発表する。他グループの発表について自分の意見を述べるができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート		40	30	-	-	70
	発表（グループ発表含む）		-	10	10	-	20
	受講態度		-	-	-	10	10
	合 計(点)		40	40	10	10	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。 課題の提出及び発表がない学生には単位を与えません。						
テキスト	『標準 音楽療法入門 下 実践編』日野原 重明（監修）、篠田 知璋（編集）、加藤 美知子（編集） 春秋社(3,520円)ISBN:4393934482						
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション：音楽療法の手順について アセスメントセッションのビデオを視聴、記録の練習、レポート提出 [課題（復習）]学んだ内容を復習し音楽療法の手順について理解する（4H）						
2	アセスメントについて：調査票、標準化されたテスト、ランニング・アセスメントについて アセスメントセッションのビデオを視聴、記録の練習、レポート提出 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、ランニングアセスメントの役割について理解する（4H）						
3	行動観察について：アセスメントセッションのビデオを視聴、記録の練習 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、アセスメントの種類について理解する（4H）						
4	音楽活動の記録について：客観的な記述方法について。反応のあった音楽、視線、セラピストとのかかわりなどについて主観を交えずに描写することができる。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、客観的な記述について理解する（4H）						
5	音楽活動やセラピストの働きかけが対象者にどのように受け止められたか、対象者の感情を押し量って記述し、次回からのセッションの活動で何を用い、どこを変えなければならないか自分の考えを記述することができる。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、主観的な記述と客観的な記述を分けて記載できる。（4H）						
6	目標設定について：対象者の分野別に異なる目標があることを知る。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、分野別の目標と活動内容についてレポートを作成する（4H）						
7	長期目標と短期目標について：それぞれの目標の違いを知り、短期目標の立て方を学ぶ。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、長期目標に対応した短期目標を含む音楽活動を考える（4H）						
8	目標に応じた音楽活動の計画1：「動きを促す音楽活動」活動を計画する。グループあるいは個人で活動を発表する。[課題（復習）]学んだ内容を復習し、音楽活動の発表に向けて練習する（4H）						
9	目標に応じた音楽活動の計画2：「社会性を促す音楽活動」活動を計画する。活動を発表する。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、社会性と音楽活動の関連について理解する（4H）						
10	目標に応じた音楽活動の計画3：「コミュニケーションを促す音楽活動」音楽活動を計画する。活動を発表する。[課題（復習）]学んだ内容を復習し、コミュニケーション能力と音楽活動の関連について理解する（4H）						
11	事例から目標と活動を設定する演習1：児童 児童の事例を読み、対象者に受け入れられる選曲と活動、発表を考える。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、児童の音楽活動に使用する曲を練習する（4H）						
12	事例から目標と活動を設定する演習2：成人 成人の事例を読み、対象者に受け入れられる選曲と活動、発表を考える。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、成人の音楽活動に使用する曲を練習する（4H）						
13	事例から目標と活動を設定する演習3：高齢者 高齢者の事例を読み、対象者に受け入れられる選曲と活動、発表を考える。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、高齢者の音楽活動に使用する曲を練習する（4H）						
14	この授業のレポート課題内容を説明する。 [課題（復習）]レポート課題に取り組む（4H）						
15	レポート課題の作成 レポート課題を作成、完成させる。 [課題（復習）]学んだ内容の復習（4H）						
時間外での学修	教科書や指定された参考資料を読み、授業で学んだ事柄を理解して次の授業に臨んでください。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】						

<p>受講学生への メッセージ</p>	<p>音楽療法士になるにあたって基本的な知識と技能を身につけるための重要な授業です。 課題の提出状況が評価に含まれます。 オフィスアワーは研究室（B403：B号館4階）で毎週木曜日の13：00～14：30です。</p>
-------------------------	---

【3T7B217】音楽療法実践		音楽総合学科		1年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	菅田 文子						
資格・制限等	MT・P/MT・Or/MT・W/MTコース必修						
実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年						
授業内容	音楽療法において現場で良く用いられる簡単な楽器のアンサンブルとギター奏法を学びます。期末試験はギターの弾き語りを行います。						
授業方法	学内の演習。小グループでの討論、検討結果の発表も行います。						
到達目標	知識・理解	簡単な和音奏の編曲ができる。簡単な打楽器の編曲ができる。					
	思考・判断・表現	施設における音楽活動を適切に振り返り記録することができる。					
	技能	ギターのオープンコードを用いて弾き歌いができる。					
	関心・意欲・態度	時間外での自習を意欲的に行い、課題を発表できる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート	-	40	-	-	40	
	実技試験	-	-	40	-	40	
	発表（グループ発表含む）	10	-	-	5	15	
	受講態度	-	-	-	5	5	
	合 計(点)	10	40	40	10	100	
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト							
参考書・教材	授業内でプリントを配付します。 ギターはアコースティックギター（スチール弦）をピックで弾く形が望ましいので購入を検討するならば参考にしてください。学内専用（学外持ち出し不可）のギターで練習することが可能です。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	LINEによる遠隔授業 コードの基礎、3和音で演奏できる曲の発表（課題6曲） [課題（復習）]残りの課題5曲の練習（1H）						
2	LINEによる遠隔授業 コードの基礎、3和音で演奏できる曲の発表（課題5曲） [課題（復習）]残りの課題6曲の練習（1H）						
3	LINEによる遠隔授業 コードの基礎、3和音で演奏できる曲の発表（課題6曲） [課題（復習）]学んだ内容の復習（1H）						
4	ミュージックベルのアンサンブル（長調の - - - ） [課題（復習）]長調3和音の既成曲を1曲探し譜面を作成、指揮の練習をする。（1H）						
5	ミュージックベルのアンサンブル（短調の - - - ） 宿題の発表。1人でグループを指揮する。わかりやすい合図の出し方を学ぶ。[課題（復習）]短調3和音の既成曲を1曲探し譜面を作成、指揮の練習をする。実習施設について調べる（1H）						
6	簡単なリズム楽器によるアンサンブル 2つのグループに分け、小物楽器のアンサンブルを行う。 [課題（復習）]自分で1曲を選び小物楽器アンサンブルのための譜面を作成する（1H）						
7	ギター各部の名称、メンテナンスについて ダイアグラムの読み方、チューニングとオープンコード Em、E [課題（復習）]学んだ内容の復習、課題曲の練習、A、A7、D、D7コードの予習（1H）						
8	オープンコード A、A7、D、D7 [課題（復習）]学んだ内容の復習、課題曲の練習、G、G7コードの予習（1H）						
9	オープンコード G、G7 [課題（復習）]学んだ内容の復習、課題曲の練習、C、C7コードの予習（1H）						
10	オープンコード C、C7 [課題（復習）]学んだ内容の復習、課題曲の練習、Fコードの予習（1H）						
11	オープンコード F / アルペジオ [課題（復習）]学んだ内容の復習、試験課題曲の選定（1H）						
12	試験の準備 自分で弾ける曲を選び指導を受ける [課題（復習）]学んだ内容の復習、ゆっくりと止まらずに演奏できるようにする（1H）						
13	試験の準備 自分で弾ける曲を選び指導を受ける [課題（復習）]学んだ内容の復習、テンポを上げて演奏できるようにする（1H）						
14	試験の準備 自分で弾ける曲を選び指導を受ける [課題（復習）]学んだ内容の復習、弾き歌いのために声と演奏のバランスに気をつける（1H）						
15	実技試験(ギター弾き歌い) 後期課題の説明 [課題（復習）]学んだ内容の復習（1H）						
時間外での学修	アンサンブルの発表はグループで行いますので、協調性を持って課題に取り組んでください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】						
受講学生へのメッセージ	ギター（クラシック、フォークどちらでも可）は各自用意してください。学校のギターは学内のみの練習に貸し出します。オフィスアワーは研究室（B403：B号館4階）で毎週木曜日の13：00～14：30です。						

【3T7S218】音楽療法実践		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	菅田 文子						
資格・制限等	MT・(P)/MT・(Or)/MT・(W)/MTコース必修						
実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年						
授業内容	福祉施設におけるボランティア活動を通じて対象者への接し方や適切な行動を身につけることを目標とします。人前に出て話すこと、指導することにも慣れることができるように、役割を交代で分担します。グループ内で共同作業を行う上でのコミュニケーション能力を高めることも目的としています。						
授業方法	学内の演習と学外における実践。小グループでの討論、検討結果の発表も行います。						
到達目標	知識・理解	対象者グループの目標に沿った音楽活動を計画することができる。					
	思考・判断・表現	グループに分かれて音楽療法活動を計画、実践、記録を取ることができる。					
	技能	高齢者と児童の現場でグループ音楽活動を実施することができる。					
	関心・意欲・態度	それぞれの施設でふさわしい振る舞いをするすることができる。グループ内で共同作業ができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート		-	30	20	-	50
	受講態度		-	-	-	20	20
	発表（グループ発表含む）		10	-	10	10	30
	合 計(点)		10	30	30	30	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。 施設実習に3回出ますが2回以上欠席した学生、実習レポートの提出のない学生には単位を与えません。						
テキスト							
参考書・教材	授業内でプリントを配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション 高齢者を対象とした音楽療法セッション1：対象者の説明、施設の概要など。対象者にあった選曲を行う。 [課題（復習）]学んだ内容の復習、担当する活動で使用する高齢者に向けた曲の譜面を準備する（1H）						
2	高齢者を対象とした音楽療法セッション2：活動計画 [課題（復習）]学んだ内容の復習、担当する活動の高齢者に向けた曲を練習する（1H）						
3	高齢者を対象とした音楽療法セッション3：活動の準備 [課題（復習）]学んだ内容の復習、担当する活動の曲の声かけ、高齢者対象の目標設定に沿った提示を練習する（1H）						
4	高齢者を対象とした音楽療法セッション4：リハーサル [課題（復習）]学んだ内容の復習、担当する活動の説明や流れを確認する。高齢者施設での活動の留意点を復習する（1H）						
5	高齢者を対象とした音楽療法セッション5：実践 [課題（復習）]実践記録を記入する。自分の行った活動への対象者の反応を記録する。高齢者への働きかけで気をつけた点についてふりかえる（1H）						
6	先週の振り返り クリスマスコンサートのレパートリー1 [課題（復習）]学んだ内容の復習、担当する活動のクリスマスに関連する曲の譜面を準備する（1H）						
7	クリスマスコンサートのレパートリー2 [課題（復習）]学んだ内容の復習、担当する活動のクリスマスに関連する曲を練習する（1H）						
8	障害者を対象とした音楽活動準備 [課題（復習）]学んだ内容の復習、担当する活動の曲の声かけ、障害者を対象とした目標設定に沿った提示を練習する（1H）						
9	障害者施設に向いでの音楽活動ボランティア1 [課題（復習）]実践記録の記入、障害者に対する接し方、働きかけについて記録する（1H）						
10	先週の振り返り、記録の提出、活動計画の作成 [課題（復習）]学んだ内容の復習、今回の活動の反省点を踏まえた活動計画の作成（1H）						
11	障害者施設へのボランティア活動リハーサル [課題（復習）]学んだ内容の復習、担当する活動の曲の声かけ、障害者に対する音楽療法の目標設定に沿った提示方法について各自で練習する（1H）						
12	障害者施設へのボランティア活動2 [課題（復習）]実践記録を記入する。自分の行った活動への対象者の反応を記録する。表情、視線や発声について記録できるようにする（1H）						
13	先週の振り返り、記録の提出 [課題（復習）]学んだ内容の復習、他の学生の振り返りも参考に（1H）						
14	音楽活動以外のレクリエーション技術 [課題（復習）]学んだ内容の復習、自分でできる音楽活動以外のレクリエーションについてまとめる（1H）						
15	授業のまとめ、レポート課題について [課題（復習）]学んだ内容の復習、レポートを作成、完成させる（1H）						
時間外での学修	自分が担当する活動は自分で責任を持って時間外に準備してください。授業時間は計画や合わせるためのリハーサルに使います。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】						
受講学生へのメッセージ	多少の失敗は恐れず、積極的に学ぶ姿勢で対象者に接してください。 オフィスアワーは研究室（B403：B号館4階）で毎週木曜日の13：00～14：30です。						

【3W5B201】ウインドアンサンブル A		音楽総合学科		1年前期			
		2単位	選択	演習	60時間		
教員	鈴木 孝育・野々垣 行恵・長尾 洪基						
資格・制限等	W・W/R・W/MTコース必修						
実務家教員							
授業内容	吹奏楽オリジナル作品の他、クラシックアレンジ作品、ポップスに至るまで、様々なジャンルの曲を取り上げ、各所において、それぞれの役割を理解し、演奏力の向上を目指します。また、授業以外に、各楽器の個人レッスンがあります。さらに、依頼演奏や定期演奏会で実践力を磨きます。なお、依頼演奏の関係で授業内容は、変更になることがあります。また、2から3回の小長谷宗一客員教授の特別講義があります。（コロナウイルス感染症の影響で依頼演奏、特別講義は中止）						
授業方法	吹奏楽の合奏レッスンが中心で、そのほかに各楽器のレッスン、場合によってパート別レッスン、セクションや分奏のレッスンなどが行われます。						
到達目標	知識・理解	吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を理解し、クラシック、ジャズ、ポピュラー等ジャンルの様式や特徴を理解する。					
	思考・判断・表現	吹奏楽で演奏されるジャンルの基本的な知識があり、楽曲に合った演奏表現ができ、パートや合奏隊の一員としての責任を果たすことができる。					
	技能	楽譜通りに演奏できることはもちろん指揮者の音楽性を理解し、要求に合った演奏ができる。長音階のスケールや正しい音程感覚をはじめとする演奏技術を身につける。					
	関心・意欲・態度	個人練習のみならず、パート練習、セクション練習等を積極的に学生同士で練習方法等を研究し円滑に練習を進めることができる。豊かな感性と表現力を養い、理想の演奏者にむかって、研鑽に努める事ができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	-	60	-	60
	受講態度		-	-	-	20	20
	小テスト・提出物		10	10	-	-	20
合 計(点)		10	10	60	20	100	
評価の特記事項	受講態度は、学修ノートを中心に受講姿勢を含めて総合的に評価します。						
テキスト	ありません						
参考書・教材	楽譜等その都度配布。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	遠隔授業（課題提出及び演習） ガイダンス。授業の進め方、注意事項、授業の目標や学ぶ内容の概要を理解する。パート編成発表。 [課題（準備・予習）]シラバスの熟読。自己の基礎力を確認。課題プリントの実施。（2h～4h）						
2	遠隔授業（課題提出及び演習） 定期演奏会用楽曲 についての研究・調査（課題PPT）。Googleフォームによるチェックテスト。 [課題（復習）]定期演奏会用楽曲 についての課題復習。個々に基礎力をチェック。（2h～4h）						
3	遠隔授業（課題提出及び演習） 音階についての学修（課題&演習問題）。 [課題（復習）]音階についての課題復習。（2h～4h）						
4	これより対面授業 改めて本授業のガイダンス。コロナ感染症の影響による変更事項の確認、感染症対策や予防に関する説明 。学生の学修状況及び学修環境状況調査。 [課題（復習）]学修プリントを中心に本時の内容を復習する。各自、楽器、衣装・譜面台・ファイル等配布物の整理する。（2h～4h）						
5	変更合奏会場の設営。感染症対策を考慮した合奏隊形の検討。パート内自己紹介。各自の基礎練習をパート内で討論し、確認し合う。音楽鑑賞用楽曲 配布・個人・パートで譜読み。 [課題（復習）]音楽鑑賞用楽曲 の個人練習（特に特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）（2h～4h）						
6	初見合奏演習。音楽鑑賞用楽曲 配布・譜読み。定期演奏会用楽曲 の合奏（作曲家、ジャンル、構成や特徴等）。合奏基礎演習「音程を正確に取るための考え方」（長音階 B dur） [課題（復習）]音楽鑑賞用楽曲 の個人練習。定期演奏会用楽曲 の復習。合奏基礎演習 の確認。（2h～4h）						
7	初見合奏演習。音楽鑑賞用楽曲 配布・譜読み。定期演奏会用楽曲 の合奏。分奏〔木管・金管・打楽器〕演習（定期演奏会用楽曲 ）。 [課題（復習）]音楽鑑賞用楽曲 の個人練習。定期演奏会用楽曲 の復習。分奏演習の復習。（2h～4h）						
8	初見合奏演習。音楽鑑賞用楽曲 配布・譜読み。定期演奏会用楽曲 の合奏。合奏基礎演習「機能と声感を基盤にしたフレージング」（長音階 F dur - Es dur） [課題（復習）]音楽鑑賞用楽曲 の個人練習。定期演奏会用楽曲 の復習。合奏基礎演習 の確認。（2h～4h）						
9	初見合奏演習。音楽鑑賞用楽曲 配布・譜読み。定期演奏会用楽曲 の合奏。分奏〔木管・金管・打楽器〕演習（定期演奏会用楽曲 ）。 [課題（復習）]音楽鑑賞用楽曲 の個人練習。定期演奏会用楽曲 の復習。分奏演習の復習。研究レポートの作成。（2h～4h）						
10	初見合奏演習。音楽鑑賞用楽曲 配布・譜読み。定期演奏会用楽曲 の合奏。分奏〔木管・金管・打楽器〕演習（定期演奏会用楽曲 ）。 [課題（復習）]音楽鑑賞用楽曲 の個人練習。定期演奏会用楽曲 の復習。分奏演習の復習。研究レポートの作成。（2h～4h）						
11	初見合奏演習。音楽鑑賞用楽曲 配布・譜読み。定期演奏会用楽曲 の合奏。分奏〔木管・金管・打楽器〕演習（定期演奏会用楽曲 ）。「フレーズ・重心プリント」配布・説明 [課題（復習）]音楽鑑賞用楽曲 の個人練習。定期演奏会用楽曲 の復習。分奏演習の復習。「フレーズ・重心プリント」復習。（2h～4h）						

内容	
実施回	授業内容・目標
12	初見合奏演習。音楽鑑賞用楽曲 配布・譜読み、及び合奏（作曲家、ジャンル、構成や特徴等）。合奏基礎演習 「美しいスケールを楽曲の中に応用する方法」（長音階 G dur） [課題（復習）]音楽鑑賞用楽曲 の個人練習・復習。合奏基礎演習 の確認。（2h～4h）
13	初見合奏演習。音楽学修用楽曲 配布・譜読み、及び合奏（作曲家、ジャンル、構成や特徴等）。合奏基礎演習 「美しい長音階を踏まえて教会旋法（リディア）を実際の楽曲の中で応用する方法」（長音階 A dur- D dur） [課題（復習）]音楽学修用楽曲 の個人練習・復習。合奏基礎演習 の確認（2h～4h）
14	音楽学修用楽曲 合奏（作曲家、ジャンル、構成や特徴等）。定期演奏会用楽曲 合奏。合奏基礎演習 「美しい長音階を踏まえて教会旋法（リディア）を実際の楽曲の中で応用する方法」（長音階 Des dur - As dur - C dur） [課題（復習）]音楽学修用楽曲 の個人練習・復習。定期演奏会用楽曲 の復習。及び合奏基礎演習 の確認。（2h～4h）
15	定期演奏会用楽曲 （前期実技試験指定曲合奏） [課題（復習）]試験指定曲の個人練習の復習（2h～4h）
時間外での学修	授業以外に各楽器のレッスンがあります。必要に応じて個人練習、パート練習、セクション練習等を行ってください。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30～60時間]
受講学生へのメッセージ	まずは、個々が譜面に正確な演奏を心掛けてください。パート内で精密な合わせをし、その上で他パートの動きなどを理解し、合奏力の向上を目指してください。一人でも欠けるとアンサンブルが成立しません。無断欠席・遅刻厳禁。 オフィスアワーは、授業前後の休み時間に教室で行います。

【3W5B202】ウインドアンサンブル B		音楽総合学科		1年前期			
		2単位	選択	演習	30時間		
教員	鈴木 孝育・野々垣 行恵・長尾 洪基						
資格・制限等	W・W/R・W/MTコース必修						
実務家教員							
授業内容	吹奏楽オリジナル作品の他、クラシックアレンジ作品、ポップスに至るまで、様々なジャンルの曲を取り上げ、各所において、それぞれの役割を理解し、演奏力の向上を目指します。また、授業以外に、各楽器の個人レッスンがあります。さらに、依頼演奏や定期演奏会で実践力を磨きます。なお、依頼演奏の関係で授業内容は、変更になることがあります。また、2～3回の小長谷宗一客員教授による特別講義を実施します。（コロナウイルス感染症の影響で依頼演奏、特別講義は中止）						
授業方法	吹奏楽の合奏レッスンが中心で、そのほかに各楽器のレッスン、場合によってパート別レッスン、セクションや分奏のレッスンなどが行われます。						
到達目標	知識・理解	吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を理解し、クラシック、ジャズ、ポピュラー等ジャンルの様式や特徴を理解する。					
	思考・判断・表現	吹奏楽で演奏されるジャンルの基本的な知識があり、楽曲に合った演奏表現ができ、パートや合奏隊の一員としての責任を果たすことができる。					
	技能	楽譜通りに演奏できることはもちろん指揮者の音楽性を理解し、要求に合った演奏ができる。長音階のスケールや正しい音程感覚をはじめとする演奏技術を身につける。					
	関心・意欲・態度	個人練習のみならず、パート練習、セクション練習等を積極的に学生同士で練習方法等を研究し円滑に練習を進めることができる。豊かな感性と表現力を養い、理想の演奏者にむかって、研鑽に努める事ができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	-	60	-	60
	受講態度		-	-	-	20	20
	小テスト・提出物		10	10	-	-	20
	合 計(点)		10	10	60	20	100
評価の特記事項	受講態度は、学修ノートを中心に受講姿勢を含めて総合的に評価します。						
テキスト	ありません						
参考書・教材	楽譜等その都度配布。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	遠隔授業（課題提出及び演習） パート編成発表。定期演奏会用楽曲 配布・個人で譜読み。 [課題（準備・予習）] 定期演奏会用楽曲 配布・個人で譜読み（課題）。学修ノート記入。（3h～5h）						
2	遠隔授業（課題提出及び演習） 定期演奏会用楽曲 についての楽曲研究・調査、個人練習。 [課題（復習）] 定期演奏会用楽曲 についての個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。学修ノート記入。（3h～5h）						
3	遠隔授業（課題提出及び演習） 定期演奏会用楽曲 配付・個人で譜読み、楽曲研究、調査・個人練習。 [課題（復習）] 定期演奏会用楽曲 についての個人練習（特に特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。学修ノート記入。（3h～5h）						
4	これより対面授業 定期演奏会用楽曲、音楽鑑賞用楽曲 配布・個人で譜読み。 [課題（復習）]定期演奏会用楽曲 個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。学修ノート記入。（3h～5h）						
5	定期演奏会用楽曲 の合奏（作曲家、ジャンル、構成や特徴等） [課題（復習）]定期演奏会用楽曲 個人練習（特にテンポ、表現記号等に注意して楽譜通り吹けるように）。学修ノート記入。（3h～5h）						
6	定期演奏会用楽曲 の合奏（作曲家、ジャンル、構成や特徴等）。 [課題（復習）]定期演奏会用楽曲 個人練習（特にダイナミクス、曲想等に注意して楽譜通り吹けるように）。学修ノート記入。（3h～5h）						
7	定期演奏会用楽曲 の合奏（作曲家、ジャンル、構成や特徴等）。 [課題（復習）] 定期演奏会用楽曲 の個人練習（特にテンポ、表現記号等に注意して楽譜通り吹けるように）。学修ノート記入。（3h～5h）						
8	定期演奏会用楽曲 合奏（作曲家、ジャンル、構成や特徴等）。 [課題（復習）]定期演奏会用楽曲 の個人練習（特にダイナミクス、曲想等に注意して楽譜通り吹けるように）。学修ノート記入。（3h～5h）						
9	定期演奏会用楽曲 の合奏（作曲家、ジャンル、構成や特徴等）。 [課題（復習）] 定期演奏会用楽曲 の個人練習（特にテンポ、表現記号等に注意して楽譜通り吹けるように）。学修ノート記入。（3h～5h）						
10	定期演奏会用楽曲 の合奏（作曲家、ジャンル、構成や特徴等）。 [課題（復習）] 定期演奏会用楽曲 の個人練習（特にテンポ、表現記号等に注意して楽譜通り吹けるように）。学修ノート記入。（3h～5h）						
11	定期演奏会用楽曲 の合奏（前半）（作曲家、ジャンル、構成や特徴等）。 [課題（復習）] 定期演奏会用楽曲 の個人練習（特にダイナミクス、曲想等に注意して楽譜通り吹けるように）。学修ノート記入。（3h～5h）						
12	定期演奏会用楽曲 の合奏（前半）（作曲家、ジャンル、構成や特徴等）。 [課題（復習）] 定期演奏会用楽曲 の個人練習（特にダイナミクス、曲想等に注意して楽譜通り吹けるように）。学修ノート記入。（3h～5h）						
13	定期演奏会用楽曲 の合奏（後半）（作曲家、ジャンル、構成や特徴等）。 [課題（復習）] 定期演奏会用楽曲 の個人練習（特にダイナミクス、曲想等に注意して楽譜通り吹けるように）。学修ノート記入。（3h～5h）						

内容	
実施回	授業内容・目標
14	定期演奏会用楽曲 の合奏（後半）（作曲家、ジャンル、構成や特徴等）。 [課題（復習）] 定期演奏会用楽曲 の個人練習（特にダイナミクス、曲想等に注意して楽譜通り吹けるように）。学修ノート記入。（3h～5h）
15	筆記試験 [課題（復習）] 試験指定の個人練習。筆記試験の復習（2h～4h）
時間外での学修	授業以外に各楽器のレッスンがあります。必要に応じて個人練習、パート練習、セクション練習等を行ってください。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：45～75時間]
受講学生へのメッセージ	まずは、個々が譜面に正確な演奏を心掛けてください。パート内で精密な合わせをし、その上で他パートの動きなどを理解し、合奏力の向上を目指してください。一人でも欠けるとアンサンブルが成立しません。無断欠席・遅刻厳禁。 オフィスアワーは、授業前後の休み時間に教室で行います。

【3W5S203】ウインドアンサンブル C		音楽総合学科		1年後期			
		2単位	選択	演習	60時間		
教員	鈴木 孝育・長尾 洪基・野々垣 行恵						
資格・制限等	W・W/R・W/MTコース必修						
実務家教員							
授業内容	吹奏楽オリジナル作品の他、クラシックアレンジ作品、ポップスに至るまで、様々なジャンルの曲を取り上げ、各所において、それぞれの役割を理解し、演奏力の向上を目指します。また、授業以外に、各楽器の個人レッスンがあります。さらに、依頼演奏や定期演奏会で実践力を磨きます。なお、依頼演奏の関係で授業内容は、変更になることがあります。また、2から3回の小長谷宗一客員教授の特別講義を実施します。						
授業方法	吹奏楽の合奏レッスンが中心で、そのほかに各楽器のレッスン、場合によってパート別レッスン、セクションや分奏のレッスンなどが行われます。						
到達目標	知識・理解	吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を理解し、クラシック、ジャズ、ポピュラー等ジャンルの様式や特徴を理解する。					
	思考・判断・表現	吹奏楽で演奏されるジャンルの基本的な知識があり、楽曲に合った演奏表現ができ、パートや合奏隊の一員としての責任を果たすことができる。					
	技能	楽譜通りに演奏できることはもちろん指揮者の音楽性を理解し、要求に合った演奏ができる。短音階スケールやフレーズの歌い方をはじめとする演奏技術を身につける。					
	関心・意欲・態度	個人練習のみならず、パート練習、セクション練習等を積極的に学生同士で練習方法等を研究し円滑に練習を進めることができる。豊かな感性と表現力を養い、理想の演奏者にむかって、研鑽に努める事ができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	-	60	-	60
	受講態度		-	-	-	20	20
	小テスト・提出物		10	10	-	-	20
	合 計(点)		10	10	60	20	100
評価の特記事項	受講態度は、学修ノートを中心に受講姿勢を含めて総合的に評価します。						
テキスト	ありません						
参考書・教材	楽譜等その都度配布。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	基礎力向上の為の講座（短音階スケール）及び音楽鑑賞用楽曲 配布・パートで譜読み [課題（復習）]音楽鑑賞用楽曲 の個人練習、及び短音階スケールの練習（2h～4h）						
2	基礎力向上の為の講座（短音階スケール）パート内で討論し、確認し合う。及び音楽鑑賞用楽曲 配布・パートで譜読み [課題（復習）]音楽鑑賞用楽曲 の個人練習、及び短音階スケールの練習（2h～4h）						
3	基礎力向上の為の講座（3連符と12/8拍子での音階）及び音楽鑑賞用楽曲 配布・パートで譜読み [課題（復習）]音楽鑑賞用楽曲 の個人練習、及び3連符と12/8拍子での音階練習（2h～4h）						
4	基礎力向上の為の講座（16分音符での音階）及び音楽鑑賞用楽曲 配布・パートで譜読み [課題（復習）]音楽鑑賞用楽曲 の個人練習、及び16分音符での音階練習（2h～4h）						
5	基礎力向上の為の講座（3度）及び音楽鑑賞用楽曲 配布・パートで譜読み [課題（復習）]音楽鑑賞用楽曲 の個人練習、及び3度の練習（2h～4h）						
6	基礎力向上の為の講座（アルペジオ：短調）及び音楽鑑賞用楽曲 配布・パートで譜読み [課題（復習）]音楽鑑賞用楽曲 の個人練習、及びアルペジオ：短調の練習（2h～4h）						
7	基礎力向上の為の講座（短3和音と減7の和音）及び音楽鑑賞用楽曲 配布・パートで譜読み [課題（復習）]音楽鑑賞用楽曲 の個人練習、及び短3和音と減7の和音の練習（2h～4h）						
8	基礎力向上の為の講座（グルーピング）及び定期演奏会に向けての練習1 [課題（復習）]定期演奏会の研究、個人練習、及びグルーピングについて復習し、理解する。（2h～4h）						
9	基礎力向上の為の講座（重心）及び定期演奏会に向けての練習2 [課題（復習）]定期演奏会の研究、個人練習、及び重心について復習し、理解する。（2h～4h）						
10	基礎力向上の為の講座（コントラスト）及び定期演奏会に向けての練習3 [課題（復習）]定期演奏会の研究、個人練習、及びコントラストについて復習し、理解する。（2h～4h）						
11	定期演奏会に向けての練習4 [[課題（復習）]定期演奏会の個人練習、パート・セクションによる集団練習。（2h～4h）						
12	定期演奏会に向けての練習5 [課題（復習）]定期演奏会の個人練習、パート・セクションによる集団練習。（2h～4h）						
13	定期演奏会に向けての練習6 [課題（復習）]定期演奏会の個人練習、パート・セクションによる集団練習。（2h～4h）						
14	定期演奏会の反省と振り返り、問題点を話し合う。後片付け [課題（復習）]定期演奏会の反省を、個人、パート、全体で行い、来年度に向けての問題点を列挙する。（2h～4h）						
15	試験指定曲の合奏 [課題（復習・準備）]試験指定曲の研究・個人練習（2h～4h）						

時間外での学修	授業以外に各楽器のレッスンがあります。必要に応じて個人練習、パート練習、セクション練習等を行ってください。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間： 30 ～ 60 時間]
受講学生へのメッセージ	まずは、個々が譜面に正確な演奏を心掛けてください。パート内で精密な合わせをし、その上で他パートの動きなどを理解し、合奏力の向上を目指してください。一人でも欠けるとアンサンブルが成立しません。無断欠席・遅刻厳禁。 オフィスアワーは、授業前後の休み時間に教室で行います。

【3W5S204】ウインドアンサンブル D		音楽総合学科		1年後期			
		2単位	選択	演習	30時間		
教員	鈴木 孝育・長尾 洪基・野々垣 行恵						
資格・制限等	W・W/R・W/MTコース必修						
実務家教員							
授業内容	吹奏楽オリジナル作品の他、クラシックアレンジ作品、ポップスに至るまで、様々なジャンルの曲を取り上げ、各所において、それぞれの役割を理解し、演奏力の向上を目指します。また、授業以外に、各楽器の個人レッスンがあります。さらに、依頼演奏や定期演奏会で実践力を磨きます。なお、依頼演奏の関係で授業内容は、変更になることがあります。また、2から3回の小長谷宗一客員教授による特別講義を実施します。						
授業方法	吹奏楽の合奏レッスンが中心で、そのほかに各楽器のレッスン、場合によってパート別レッスン、セクションや分奏のレッスンなどが行われます。						
到達目標	知識・理解	吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を理解し、クラシック、ジャズ、ポピュラー等ジャンルの様式や特徴を理解する。					
	思考・判断・表現	吹奏楽で演奏されるジャンルの基本的な知識があり、楽曲に合った演奏表現ができ、パートや合奏隊の一員としての責任を果たすことができる。					
	技能	楽譜通りに演奏できることはもちろん指揮者の音楽性を理解し、要求に合った演奏ができる。短音階スケールやフレーズの歌い方をはじめとする演奏技術を身につける。					
	関心・意欲・態度	個人練習のみならず、パート練習、セクション練習等を積極的に学生同士で練習方法等を研究し円滑に練習を進めることができる。豊かな感性と表現力を養い、理想の演奏者にむかって、研鑽に努める事ができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	-	60	-	60
	受講態度		-	-	-	20	20
	小テスト・提出物		10	10	-	-	20
	合 計(点)		10	10	60	20	100
評価の特記事項	受講態度は、学修ノートを中心に受講姿勢を含めて総合的に判断します。						
テキスト	ありません						
参考書・教材	楽譜等その都度配布。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	音楽鑑賞用楽曲 合奏・分析・仕上げ [課題（復習・発展）]音楽鑑賞用楽曲 の研究・調査及びできなかったところの復習、個人練習、学修ノートの記入。短音階スケールの練習（3h～5h）						
2	音楽鑑賞用楽曲 合奏・分析・仕上げ [課題（復習・発展）]音楽鑑賞用楽曲 の研究・調査及びできなかったところの復習、個人練習、学修ノートの記入。短音階スケールの練習 （3h～5h）						
3	音楽鑑賞用楽曲 合奏・分析・仕上げ [課題（復習・発展）]音楽鑑賞用楽曲 の研究・調査及びできなかったところの復習、個人練習、学修ノートの記入。3連符と12/8拍子での音階練習（3h～5h）						
4	音楽鑑賞用楽曲 合奏・分析・仕上げ [課題（復習・発展）]音楽鑑賞用楽曲 の研究・調査及びできなかったところの復習、個人練習、学修ノートの記入。16分音符での音階練習（3h～5h）						
5	音楽鑑賞用楽曲 合奏・分析・仕上げ [課題（復習・発展）]音楽鑑賞用楽曲 の研究・調査及びできなかったところの復習、個人練習、学修ノートの記入。3度の練習（3h～5h）						
6	音楽鑑賞用楽曲 合奏・分析・仕上げ [課題（復習・発展）]音楽鑑賞用楽曲 の研究・調査及びできなかったところの復習、個人練習、学修ノートの記入。アルペジオ：短調の練習（3h～5h）						
7	音楽鑑賞用楽曲 合奏・分析・仕上げ [課題（復習・発展）]音楽鑑賞用楽曲 の研究・調査及びできなかったところの復習、個人練習、学修ノートの記入。短3和音と減7の和音の練習（3h～5h）						
8	定期演奏会に向けての練習1 合奏・分析・仕上げ [課題（復習・発展）]定期演奏会の楽曲の研究・調査及び苦手なところの練習、個人・パート練習、学修ノートの記入。グルーピングについての課題学習（3h～5h）						
9	定期演奏会に向けての練習2 合奏・分析・仕上げ [課題（復習・発展）]定期演奏会の楽曲の研究・調査及び苦手なところの練習、個人・パート練習、学修ノートの記入。重心についての課題学習（3h～5h）						
10	定期演奏会に向けての練習3 合奏・分析・仕上げ [課題（復習・発展）]定期演奏会の楽曲の研究・調査及び苦手なところの練習、個人・パート練習、学修ノートの記入。コントラストにつての課題学習（3h～5h）						
11	定期演奏会に向けての練習4 合奏・分析・仕上げ [課題（復習・発展）]定期演奏会の個人・パート・セクション練習、学修ノートの記入。（3h～5h）						
12	定期演奏会に向けての練習5 合奏・分析・仕上げ [課題（復習・発展）]定期演奏会の個人・パート・セクション練習、学修ノートの記入。（3h～5h）						
13	定期演奏会に向けての練習6 合奏・分析・仕上げ [課題（復習・発展）]定期演奏会の個人・パート・セクション練習、学修ノートの記入。（3h～5h）						
14	定期演奏会の反省と振り返り、問題点を話し合う。後片付け。 [課題（復習・発展）]定期演奏会の反省を個人・パート・全体で行い、来年度に向けての問題点を検討する。学修ノートの記入。（3h～5h）						
15	試験指定曲の合奏 [課題（準備）]試験指定曲の研究・個人練習（3h～5h）						

時間外での学修	授業以外に各楽器のレッスンがあります。必要に応じて個人練習、パート練習、セクション練習等を行ってください。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間： 4 5 ～ 7 5 時間]
受講学生へのメッセージ	まずは、個々が譜面に正確な演奏を心掛けてください。パート内で精密な合わせをし、その上で他パートの動きなどを理解し、合奏力の向上を目指してください。一人でも欠けるとアンサンブルが成立しません。無断欠席・遅刻厳禁。 オフィスアワーは、授業前後の休み時間に教室で行います。

【3W5B109】吹奏楽理論		音楽総合学科		1年前期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	長尾 洪基						
資格・制限等	W・W/R・W/MTコース必修						
実務家教員	作編曲家、吹奏楽指導者（含 高等学校教員）・31年						
授業内容	一般的な音楽理論を含め、吹奏楽を指導、演奏する上での専攻楽器以外の各楽器の特徴を学び、移調を理解します。						
授業方法	音楽理論を含め吹奏楽で必要とされる理論を講義にて学びます。質疑応答の時間を設け、問題を解きながら進めていきます。						
到達目標	知識・理解	専攻楽器以外の特徴も理解する					
	思考・判断・表現	楽典知識を活用できること					
	技能	移調を即座にできること					
	関心・意欲・態度	意欲的に授業に参加し、課題に取り組むこと					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		50	10	20	-	80
	受講態度		-	-	-	20	20
	合 計(点)		50	10	20	20	100
評価の特記事項							
テキスト	なし						
参考書・教材	その都度配布						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス・授業の内容 [課題（予習）]音楽基礎知識の予習(4h)						
2	楽譜・音符について [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)						
3	音程 1 [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)						
4	音程 2 [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)						
5	音程 3 [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)						
6	音階 [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)						
7	近親調 [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)						
8	楽語・楽器論木管楽器 1 フルートについて [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)						
9	楽語・楽器論木管楽器 2 オーボエ・ファゴットについて [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)						
10	楽語・楽器論木管楽器 3 クラリネットについて [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)						
11	楽語・楽器論木管楽器 4 サクソフォンについて [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)						
12	移調 基本編 [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)						
13	移調 応用編 1 [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)						
14	移調 応用編 2 [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)						
15	前期まとめ・筆記試験対策 [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)						
時間外での学修	専攻楽器以外の理解が重要となってくるので、合奏やアンサンブル中も他楽器のことについて意識をもつこと。【この科目で求める望ましい学修外での総学修時間：60時間】						
受講学生へのメッセージ	移調等の問題によって混乱しがちになりますが、たくさんの練習問題をこなしながら確実に理解していきましょう。 オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。						

【3W5S110】吹奏楽理論		音楽総合学科		1年後期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	長尾 洪基						
資格・制限等	W・W/R・W/MTコース必修						
実務家教員	作編曲家、吹奏楽指導者（含 高等学校教員）・31年						
授業内容	吹奏楽を指導、演奏する上で、各楽器の特徴を理解しスコアの読み方を学び、簡単な編曲を行います。						
授業方法	音楽理論を含め、吹奏楽で必要とされる理論を講義にて学びます。質疑応答の時間を設け、問題を解きながら進めていきます。						
到達目標	知識・理解	専攻楽器以外の特徴も理解する					
	思考・判断・表現	楽典知識を活用できること					
	技能	移調を即座にできること					
	関心・意欲・態度	意欲的に授業に参加し、課題に取り組むこと					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		50	10	20	-	80
	受講態度		-	-	-	20	20
	合 計(点)		50	10	20	20	100
評価の特記事項							
テキスト		なし					
参考書・教材		その都度配布					

内容	
実施回	授業内容・目標
1	前期の復習 [課題（予習）]音楽基礎知識の予習(4h)
2	楽器論金管楽器 1 トランペット [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)
3	楽器論金管楽器 2 ホルン [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)
4	楽器論金管楽器 3 トロンボーン [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)
5	楽器論金管楽器 4 ユーフォニアム [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)
6	楽器論金管楽器 5 テューバ [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)
7	コントラバスの構造・特徴について [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)
8	コンデンススコアをアンサンブル譜へ書き替え(1) [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)
9	コンデンススコアをアンサンブル譜へ書き替え(2) [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)
10	コンデンススコアをアンサンブル譜へ書き替え(3) [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)
11	打楽器について（種類・音域・楽譜の読み方） [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)
12	打楽器の楽譜の書き方・作成（ドラムマーチ） [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)
13	吹奏楽（管打楽器アンサンブル）の楽譜の書き方・作成 1 [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)
14	吹奏楽（管打楽器アンサンブル）の楽譜の書き方・作成 2 [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)
15	後期まとめ・筆記試験対策 [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)

時間外での学修	専攻楽器以外の理解が重要となってくるので、合奏やアンサンブル中も他楽器のことについて意識をもつこと。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	各自作成した楽譜を提出します。それぞれの楽器についての知識を再確認しておきましょう。オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。

【3S8S217】スコアリーディング		音楽総合学科		1年後期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	長尾 洪基						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	作編曲家、吹奏楽指導者（含 高等学校教員）・31年						
授業内容	吹奏楽を指導・演奏する為に必要な楽譜の読み取り方や内容解釈の方法を学び、実際の演奏への応用を研究します。						
授業方法	楽曲分析・和声・楽器法など、楽曲内容を読み取るために必要な知識や技術を課題や演習にて習得し、実際に吹奏楽楽曲（の総譜およびコンデンススコア）を用いてスコアリーディング実習・発表を行います。						
到達目標	知識・理解	楽曲分析、和声、楽器法などの知識を習得する					
	思考・判断・表現	総譜を総合的に読み進める力を付ける					
	技能	読み取った内容を演奏や指導に活かすことができる					
	関心・意欲・態度	多様な音楽に関心を持ち積極的に取り込もうとすることができる					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	試験		50	10	10	-	70
	受講態度		-	10	-	20	30
	合 計(点)		50	20	10	20	100
評価の特記事項							
テキスト	なし						
参考書・教材	その都度配布						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス・授業の内容 [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)						
2	楽曲の形式について1 [課題（復習）]本時学修内容（1部形式、2部形式、3部形式など）の復習(4h)						
3	楽曲の形式について2 [課題（復習）]本時学修内容（複合形式、ソナタ形式など）の復習(4h)						
4	和声基礎1 [課題（復習）]本時学修内容（基本形3和音の配置）の復習(4h)						
5	和声基礎2 [課題（復習）]本時学修内容（基本形3和音の連結）の復習(4h)						
6	和声基礎3 [課題（復習）]本時学修内容（非和声音）の復習(4h)						
7	楽器法（オーケストレーション）1 [課題（復習）]本時学修内容（各楽器の特性および記譜）の復習(4h)						
8	楽器法（オーケストレーション）2 [課題（復習）]本時学修内容（スコアの読譜）の復習(4h)						
9	楽曲分析1 [課題（復習）]本時学修内容（楽曲の形式観）の復習(4h)						
10	楽曲分析2 [課題（復習）]本時学修内容（楽曲各部分の和声解析）の復習(4h)						
11	楽曲分析3 [課題（復習）]本時学修内容（読譜し楽曲の解釈）の復習(4h)						
12	スコアリーディング1 [課題（復習）]本時学修内容（課題曲の読譜1）の復習(4h)						
13	スコアリーディング2 [課題（復習）]本時学修内容（課題曲の読譜2）の復習(4h)						
14	スコアリーディング3 [課題（復習）]本時学修内容（課題曲の読譜3及び演奏解釈への応用）の復習(4h)						
15	スコアリーディング4・筆記試験対策 [課題（復習）]本時学修内容（1回～14回までの学習内容）の復習(4h)						
時間外での学修	学修内容が多岐にわたります。その一つ一つを丁寧に復習し、総合的な力にしていきましょう。吹奏楽だけではなく様々なジャンルの優れた音楽を積極的に聞きましょう。[この授業で求める望ましい授業外での総学修時間： 6 0 時間]						
受講学生へのメッセージ	楽曲解釈を深めより質の高い演奏を目指す為に、音楽内容を正確に読み取る力をつけましょう。オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。						

【3R6B301】リペア基礎(木管)		音楽総合学科		1年前期			
		1単位	必修	実技	45時間		
教員	松永 幸宏・鬼頭 加奈						
資格・制限等	R・W/Rコース必修						
実務家教員	松永：楽器店修理販売職・19年、鬼頭：楽器店修理販売職・10年						
授業内容	木管楽器（クラリネット、フルート、サクソフォン）の仕組み・構造を理解し、基礎となるリペア技術を学ぶ。 安全な作業を十分に理解し、工具の適切な使用法を学び、リペア技術に必要な基本となる動作や取扱い方を学んでいきます。						
授業方法	全体での実習を中心とし、講義や小テストなどを入れながら、木管楽器の基本的なりペア技術、基礎的な構造知識が身に付け、問題解決できるよう授業を展開していきます。						
到達目標	知識・理解	各木管楽器の仕組み、構造を理解し、基礎的な管楽器の状態を把握することができる。					
	思考・判断・表現	各木管楽器の状態を把握し、修理箇所を見つけ、原因を理解した後、解決方法を判断できる。					
	技能	各木管楽器の修理箇所到的確な技能を持って対応する。					
	関心・意欲・態度	管楽器全般に関して関心・興味を持ち、自らが率先して学修することができる					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験		10	-	-	-	10
	実技試験		-	30	50	-	80
	受講態度		-	-	-	10	10
	合 計(点)		10	30	50	10	100
評価の特記事項	受講態度は学修取り組み、技術向上への意欲等の状況で評価します。						
テキスト	『管打楽器の新しい楽器学と演奏法』（上・下2巻）ヤマハ(15,120円) リペア科目共通テキスト						
参考書・教材	各社カタログ、必要な資料は配付します。						
内 容							
実施回	授業内容・目標						
1	遠隔授業 ポータルサイトを活用し対面授業に向けた学修 [課題(復習)]課題提出 クラリネットについて（1h）						
2	ガイダンス、授業の進め方、工具の確認、使用方法について説明 [課題(復習)]学んだ加工技術（1h）						
3	クラリネットの初歩実習 キイ分解組み立てを行う事で、構造やキイ名称を学修する。また、工具の使用 方法についての説明も行う。 [課題(復習)]学んだ分解・組立（2h）						
4	クラリネットの基礎実習 連絡バランス調整及び、タンポ交換手順 [課題(復習)]学んだタンポ交換（2h）						
5	フルート初歩実習 キイ分解組み立てを行う事で、構造やキイ名称を学修する。また、工具の使用 方法についての説明も行う。 [課題(復習)]学んだ分解・組立（2h）						
6	フルートの基礎実習 タンポ交換手順 [課題(復習)]学んだタンポ交換（2h）						
7	フルートの基礎実習 タンポ交換、連絡バランス調整 [課題(復習)]学んだタンポ交換（2h）						
8	サクソフォンの初歩実習 キイ分解組み立てを行う事で、構造やキイ名称を学修する。また、工具の使 用方法についても説明を行う。 [課題(復習)]学んだ分解・組立（3h）						
9	サクソフォンの基礎実習 タンポ交換手順 [課題(復習)]学んだタンポ交換（2h）						
10	サクソフォンの基礎実習 タンポ交換手順、連絡バランス調整 [課題(復習)]学んだタンポ交換（2h）						
11	クラリネットの基礎実習 ジョイントコルク交換 刃物等を使用するため、作業について細かく説明を行う。 [課題(復習)]学んだジョイントコルク交換（1h）						
12	クラリネットの基礎実習 全体調整（パネ圧、開き等の確認） [課題(復習)]学んだバランス調整（1h）						
13	フルートの基礎実習 ヘッドコルク交換、反射板位置確認、 [課題(復習)]学んだヘッドコルク交換、反射板位置（1h）						
14	フルートの基礎実習 全体調整（パネ圧、開き、アソビの取り方等） [課題(復習)]学んだバランス調整（2h）						
15	前期木管楽器復習演習 木管楽器全般について復習を行い、未達成な項目を解消する。						
時間外での学修	授業で学んだ手順をしっかりと復習して身につけましょう。 また、日頃から多くの楽器を見る、触るなどを行い、さまざまな楽器を知って下さい。 特に経験楽器については、よく観察しておいて下さい。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間 ：60時間]						
受講学生への メッセージ	全員が初めて学ぶ事ばかりです。失敗を恐れずに常に興味、関心を持ち続けて取り組んで下さい。 分からない事は、後回しにしないで、直ぐに質問し理解をすることが上達への近道です。 板書は、ルーザーリーフなどに書き込むと各楽器ごとに纏めることが出来ますので活用して下さい。 オフィスアワーは、毎週水曜日5限16：40～18：10 F201教室で行います。						

【3R6S302】リペア基礎(木管)		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	必修	実技	45時間		
教員	松永 幸宏・鬼頭 加奈						
資格・制限等	R・W/Rコース必修						
実務家教員	松永：楽器店修理販売職・19年、鬼頭：楽器店修理販売職・10年						
授業内容	前期で学んだ木管楽器（クラリネット、フルート、サクソフォン）の基礎的な実習を更に拡大してリペアを行う事によって目指す品質はどう言ったものなのかを、各楽器で十分に理解する。前期で、工具等使い方を理解したと思いますが、より安全な作業を行うには、どうしたら良いかを考えながら学んでいきます。						
授業方法	実習がメインとなり、教科書や配布プリント、DVD、各社カタログを取り入れながら、前期授業で学んだ内容をさらに拡大して総合的なリペア技術を学修し問題解決できるよう授業を展開していきます。						
到達目標	知識・理解	各木管楽器のメーカーによるキシステムの違い（特別講義で解説します）を理解する。					
	思考・判断・表現	リペア作業をするにあたって、原因を究明し対処法を考え作業を組み立てる。					
	技能	各木管楽器のリペア箇所に適切な技能を持って対応する。					
	関心・意欲・態度	管楽器全般に関しての情報、他社系のリペア手段など興味を持って、自らが率先して学修する。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		10	-	-	-	10
	実技試験		-	30	50	-	80
	受講態度		-	-	-	10	10
	合 計(点)		10	30	50	10	100
評価の特記事項	受講態度は学修取り組み、技術向上への意欲等の状況で評価します。						
テキスト	『管打楽器の新しい楽器学と演奏法』（上・下2巻）ヤマハ(15,120円) リペア科目共通テキスト						
参考書・教材	各社カタログ、資料などは、授業毎に配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	サクソフォンの基礎実習 ネックコルク交換 [課題(復習)]学んだネックコルク交換（1h）						
2	サクソフォンの基礎実習 全体調整（テーブルキイ）タンポ交換 [課題(復習)]学んだバランス調整（3h～5h）						
3	クラリネットの総合実習 タンポ交換、調整復習 [課題(復習)]学んだ全体調整（3h）						
4	クラリネットの総合実習 タンポ交換、調整復習 [課題(復習)]学んだ全体調整（3h）						
5	フルートの総合実習 タンポ交換、調整復習 [課題(復習)]学んだ全体調整（3h）						
6	フルートの総合実習 タンポ交換、調整復習 [課題(復習)]学んだ全体調整（3h）						
7	サクソフォンの総合実習 タンポ交換、調整復習 [課題(復習)]学んだ全体調整（3h）						
8	サクソフォンの総合実習 タンポ交換、調整復習 [課題(復習)]学んだ全体調整（3h）						
9	クラリネットの総合実習 全タンポ交換、全体調整 [課題(復習)]総合的な復習（3h）						
10	クラリネットの総合実習 全タンポ交換、全体調整 [課題(復習)]総合的な復習（3h）						
11	フルートの総合実習 全タンポ交換、全体調整 [課題(復習)]総合的な復習（3h）						
12	フルートの総合実習 全タンポ交換、全体調整 [課題(復習)]総合的な復習（3h）						
13	サクソフォンの総合実習 部分タンポ交換、全体調整 [課題(復習)]総合的な復習（3h）						
14	サクソフォンの総合実習 部分タンポ交換、全体調整 [課題(復習)]総合的な復習（3h）						
15	クラリネット全タンポ交換、全体調整、ジョイントコルク交換 [課題(復習)]総合的な復習（5h）						
時間外での学修	反復練習をすることによって精度、時間短縮を心がけよう。 また、日頃から多くの楽器を見る触れる等を行い、様々な楽器を知って下さい。特に自身の楽器については、よく観察しておいて下さい。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間]						
受講学生へのメッセージ	基本手順をしっかり身につけて2年次への準備をしよう。分からない事は1年次で解決すること。 オフィスアワーは、毎週水曜日5限目16：40～18：10 F201教室で行います。						

【3R6B303】リペア基礎(金管)		音楽総合学科		1年前期			
		3単位	必修	実技	120時間		
教員	渡辺 博夫・鬼頭 加奈						
資格・制限等	R・W/Rコース必修						
実務家教員	渡辺：メーカー修理職・34年 鬼頭：楽器店修理販売職・10年						
授業内容	金管楽器（トランペット、ホルン、トロンボーン）の仕組み・構造を理解し、基礎となるリペア技術を学ぶ。 安全な作業を十分に理解し、工具の適切な使用方法を学び、リペア技術に必要な基本となる動作や取り扱いを学んでいきます。						
授業方法	全体での実習を中心とし、講義や小テストを入れながら、金管楽器の基本的なリペア技術、基本的な構造知識が身につく授業にしています。						
到達目標	知識・理解	各金管楽器の仕組み、構造を理解し、基本的な管楽器の状態を把握することができる。					
	思考・判断・表現	各金管楽器の状態を把握し、修理箇所を見つけ、原因を理解した後、解決方法を判断する。					
	技能	各金管楽器の修理箇所への確かな技能を持って対応する。					
	関心・意欲・態度	管楽器全般に関して関心、興味を持ち、自らが率先して学修することができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		10	-	-	-	10
	実技試験		-	30	50	-	80
	受講態度		-	-	-	10	10
	合 計(点)		10	30	50	10	100
評価の特記事項							
テキスト	『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」上・下2巻』ヤマハ株式会社						
参考書・教材	各社カタログや資料は、授業毎に配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	遠隔授業 ポータルサイトを活用し対面授業に向けた学修 【課題(復習)】課題提出 各部名称 (1h)						
2	工具製作、トランペットの初歩実習 基礎知識、取り扱い方法、分解組み立て 【課題(復習)】学んだ内容の復習 (1h)						
3	トランペット基礎実習 ピストン調整 【課題(復習)】学んだ内容の復習 (2h)						
4	トランペット基礎実習 抜き差し管調整 【課題(復習)】学んだ内容の復習 (2h)						
5	ハンダ付け(溶接) 初歩実習 ハンダ及びペースト等材料に対する知識から、溶接作業手順について説明 【課題(復習)】学んだ内容の復習 (2h)						
6	ハンダ付け(溶接) 初歩実習 ハンダ及びペースト等材料に対する知識から、溶接作業手順について説明 【課題(復習)】学んだ内容の復習 (2h)						
7	ホルンの初歩実習 基礎知識、取り扱い方法、使用工具の説明 【課題(復習)】学んだ内容の復習 (1h)						
8	ホルンの基礎実習 ロータリー系(組)交換 【課題(復習)】学んだ内容の復習 (2h)						
9	ホルンの基礎実習 ロータリー調整、使用工具説明 【課題(復習)】学んだ内容の復習 (2h)						
10	トロンボーンの初歩実習 基礎知識、取り扱い方法、使用工具等説明 【課題(復習)】学んだ内容の復習 (1h)						
11	トロンボーンの基礎実習 ウォーターキー分解組み立て、コルク交換、スライドストップフェルト交換 【課題(復習)】学んだ内容の復習 (2h)						
12	トロンボーンの基礎実習 スライド曲がり修正 【課題(復習)】学んだ内容の復習 (2h)						
13	ハンダ付け基礎実習 ハンダ分解組み立て 【課題(復習)】学んだ内容の復習 (2h)						
14	ハンダ付け基礎実習 ハンダ分解組み立て 【課題(復習)】学んだ内容の復習 (2h)						
15	前期金管楽器基礎復習 金管楽器全般についての復習を行い、未達成な項目を解消する。 【課題(復習)】学んだ内容の復習 (3～5h)						
時間外での学修	授業で学んだ手順をしっかりと復習して、基礎となる部分を身に付けましょう。 また、日頃から多くの楽器を見る、触れるなど行い、さまざまな楽器を知ってください。 特に経験楽器については、よく観察しておいてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】						
受講学生へのメッセージ	全員が初めて学ぶ事ばかりです。失敗を恐れずに、常に興味や関心を持って取り組んでください。 分からない事は、後回しにしないで、すぐに質問し理解することが上達への近道です。 板書は、ルーズリーフ等に書き込むと、各楽器毎に纏めることが出来ますので活用してください。 オフィスアワーは、毎週木曜日5限F201教室で行います。						

【3R6S304】リペア基礎(金管)		音楽総合学科		1年後期			
		3単位	必修	実技	120時間		
教員	渡辺 博夫・鬼頭 加奈						
資格・制限等	R・W/Rコース必修						
実務家教員	渡辺：メーカー修理職・34年 鬼頭：楽器店修理販売職・10年						
授業内容	前期で学んだ金管楽器（トランペット、ホルン、トロンボーン）の基礎的な実習をさらに拡大して、リペアを行うことによって目指す品質はどういったものなのかを、各楽器で十分に理解する。前期で、工具等の使用方法を理解したと思いますが、より安全に作業を行うにはどうしたら良いかを考えながら学んでください。						
授業方法	実習がメインとなり、教科書や配布物、DVD、各社カタログ等を探り入れながら、前期授業で学んだ内容をさらに拡大して、総合的なリペア技術を学修します。						
到達目標	知識・理解	各金管楽器のメーカーによる構造等の違いが理解できる。（特別講義等で解説します。）					
	思考・判断・表現	リペア作業をするにあたって、原因を究明し対処法を考えて作業ができる。					
	技能	各楽器のリペア箇所に、適切な技能を持って対処ができる。					
	関心・意欲・態度	管楽器全般に関しての情報、他社系のリペア手法など興味を持って、自らが率先して学修ができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		10	-	-	-	10
	実技試験		-	30	50	-	80
	受講態度		-	-	-	10	10
	合 計(点)		10	30	50	10	100
評価の特記事項							
テキスト	『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」上・下巻』ヤマハ						
参考書・教材	各社カタログや資料は、授業毎に配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	トランペット基礎実習 抜き差し管へこみ修正、ピッチ、平行度調整 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（2h）						
2	トランペット基礎実習 抜き差し管へこみ修正、ピッチ、平行度調整 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（2h）						
3	トランペット基礎実習 マウスパイスハンダ分解組み立て 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（2h）						
4	トランペット基礎実習 マウスパイスハンダ分解組み立て 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（2h）						
5	ホルンの基礎実習 ロータリー調整 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（2h）						
6	ホルンの基礎実習 ロータリー調整 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（2h）						
7	ホルンの基礎実習 レバー位置、ロータリー系（紐）のテンション調整 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（2h）						
8	ホルンの基礎実習 レバー位置、ロータリー系（紐）のテンション調整 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（2h）						
9	トロンボーンの基礎実習 スライド調整、ウォーターキーコルク交換 【課題（復習）】学んだ内容の復習（2h）						
10	トロンボーンの基礎実習 スライド調整・スライドストップフェルト交換 【課題（復習）】学んだ内容の復習（2h）						
11	金管楽器基礎実習 マウスピース固着・マウスピースシャンク変形修正・抜き差し管固着修正 【課題（復習）】学んだ内容の復習（1h）						
12	トランペットの基礎実習 ピストン固着修正・マウスパイプハンダ付け 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3～5h）						
13	ホルンの基礎実習 ロータリー固着修正・ロータリー系（紐）交換・全体調整 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3～5h）						
14	トロンボーンの基礎実習 スライド調整・ウォーターキーコルク交換・スライドストップフェルト交換 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3～5h）						
15	ホルンの基礎実習 ロータリー調整・ロータリー系（紐）交換・レバー位置修正・全体調整 【課題（復習）】学んだ内容の復習（5h）						
時間外での学修	反復練習をすることによって、精度、時間短縮を心掛けてください。 時間だけかければ上手くなるものではありません。 また、指摘内容が感覚的になってしましますが、上手くコツを掴んで出来るようになって下さい。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】						
受講学生へのメッセージ	基本動作をしっかりと身に付け2年次への準備をして下さい。分からないことは、1年次中に解決してください。オフィスアワーは、毎週木曜日5限F201教室で行います。						

【3R6B305】リペア基礎(総合)		音楽総合学科		1年前期			
		3単位	必修	実技	120時間		
教員	松永 幸宏・鬼頭 加奈						
資格・制限等	R・W/Rコース必修						
実務家教員	松永：楽器店修理販売職・19年、鬼頭：楽器店修理販売職・10年						
授業内容	木管楽器、金管楽器の区分にとらわれず広角的なアプローチから、機能、構造を理解して、基礎となるリペア技術を学修する。 安全な作業を十分に理解して、工具の適切な使用方法を学び、リペアに必要な基本動作、扱い方を身につけ、基礎的な知識、技能の習得。 正確性、効率性、商品知識や接遇など現場での内容も視野に入れて授業を行っていきます。						
授業方法	全体での実技を中心として、講義、小テストなどを入れながら、管楽器の基本的な作業動作、基本的な知識、技能が身に付け問題解決できるよう授業を展開していきます。また、卒後の方向に向けて、業界や楽器店の仕事内容等についても講話を行います。						
到達目標	知識・理解	各管楽器の仕組み、構造を理解し、基礎的な管楽器の状態を把握することができる。					
	思考・判断・表現	各管楽器の状態を把握し、修理箇所を見つけ、原因を理解した後、解決方法を判断できる。					
	技能	各管楽器の修理箇所に的確な技能を持って対応する。					
	関心・意欲・態度	管楽器のみならず、吹奏楽等で使用される楽器について関心や興味を持って、自らが率先して知識向上に向け学修する。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		10	-	-	-	10
	実技試験		-	30	50	-	80
	受講態度		-	-	-	10	10
	合 計(点)		10	30	50	10	100
評価の特記事項	受講態度は学修取り組み、技術向上への意欲等の状況で評価します。						
テキスト	『管打楽器の新しい楽器学と演奏法』(上・下2巻)ヤマハ(15,120円) リペア科目共通テキスト						
参考書・教材	各社カタログ、資料は授業毎に配付します。						
内 容							
実施回	授業内容・目標						
1	遠隔授業 作成した動画を活用し対面授業に向けた学修 [課題(復習)]動画閲覧(1h)						
2	工具の加工 ヤスリ掛け実習 [課題(復習)]学んだヤスリ掛け(1h)						
3	管楽器基礎知識 メンテナンス用品の取り扱い他 (DVD使用) [課題(復習)]学んだ取り扱い方法(2h)						
4	管楽器基礎知識 メンテナンス用品の取り扱い他 (DVD使用) [課題(復習)]学んだ取り扱い(2h)						
5	クラリネット、トランペット基礎確認テスト [課題(復習)]学んだ確認テスト内容(1h)						
6	管楽器製造方法 使用材料や加工法 [課題(復習)]学んだ管楽器の材料、加工法(1h)						
7	管楽器製造方法 使用材料、表面仕上げ、加工法 [課題(復習)]学んだ管楽器の表面処理(1h)						
8	フルート、ホルン基礎確認テスト [課題(復習)]学んだ確認テスト内容(1h)						
9	管楽器製造方法 使用材料、表面仕上げ、加工法 [課題(復習)]学んだ管楽器の製造工程(1h)						
10	管楽器以外の楽器類 [課題(復習)]学んだ各種楽器の種類(1h)						
11	サクソフォン、トロンボーン基礎確認テスト [課題(復習)]学んだ確認テスト内容(1h)						
12	主要管楽器メーカー特別講義 [課題(復習)]学んだ特別講義内容(3h～5h)						
13	楽器店での管楽器リペア 先輩達の進路を交えて [課題(復習)]学んだ現場での修理(2h)						
14	工房や管楽器専門店での管楽器リペア 先輩達の進路を交えて [課題(復習)]学んだ楽器店における修理(2h)						
15	前期総合基礎演習 [課題(復習)]学んだ修理(3h～5h)						
時間外での学修	授業で学んだ手順をしっかりと復習し、基礎を身につけてください。 また、日頃から多くの楽器類を見る触れるなどして、様々な楽器を知って下さい。 特に自身の楽器については、よく観察しておいてください。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間]						
受講学生へのメッセージ	全員が初めて学ぶことばかりです。失敗を恐れずに常に興味、関心を持って取り組んで下さい。分からないことを後回しにしないで、直ぐに質問し理解することが上達への近道です。 オフィスアワーは毎週水曜日5限16：40～18：10 F201教室で行います。						

【3R6S306】リペア基礎(総合)		音楽総合学科		1年後期			
		3単位	必修	実技	120時間		
教員	松永 幸宏・鬼頭 加奈						
資格・制限等	R・W/Rコース必修						
実務家教員	松永：楽器店修理販売職・19年、鬼頭：楽器店修理販売職・10年						
授業内容	木管楽器、金管楽器の区分にとらわれず、多角的なアプローチから、仕組みや構造を理解し、基礎となるリペア技能を学修する。 安全な作業を十分に理解し、適切な工具の使用法を学び、リペア技能に必要な基本動作や扱い方を身につける、基本的な知識や技能の習得。 正確性、効率性、商品知識、接遇など現場での内容も視野に入れて授業を行っていきます。 実技以外で、楽器店状況や工房、製造メーカーの現状等についても講話を行っていきます。						
授業方法	全体での実技を中心とし、講義、DVD、小テストなどを入れながら、管楽器の基本的なリペア技能、基本的な知識等を身に付け、問題解決できるよう授業を展開していきます。						
到達目標	知識・理解	各管楽器の仕組み、構造を理解し基礎的な楽器の状態を把握する事ができる。					
	思考・判断・表現	各管楽器の状態を把握し、リペア箇所を見つけ解決法を判断できる。					
	技能	各管楽器の状態を把握し、リペア箇所を自らの技能で問題解決する。					
	関心・意欲・態度	楽器に関する事に興味、関心をもち自らが率先して学修することができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		10	-	-	-	10
	実技試験		-	30	50	-	80
	受講態度		-	-	-	10	10
	合 計(点)		10	30	50	10	100
評価の特記事項	受講態度は学修取り組み、技術向上への意欲等の状況で評価します。						
テキスト	『管打楽器の新しい楽器学と演奏法』(上・下2巻)ヤマハ(15,120円) リペア科目共通テキスト						
参考書・教材	各社カタログ、資料等は授業毎に配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	管楽器専門知識 [課題(復習)]学んだ専門知識(1h)						
2	管楽器専門知識 [課題(復習)]学んだ専門知識(1h)						
3	管楽器専門知識 [課題(復習)]学んだ専門知識(1h)						
4	主要楽器メーカー講習 [課題(復習)]学んだメーカー講習内容(3h～5h)						
5	管楽器専門知識 [課題(復習)]学んだ専門知識(1h)						
6	管楽器専門知識 [課題(復習)]学んだ専門知識(1h)						
7	特殊工具を使用するリペア [課題(復習)]学んだ特殊工具使用方法(1h)						
8	総合確認テスト [課題(復習)]学んだ確認テスト内容						
9	楽器店での管楽器リペア [課題(復習)]学んだリペア業務の内容(1h)						
10	楽器店での管楽器リペア [課題(復習)]学んだ店頭でのリペア業務(1h)						
11	楽器店での管楽器リペア [課題(復習)]学んだ学校販売でのリペア業務(1h)						
12	主要管楽器メーカー特別講義 [課題(復習)]学んだメーカー特別講義内容(3h～5h)						
13	後期総合基礎復習 [課題(復習)]学んだ時間短縮及び苦手修理(3h～5h)						
14	後期総合基礎復習 [課題(復習)]学んだ時間短縮及び苦手修理(3h～5h)						
15	後期総合基礎復習 [課題(復習)]時間短縮及び苦手修理(3h～5h)						
時間外での学修	繰り返し練習することによって精度、時間短縮に心がけてください。 また、日頃から多くの楽器を見る触れる等で、様々な楽器を知って下さい。特に自身の楽器については、よく観察しておいてください。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間]						
受講学生へのメッセージ	基本手順をしっかりと身に付け、2年次への準備をしっかりとして下さい。 オフィスアワーは毎週水曜日5限16：40～18：10 F201教室で行います。						

【3W5B213】演奏会研究		音楽総合学科		1年前期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	鈴木 孝育					
資格・制限等	Wコース必修					
実務家教員						
授業内容	年間約4～6公演を鑑賞予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、後期のみの鑑賞となります。そのかわりに、「自分の企画する演奏会」「世界のオーケストラと指揮者、その名演」「世界の音楽祭・コンサート」をそれぞれ研究し、プレゼンテーションを行ないます。創意工夫された資料作りをし、個別発表することによって、プレゼンテーション能力も磨きます。また、相互に批評・評価する中で、他人の意見を聞く傾聴力や、他人に的確にアドバイスできる力を養成します。世界有数のオーケストラや音楽祭に触れることで、個々の感受性を高め、音楽の表現力や根本的な楽しさを学びます。					
授業方法	個々の企画演奏会については、演目や出演者等を設定し、プログラムを作成します。それをもとに、15分程度のプレゼンを行い、他者の発表時には、評価シートを記入します。「世界のオーケストラと指揮者、その名演」及び「世界の音楽祭・コンサート」も、それぞれ別の対象を選択し、発表資料を作成します。それをもとに、20分程度のプレゼンを行い、他者の発表時には、評価シートを記入し、意見交換をします。					
到達目標	知識・理解	個々に企画する演奏会や、調査対象のオーケストラ、指揮者、音楽祭やコンサートについての基本情報を調べ、研究することで、そこから得られた知識を理解することができる。				
	思考・判断・表現	個々に企画する演奏会のプログラムや、「世界のオーケストラ、指揮者とその名演」「世界の音楽祭、コンサート」についてのプレゼンテーション資料を作成し発表することによって、自身の音楽表現に活かすことができる。また、他者の発表内容を評価することにより、自己の知識を増幅させるとともに自己表現力を磨き、自分の企画する演奏会に活かすことができる。				
	関心・意欲・態度	世界の有数なオーケストラや指揮者、音楽祭やコンサートを知ることによって自分の音楽世界を押し広げ、より質の高い演奏や演奏会を目指し、積極的に努力して学修に取り組むことができる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	資料・発表・講評	27	27	-	24	78
	課題提出	8	8	-	6	22
	合 計(点)	35	35	-	30	100
評価の特記事項	資料と、発表・講評は、それぞれ観点別に評価します。発表は、態度・話し方、内容・構成を細かく項目別に評価します。					
テキスト	ありません					
参考書・教材	その都度配付					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	ZOOMによる講義 ガイダンス、この授業で学ぶこと 研究の仕方、授業内容、到達目標等 終了後、個別に質疑応答 [課題（準備）]演奏会についての考察課題 ～ 。演奏会研究冒頭調査。(1～2h)					
2	ZOOMによる講義 演奏会についての考察（第1回授業振り返りと発展） 自分の企画する演奏会についての構想を練る。 終了後、個別に質疑応答。 [課題（準備）]自分の企画する演奏会プログラムの作成。(2～3h)					
3	ZOOMによる講義 自分の企画する演奏会についての構想を練る。 個別相談・指導 [課題（準備）]自分の企画する演奏会プログラムの作成。(2～3h)					
4	自分の企画する演奏会プログラム提出。次回の発表について説明。 「世界のオーケストラと指揮者、その名演について」解説および、調査・発表対象の選択。 [課題（準備）]「世界のオーケストラと指揮者、その名演」発表資料作成。(2～3h)					
5	自分の企画する演奏会についてのプレゼンテーション（4人） [課題（復習・準備）]本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。「世界のオーケストラと指揮者、その名演」発表資料作成。(2～3h)					
6	自分の企画する演奏会についてのプレゼンテーション（4人） [課題（復習・準備）]本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。「世界のオーケストラと指揮者、その名演」発表資料作成。(2～3h)					
7	自分の企画する演奏会プログラム発表における考察と研究。 プレゼンの意義、方法についての解説。発表について、「良かった点」「改善点」の考察とディスカッション。「世界のオーケストラと指揮者、その名演」の発表についての説明。 [課題（復習・準備）]すべての発表の振り返り及び、次回「世界のオーケストラと指揮者、その名演」のプレゼンテーション準備(2～3h)					
8	「世界のオーケストラと指揮者、その名演について」についてのプレゼンテーション（4人） [課題（復習・準備）]本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。次回発表の準備(2～3h)					
9	「世界のオーケストラと指揮者、その名演について」についてのプレゼンテーション（4人） [課題（復習・準備）]本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。(2～3h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
10	<p>「世界のオーケストラと指揮者、その名演」発表における考察と研究発表について、「良かった点」「改善点」の考察とディスカッション。それぞれのオーケストラについて更に補足説明。</p> <p>「世界の音楽祭・コンサート」について、解説および、調査・発表対象の選択。</p> <p>[課題（復習・準備）]すべての発表の振返り及び、本日学修した「オーケストラ・指揮者」の復習。「世界の音楽祭・コンサート」発表資料作成。(2～3h)</p>
11	<p>「世界のオーケストラと指揮者、その名演」発表における考察と研究発表について、「良かった点」「改善点」の考察とディスカッション。それぞれのオーケストラについて更に補足説明。</p> <p>[課題（復習・準備）]すべての発表の振返り及び、本日学修した「オーケストラ・指揮者」の復習。「世界の音楽祭・コンサート」発表資料作成。(2～3h)</p>
12	<p>「世界のオーケストラと指揮者、その名演」発表における考察と研究発表対象から外れたオーケストラについて解説・発表</p> <p>[課題（復習）]本日学修した「オーケストラ・指揮者」の復習。「世界の音楽祭・コンサート」発表資料作成。(2～3h)</p>
13	<p>「世界のオーケストラと指揮者、その名演」における確認テスト</p> <p>Googleフォームにて実施する。</p> <p>[課題（準備）]「世界の音楽祭・コンサート」発表準備。(1～2h)</p>
14	<p>「世界の音楽祭・コンサート」についてのプレゼンテーション（４人）</p> <p>[課題（復習・準備）]本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振返り省察する。次回発表の準備(1～2h)</p>
15	<p>「世界の音楽祭・コンサート」についてのプレゼンテーション（４人）</p> <p>[課題（復習・準備）]本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振返り省察する。(1～2h)</p>
時間外での学修	各発表資料提出については、期限に遅れないのはもちろん、内容の充実した資料作成を心がけてください。発表は、定められた時間の中で、より中身の濃い発表ができるように準備を進めてください。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間；26時間から41時間]
受講学生へのメッセージ	他者の調査内容や、発表内容を参考にして、自分の知識や表現力をより磨いていきましょう。オフィスアワーは、授業終了後、教室で行います。

【3W5S214】演奏会研究		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	鈴木 孝育						
資格・制限等	Wコース必修						
実務家教員							
授業内容	年間約4～6公演を鑑賞します。鑑賞に当たっては事前に演目、出演者などの研究をする事により、深い知識を持って鑑賞に臨みます。また、それをもとに個別発表することによって、自己の調査内容を増幅させ、プレゼンテーション能力を磨きます。様々な音楽を聴くことで、個々の感受性を高め、音楽の表現力、楽器の技術力等を学びます。CD等のメディアでは得ることのできない本番の臨場感、演奏家のエネルギーを感じ取り、自分の演奏技術、表現力に活かします。プログラム構成、企画、舞台演出、宣伝活動など、演奏以外の面についても研究をし、自分たちの企画する演奏会に活かします。						
授業方法	各公演、鑑賞前には3～4週にわたって演目や出演者などの研究をし、また鑑賞後には、演奏の様子や、自身の感想をレポートにまとめ、鑑賞前後にそれぞれ提出し、個別発表やディスカッションをしてもらいます。また、自分で興味のある演奏会を選択し、調査、発表を行ってもらいます。コンサートの日程により授業の予定が大きく変わることがあります。						
到達目標	知識・理解	演奏会を聴くにあたって、その演奏会のプログラム、演奏者の基本情報を調べ演奏会に臨み、その知識を理解することができる。					
	思考・判断・表現	演奏者の表現を受け入れ分析し評価することができ、自身の演奏表現に活かすことができる。また、他者の調査内容を聞くことにより、自己の知識を増幅させ、自己表現力を磨き、定期演奏会に活かすことができる。					
	関心・意欲・態度	自分の理想とする演奏を求め、より質の高い演奏や演奏会を目指し、積極的に努力して学修に取り組む事ができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート提出・発表		30	30	-	20	80
	小テスト		10	10	-	-	20
	合 計(点)		40	40	-	20	100
評価の特記事項	レポート提出は、鑑賞前の事前レポートと観賞後の事後レポートで評価します。発表は、要点の強調、表現の工夫、説得力、独自性、声の大きさ・スピード、語彙力等によって評価します。						
テキスト	ありません						
参考書・教材	その都度配付						
内 容							
実施回	授業内容・目標						
1	授業日程の説明、選択演奏会研究・鑑賞レポートについての説明 [課題（準備）]演奏会3における演奏者（演技者）演目内容について調べる。（2～3h）						
2	演奏会3に関するCDの鑑賞及び演奏者（演技者）の解説及び演奏会3鑑賞前レポート提出 [課題（準備）]演奏会3における個別発表の準備をする。（1～2h）						
3	演奏会3鑑賞前レポートに基づく個別発表 [課題（復習・発展）]演奏会3における他者の発表内容から、自己の調査内容を増幅させ、自己の発表の反省をする。（1～2h）						
4	演奏会3鑑賞前レポートに基づく個別発表 [課題（復習・発展）]演奏会3における他者の発表内容から、自己の調査内容を増幅させ、自己の発表の反省をする。（1～2h）						
5	演奏会3鑑賞 [課題（復習・準備）]演奏会3について鑑賞後のレポートをまとめる。（1～2h）						
6	演奏会3の鑑賞後レポート提出及びそれに基づくディスカッション [課題（復習）]演奏会3鑑賞後レポートによる復習とまとめ。（1～2h）						
7	演奏会の歴史について講義・解説 [課題（復習）]演奏会の歴史について講義内容を復習する。（1～2h）						
8	演奏会の歴史について講義・小テスト [課題（準備）]演奏会4における演奏者（演技者）演目内容について調べる。（2～3h）						
9	演奏会4に関するCDの鑑賞及び演奏者（演技者）の解説及び演奏会4鑑賞前レポート提出 [課題（準備）]演奏会4における個別発表の準備をする。（1～2h）						
10	演奏会4鑑賞前レポートに基づく個別発表 [課題（復習・発展）]演奏会3における他者の発表内容から、自己の調査内容を増幅させ、自己の発表の反省をする。（1～2h）						
11	演奏会4鑑賞前レポートに基づく個別発表 [課題（復習・発展）]演奏会4における他者の発表内容から、自己の調査内容を増幅させ、自己の発表の反省をする。（1～2h）						
12	演奏会4鑑賞 [課題（復習）]演奏会4について鑑賞後のレポートをまとめる。（1～2h）						
13	演奏会4の鑑賞後レポート提出及びそれに基づくディスカッション及び選択演奏会レポート提出。 [課題（復習・準備）]演奏会4鑑賞後レポートによる復習とまとめ。及び、選択演奏会における個別発表の準備をする。（2～3h）						
14	選択演奏会レポートに基づく個別発表 [課題（復習・発展）]選択演奏会における他者の発表内容から、自己の調査内容を増幅させ、自己の発表の反省をする。（1～2h）						
15	選択演奏会レポートに基づく個別発表 [課題（復習・発展）]選択演奏会における他者の発表内容から、自己の調査内容を増幅させ、自己の発表の反省をする。（1～2h）						
時間外での学修	各レポート提出については、期限に遅れないのはもちろん、内容の充実したレポート作成を心がけてください。発表は、定められた時間の中でより中身の濃い発表ができるように準備を進めてください。〔この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：18～31時間〕						

受講学生への メッセージ	鑑賞に当たっては服装等、マナーを守り、何事も学ぶ姿勢で鑑賞しましょう。他者の調査内容や発表姿勢を参考にして、自分の知識や表現力を磨いていきましょう。 オフィスアワーは、授業終了後、教室で行います。
-----------------	---

【3R6B225】楽器奏法		音楽総合学科		1年前期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	佐溝 佳奈					
資格・制限等	R・W/Rコース必修					
実務家教員						
授業内容	リペア技術者にとって修理品の点検は不可欠、修理をしても点検するすべがなくは、プロの技術者とは呼べません。楽器奏法の授業では、フルート・クラリネット・サクソフォン・ホルン・トランペット・トロンボーンといった吹奏楽で使用される代表的な管楽器のレッスンを受けることにより、各楽器の基本的な奏法を修得し楽器検品などに活かします。また演奏することによって、その楽器の機構や特徴を学ぶことができます。					
授業方法	各楽器に分かれ5～6週かけてレッスンを受け各楽器の演奏技術を修得します。					
到達目標	知識・理解	各楽器の演奏上の基本的な構造が理解し、その説明ができる。				
	思考・判断・表現	リペア修理後の楽器の状態が演奏によってある程度把握できる。				
	技能	各楽器の基本的な奏法を身につけ、ロングトーン・スケール・タンギングなどの奏法が容易にできる。				
	関心・意欲・態度	各楽器を演奏し修理の依頼者に対し故障の原因や修理での改善点がある程度説明できる。				
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	実技試験	-	-	60	-	60
	各楽器の修得力	10	10	-	-	20
	受講態度	-	-	-	20	20
	合 計(点)	10	10	60	20	100
評価の特記事項						
テキスト						
参考書・教材	楽譜等その都度配付。					
内 容						
実施回	授業内容・目標					
1	ガイダンス、授業の説明、レッスンのグループ分け、レッスンの受け方 [課題（予習）]次回レッスン楽器の基礎知識(1～2h)					
2	楽器1レッスン1:グループA(Fl) B(Cl) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [課題（復習）]レッスン楽器の練習(1～2h)					
3	楽器1レッスン2:グループA(Fl) B(Cl) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) 基本奏法(音の出し方、ロングトーン等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題（復習）]レッスン楽器の練習(1～2h)					
4	楽器1レッスン3:グループA(Fl) B(Cl) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) 基本奏法(ロングトーン、スケール等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題（復習）]レッスン楽器の練習(1～2h)					
5	楽器1レッスン4:グループA(Fl) B(Cl) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) スケール、簡単な楽曲、実技試験 注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題（予習）]次回レッスン楽器の基礎知識(1～2h)					
6	楽器2レッスン1:グループA(Cl) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(Fl) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [課題（復習）]レッスン楽器の練習(1～2h)					
7	楽器2レッスン2:グループA(Cl) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(Fl) 基本奏法(音の出し方、ロングトーン等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題（復習）]レッスン楽器の練習(1～2h)					
8	楽器2レッスン3:グループA(Cl) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(Fl) 基本奏法(ロングトーン、スケール等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題（復習）]レッスン楽器の練習(1～2h)					
9	楽器2レッスン4:グループA(Cl) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(Fl) スケール、簡単な楽曲、実技試験 注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題（予習）]次回レッスン楽器の基礎知識(1～2h)					
10	楽器3レッスン1:グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(Fl) F(Cl) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [課題（復習）]レッスン楽器の練習(1～2h)					
11	楽器3レッスン2:グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(Fl) F(Cl) 基本奏法(音の出し方、ロングトーン等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題（復習）]レッスン楽器の練習(1～2h)					
12	楽器3レッスン3:グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(Fl) F(Cl) 基本奏法(ロングトーン、スケール等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題（復習）]レッスン楽器の練習(1～2h)					
13	楽器3レッスン4:グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(Fl) F(Cl) スケール、簡単な楽曲、実技試験 注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題（復習）]レッスン楽器の復習(1～2h)					
14	不得意楽器のレッスン1 学期末実技試験対策 [課題（復習・準備）]レッスン楽器の練習(1～2h)					
15	不得意楽器のレッスン2 学期末実技試験対策 [課題（復習・準備）]レッスン楽器の練習(1～2h)					
時間外での学修	短期間のレッスンの中で基本的な奏法を学ばなければいけないため、修得するためには強い意志と、努力が必要となります。与えられた課題をこなすためにしっかりと練習しましょう。 [この科目で求める望ましい授業外での総学修時間： 1 5 ～ 3 0 時間]					
受講学生へのメッセージ	授業前に楽器の準備をしてください。レッスンにあたっては楽器の取り扱いなど担当教員の指示をしっかりと聞いて行ってください。オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施。					

【3R6S226】楽器奏法		音楽総合学科		1年後期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	佐溝 佳奈					
資格・制限等	R・W/Rコース必修					
実務家教員						
授業内容	リペア技術者にとって修理品の点検は不可欠、修理をしても点検するすべがなくは、プロの技術者とは呼べません。楽器奏法の授業では、フルート・クラリネット・サクソフォン・ホルン・トランペット・トロンボーンといった吹奏楽で使用される代表的な管楽器のレッスンを受けることにより、各楽器の基本的な奏法を修得し楽器検品などに活かします。また演奏することによって、その楽器の機構や特徴を学ぶことができます。					
授業方法	各楽器に分かれ5～6週かけてレッスンを受け各楽器の演奏技術を修得します。					
到達目標	知識・理解	各楽器の演奏上の基本的な構造が理解し、その説明ができる。				
	思考・判断・表現	リペア修理後の楽器の状態が演奏によってある程度把握できる。				
	技能	各楽器の基本的な奏法を身につけ、ロングトーン・スケール・タンギングなどの奏法が容易にできる。				
	関心・意欲・態度	各楽器を演奏し修理の依頼者に対し故障の原因や修理での改善点がある程度説明できる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	<div>評価の観点</div> <div>評価方法</div>	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	実技試験	-	-	60	-	60
	各楽器の修得力	10	10	-	-	20
	受講態度	-	-	-	20	20
	合 計(点)	10	10	60	20	100
評価の特記事項						
テキスト						
参考書・教材	楽譜等その都度配付。					
内 容						
実施回	授業内容・目標					
1	ガイダンス、授業の説明、レッスンのグループ分け、レッスンの受け方 [課題（予習）]次回レッスン楽器の基礎知識(1～2h)					
2	楽器1レッスン1:グループA(Fl) B(Cl) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [課題（復習）]レッスン楽器の練習(1～2h)					
3	楽器1レッスン2:グループA(Fl) B(Cl) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) 基本奏法(音の出し方、ロングトーン等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題（復習）]レッスン楽器の練習(1～2h)					
4	楽器1レッスン3:グループA(Fl) B(Cl) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) 基本奏法(ロングトーン、スケール等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題（復習）]レッスン楽器の練習(1～2h)					
5	楽器1レッスン4:グループA(Fl) B(Cl) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) スケール、簡単な楽曲、実技試験 注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題（予習）]次回レッスン楽器の基礎知識(1～2h)					
6	楽器2レッスン1:グループA(Cl) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(Fl) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [課題（復習）]レッスン楽器の練習(1～2h)					
7	楽器2レッスン2:グループA(Cl) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(Fl) 基本奏法(音の出し方、ロングトーン等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題（復習）]レッスン楽器の練習(1～2h)					
8	楽器2レッスン3:グループA(Cl) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(Fl) 基本奏法(ロングトーン、スケール等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題（復習）]レッスン楽器の練習(1～2h)					
9	楽器2レッスン4:グループA(Cl) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(Fl) スケール、簡単な楽曲、実技試験 注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題（予習）]次回レッスン楽器の基礎知識(1～2h)					
10	楽器3レッスン1:グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(Fl) F(Cl) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [課題（復習）]レッスン楽器の練習(1～2h)					
11	楽器3レッスン2:グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(Fl) F(Cl) 基本奏法(音の出し方、ロングトーン等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題（復習）]レッスン楽器の練習(1～2h)					
12	楽器3レッスン3:グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(Fl) F(Cl) 基本奏法(ロングトーン、スケール等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題（復習）]レッスン楽器の練習(1～2h)					
13	楽器3レッスン4:グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(Fl) F(Cl) スケール、簡単な楽曲、実技試験 注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題（復習）]レッスン楽器の復習(1～2h)					
14	不得意楽器のレッスン1 学期末実技試験対策 [課題（復習・準備）]レッスン楽器の練習(1～2h)					
15	不得意楽器のレッスン2 学期末実技試験対策 [課題（復習・準備）]レッスン楽器の練習(1～2h)					
時間外での学修	短期間のレッスンの中で基本的な奏法を学ばなければいけないため、修得するためには強い意志と、努力が必要となります。与えられた課題をこなすためにしっかりと練習しましょう。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15～30時間]					
受講学生へのメッセージ	授業前に楽器の準備をしてください。レッスンに当たっては楽器の取り扱いなど担当教員の指示をしっかりと聞いて行ってください。オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施。					

【3R6B229】楽器研究		音楽総合学科		1年前期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	木下 紘治郎						
資格・制限等	W・R・W/R・W/MTコース必修						
実務家教員	楽器製造販売会社勤務・35年						
授業内容	・管打楽器業界で即戦力として通用する人材に必要な、豊富でより専門的な知識の修得を行います。 ・お客様に信頼され支持され地域に貢献することができる人間性豊かな人材の育成をします。						
授業方法	講義形式で行います。より理解を深めるため楽器本体、カタログ、DVD、CD等を使用します。						
到達目標	知識・理解	管打楽器の歴史、発音原理、構造、材質等の基礎知識、各楽器ごとの特徴を理解できる。日本のスクールバンドで使用される国内外のメーカーを知り、その売れ筋商品を知ることができる。					
	思考・判断・表現	営業活動や楽器指導にあたって、十分な理解を得られる伝え方を研究、工夫しコミュニケーションをとることができる。					
	関心・意欲・態度	管打楽器及び関連商品の幅広い知識と新しい情報に敏感であり、より専門的な情報収集に努めることができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	試験		82	5	-	3	90
	レポート		4	4	-	2	10
	合 計(点)		86	9	-	5	100
評価の特記事項							
テキスト	『管楽器価格一覧表2020年度版』ミュージックトレード社(1,000円) 『打楽器価格一覧表2020年度版』ミュージックトレード社(900円)						
参考書・教材	授業ごとに自作資料を配布します。 楽器別カタログを配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス 「この授業で学ぶこと」プレイング・セールス・エンジニアについて。「音楽産業と楽器産業について」(楽器産業の業態、そこで働くこととは)「課題(復習)」学んだことの復習。プレイング・セールス・エンジニアについて理解を深めること。学生ポータルにて実施。(2h)						
2	「管楽器の基礎知識を始める前に」楽器の条件について考える。理解を深めるため多くの楽器に触れ、カタログを教材として使用することについて。補助教材としてDVD、CDなどの活用について。「課題(復習)」学んだことの復習。資料を熟読する事。 学生ポータルにて実施。(2h)						
3	管楽器の基礎知識(1) 歴史、発音原理、楽器の分類と種類、構造、管体材料について。[課題(復習/予習)]学んだことの復習。発音原理は実際にマウスピース等で吹いてみること。学生ポータルにて実施(3h)						
4	管楽器の基礎知識(2) パルプとスライド、円筒管と円錐管、トーンホール、キイメカニズム、調性について。[課題(復習/予習)]学んだことの復習と予習。各自の専門楽器以外は学生同士で確認する事。次回から楽器別に行く。事前にカタログを研究する事。(フルートから始める)(2h)						
5	フルート 各国での名称、歴史、種類、キイタイプ、管体材料、トーンホール、ヘッド、ハンドメイド、メーカーについて。[課題(復習/予習)]学んだことの復習と予習。実際に楽器等で確認すること。(2h)						
6	クラリネット 各国での名称、歴史、種類、キイシステム、管体材料、リード・リガチャー・マウスピースの3点セット、メーカーについて。[課題(復習/予習)]学んだことの復習と予習。実際に楽器等で確認すること。 提出課題 "クラリネットメーカー対比表作成" (クランボン、セルマー、ヤマハ) 7月31日(金)提出 (2h)						
7	サクソフォン 各国での名称、歴史、種類、キイシステム、管体材料、ネック(ボーカル)リード、メーカーについて。「課題(復習/予習)」学んだことの復習と予習。実際に楽器等で確認すること(2h)						
8	オーボエ 各国での名称、歴史、種類、キイシステム、管体材料、リード、メーカーについて。[課題(復習/予習)]学んだことの復習と予習。実際に楽器等で確認すること(2h)						
9	ファゴット(バスーン) 各国での名称、歴史、種類、キイシステム、管体材料、リード、ボーカル、メーカーについて。[課題(復習/予習)]学んだことの復習と予習。実際に楽器で確認すること(2h)						
10	トランペット 各国での名称、歴史、種類、管体材料、パルプの種類、支柱と響き、ボアサイズ、トリガー、ベル、メーカー[課題(復習/予習)]学んだことの復習と予習。実際に楽器で確認すること(2h)						
11	ホルン 各国での名称、歴史、調性による分類、管体材料、タイプによる分類、デタッチャブル、ゲシュトップ、ベル、メーカーについて。[課題(復習/予習)]学んだことの復習と予習。実際に楽器で確認する事。(特にフルダブルの構造)(2h)						
12	トロンボーン 各国での名称、歴史、種類、管体材料、スライド、パルプの種類、ボアサイズ、ベル、メーカーについて。[課題(復習/予習)]学んだことの復習と予習。実際に楽器で確認する事。(特にスライド、パルプ)(2h)						
13	ユーフォニアム&チューバ 各国での名称、歴史、種類、管体材料、パルプの種類、管の巻き方、コンベンセイティングシステム、メーカーについて。[課題(復習/予習)]学んだことの復習と予習。実際に楽器で確認する事(特にコンベンセイティングシステム)(2h)						
14	サクソルン族 歴史、種類、コルネット、アルトホルン、バリトン。メーカーについて。イギリス式金管バンド編成について。[課題(復習)]学んだことの復習と予習。金管バンドのDVD、CDを視聴し興味を持つこと。(2h)						
15	マーチングプラス 歴史、特徴、種類、コンパチブルモデル、メーカーについて。[課題(復習)]学んだことの復習。カタログを活用しCD、DVDを視聴し実際の活用状況を確認する事。 来週筆記試験を実施するので前期の学んだことを確認しておく事。(10h)						
時間外での学修	最新情報を入手する習慣をつけましょう。専門楽器以外の楽器はカタログ、専門誌、インターネットなどで研究し、楽器本体は学生同士で研究しあいましょう。【この科目での望ましい授業外での総学修時間：40時間】						
受講学生へのメッセージ	全ての楽器に興味を持ってください。そこから得た知識が将来必ず活かされます。又、オールマイティーな知識が求められます。オフィスアワー：質問等は授業前後に教室で対応します。						

【3R6S230】楽器研究		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	木下 紘治郎						
資格・制限等	W・R・W/R・W/(MT)コース必修						
実務家教員	楽器製造販売会社勤務・35年						
授業内容	前期に引き続き楽器知識について学びます。打楽器類（コンサート用、マーチング用、音板打楽器）和楽器（太鼓類、笛類、弦楽器類）、教育楽器（リコーダー、鍵盤ハーモニカ、教育機器）楽器店で扱われる楽器（鍵盤楽器、弦楽器、LM楽器、民族楽器、管打楽器関連商品）の知識、チューナー、メトロノームのスクールバンドに於ける活用研究及び関連知識として吹奏楽の歴史を学びます。						
授業方法	講義形式で行います。より理解を深めるため楽器本体、カタログ、DVD、VTR、CDを活用します。						
到達目標	知識・理解	打楽器、和楽器、教育楽器、楽器店で販売している楽器群についての特徴を知ることができる。特に、教育楽器は教育上の特性等、学校教育との関連を理解できる。					
	思考・判断・表現	営業活動や指導にあたって、十分な理解を得られる伝え方を思考し、工夫し表現できる。					
	関心・意欲・態度	楽器本体及び関連商品の幅広い知識と情報に敏感であり、よりプロフェッショナルな顧客対応ができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験		70	5	-	5	80
	レポート		10	5	-	5	20
	合 計(点)		80	10	-	10	100
評価の特記事項							
テキスト	前期で購入した『管・打楽器価格一覧表』、『楽器別カタログ』を使用します。						
参考書・教材	授業ごとに自作資料を配付します。						
内 容							
実施回	授業内容・目標						
1	打楽器(1) コンサート打楽器の分類 ティンパニ(各国での名称、歴史、種類、構造、サイズ、セッティング、チューニング、インジケーター、メーカー)について[課題(復習/予習)]学んだことの復習。楽器本体(学校備品)で確認しておくこと。コンサート打楽器をカタログで確認しておくこと。前期同様授業前にカタログで予習しておくこと(2h)						
2	打楽器(2) スネアドラム、バスドラム、シンバル、チャイム他(各国での名称、歴史、種類、サイズ、チューニング、構造、材質、メーカー)について。[課題(復習/予習)]学んだことの復習。音板打楽器をカタログで確認しておくこと(2h)						
3	打楽器(3) 音板打楽器(概論、種類、各部の名称、材質、湿度・温度とビッチの関係、取り扱い、メーカー)について。[課題(復習/予習)]学んだことの復習。楽器本体で確認すること。マーチングパーカッションをカタログで確認しておくこと(2h)						
4	打楽器(4) マーチングパーカッション(概論、種類、構造、編成、チューニング、アクセサリ、メーカー)について。[課題(復習/予習)]学んだことの復習。楽器本体、カタログで確認すること。(楽器本体は学校備品あり)DVD等で確認すること。(2h)						
5	和楽器(1) 邦楽と和楽器について、歴史、種類と分類、奏法、各流派 (1)和太鼓 (2)管楽器類(尺八)について。[課題(復習)]学んだことの復習。DVD等で確認すること。(2h)						
6	和楽器(2) 管楽器類 篠笛、竜笛、能管、笙、簞簫「雅楽について」[課題(復習)]学んだことの復習。DVD等で確認すること。(2h)						
7	和楽器(3) 弦楽器(三味線、琴と箏)について。[課題(復習)]学んだことの復習。和楽器の知識をまとめておくこと(2h)						
8	教育楽器(1) リコーダー(各国での名称、歴史、種類、材質、パロック式とジャーマン式、教育的特性、生涯学習とリコーダー、奏法、メーカー)について。[課題(復習)]学んだことの復習。楽器本体で確認すること。(2h)						
9	教育楽器(2) 鍵盤ハーモニカ(歴史、種類(鍵盤数)、教育的特性、生涯学習と鍵盤ハーモニカ、メーカー(独自の商品名)について。[課題(復習)]学んだことの復習。楽器本体で確認すること。(2h)						
10	教育機器(種類、電子式指導用オルガンの教育的特性と機能)についてメーカーについて[課題(復習/予習)]学んだことの復習と予習。総合楽器店で扱われる楽器類をカタログ等で確認しておくこと(3h)						
11	楽器店で扱われる楽器類(鍵盤楽器、弦楽器、LM楽器、民族楽器、楽器関連商品)について、メーカーについて。[課題(復習)]学んだことの復習。楽器本体、陳列方法を楽器店で確認することを勧める。(4h)						
12	楽器関連商品(チューナーとメトロノームの吹奏楽活動での効果的な活用研究)について[課題(復習/予習)]学んだことの復習。自身の効果的な活用法を考える事(2h)						
13	日本における吹奏楽の歴史(日本の吹奏楽の始まりから現在、そして将来を展望する)[課題(復習/予習)]学んだことの復習及び後期実施資料を読み直し確認すること(5h)						
14	後期のまとめ。後期授業内容をまとめます。[課題(復習)]学んだことの復習。後期実施全資料を持参してください。返却された夏期休暇課題を読み直し次回持参すること(3h)						
15	夏期休暇課題のまとめ。コンクール視察、楽器店訪問で気付いた事と学んだこと。新しい視点で観察した現場を整理し、これからに繋げる。[課題(復習)]学んだことの復習。後期授業内容を確認しましょう。(10h)						
時間外での学修	楽器店を訪問して商品の展示方法等を観察したり、新しい情報を入手しましょう。必ず客として訪問してください。お店の方々と仲良くなる事で、多くの知識、情報を得ることができます。学ばせていただく姿勢が大切です。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：45時間】						
受講学生へのメッセージ	楽器のオールマイティーを目指しましょう。興味と関心、好奇心が最大の資質です。カタログや専門誌、インターネット等で確認し、知識を確実にしましょう。学校備品、友人の楽器、コンサート等で実際に楽器を観察することを勧めます。オフィスアワー：質問等は授業の前後に教室で対応します。						

【3W5B219】専攻楽器		音楽総合学科		1年前期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	服部 篤典						
資格・制限等	W・W/R・W/MTコース必修						
実務家教員	オーケストラ25年						
授業内容	個々の技量に見合った楽曲を決め、個人レッスンを中心に行います。各曲の曲想を理解した上で、楽譜に忠実な演奏から表現力豊かな個性を大切にした演奏を目指します。						
授業方法	楽曲の譜読みを正確に行い、その後個々の感性を音楽に表現できるようレッスンを進めます。前期後半に各自発表を行い、気づいた点等を指摘し合い、最終週に演奏会形式の発表を行います。						
到達目標	思考・判断・表現	各曲の曲想を把握し、個性を大切にした上で表現することができる。					
	技能	譜読みをしっかりと行った後、正確に演奏することができる。					
	関心・意欲・態度	授業時間外での練習を積極的に行い、スキルアップができる。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	10	50	-	60
	受講態度		-	15	-	25	40
	合 計(点)		-	25	50	25	100
評価の特記事項							
テキスト							
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	電話にて、学生個々と連絡を取り授業の進め方、心構え及び楽曲決めの方法を説明し、メールにて質問事項に答える。 「課題」復習・予習：電話でのアドバイスを参考に楽曲を決め作曲者、曲の背景等を研究(2～3h)						
2	ポータルにて楽曲決めの進捗状況を確認しメールにて質問事項に答える。楽曲の決まった学生には電話にて練習法を個別に伝える。 「課題」復習・予習：楽曲を決め作曲者、曲の背景等を研究。楽曲の決まった学生は電話でのアドバイスを参考に練習(2～3h)						
3	ポータルにて楽曲決めの進捗状況を確認しメールにて質問事項に答える。楽曲の決まった学生には電話にて練習法を個別に伝える。練習に入っている学生はLINE通話にてアドバイス。 「課題」復習・予習：楽曲の決まった学生は電話でのアドバイスを参考に練習。練習に入っている学生はLINE通話で指摘を受けた箇所に注意し練習(2～3h)						
4	個人レッスン 楽曲前半の音、リズムを中心にチェック 「課題」復習・予習：レッスンで指摘を受けた箇所、楽曲全曲のテンポ、表現記号等に注意し練習(2～3h)						
5	個人レッスン 楽曲後半の音、リズムを中心にチェック 「課題」復習・予習：レッスンで指摘を受けた箇所、楽曲前半のテンポ、表現記号等に注意し練習(2～3h)						
6	個人レッスン 楽曲前半のテンポ、表現記号等を中心にチェック 「課題」復習・予習：レッスンで指摘を受けた箇所、楽曲後半のテンポ、表現記号等に注意し練習(2～3h)						
7	個人レッスン 楽曲後半のテンポ、表現記号等を中心にチェック 「課題」復習・予習：レッスンで指摘を受けた箇所、楽曲全曲のテンポ、表現記号に注意し練習(2～3h)						
8	個人レッスン 楽曲全曲のテンポ、表現記号等を中心にチェック 「課題」復習・予習：レッスンで指摘を受けた箇所、楽曲前半の独自の表現等を取り入れ練習(2～3h)						
9	個人レッスン 楽曲前半の個性を大切にした表現等のチェック 「課題」復習・予習：レッスンで指摘を受けた箇所、楽曲後半の独自の表現等を取り入れ練習(2～3h)						
10	個人レッスン 楽曲後半の個性を大切にした表現等のチェック 「課題」復習・予習：レッスンで指摘を受けた箇所、楽曲全曲の独自の表現等を取り入れ練習(2～3h)						
11	個人レッスン 楽曲全曲の個性を大切にした表現等のチェック 「課題」復習・予習：レッスンで指摘を受けた箇所、不得手な箇所を中心に練習(2～3h)						
12	発表1 楽曲を演奏しそれぞれ指摘し合う(5～6名) 「課題」復習・予習：教員、他学生から指摘指摘を受けた箇所、不得手な箇所を中心に練習(2～3h)						
13	発表2 楽曲を演奏しそれぞれ指摘し合う(5～6名) 「課題」復習・予習：教員、他学生から指摘指摘を受けた箇所、不得手な箇所を中心に練習(2～3h)						
14	発表3 楽曲を演奏しそれぞれ指摘し合う(5～6名) 「課題」復習・予習：教員、他学生から指摘指摘を受けた箇所、不得手な箇所を中心に練習(2～3h)						
15	発表 楽曲を演奏会形式で発表 「課題」復習・予習：発表時の反省を踏まえ、実技試験に向け不得手な箇所を練習(2～3h)						
時間外での学修	課題としてレッスン時に指摘された箇所の復習及び次のレッスンに向けての予習を行う。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間～45時間】						
受講学生へのメッセージ	レッスン時に指摘された箇所は必ず復習し、不明な点があれば教員に尋ねるよう心掛け、個々の演奏技術向上を目指して下さい。						

【3W5S220】専攻楽器		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	服部 篤典						
資格・制限等	W・W/R・W/(MT)コース必修						
実務家教員	オーケストラ25年						
授業内容	個々の技量に見合った楽曲を決め、個人レッスンを中心に行います。各曲の曲想を理解した上で、楽譜に忠実な演奏から表現力豊かな個性を大切にした演奏を目指します。						
授業方法	楽曲の譜読みを正確に行い、その後個々の感性を音楽に表現できるようレッスンを進めます。前期後半に各自発表を行い、気づいた点等を指摘し合い、最終週に演奏会形式の発表を行います。発表時には伴奏を付けた演奏とします。						
到達目標	思考・判断・表現	各曲の曲想を把握し、個性を大切にした上で表現することができる。					
	技能	譜読みをしっかりと行った後、正確に演奏することができる。					
	関心・意欲・態度	授業時間外での練習を積極的に行い、スキルアップができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	10	50	-	60
	受講態度		-	15	-	25	40
	合 計(点)		-	25	50	25	100
評価の特記事項							
テキスト							
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	個々で決めた楽曲を提出し、研究内容を発表。 「課題」予習・復習：楽曲前半の音、リズムを正確に練習(2～3h)						
2	個人レッスン 楽曲前半の音、リズムを中心にチェック 「課題」復習・予習：レッスンで指摘を受けた箇所、楽曲後半の音、リズムを正確に練習(2～3h)						
3	個人レッスン 楽曲後半の音、リズムを中心にチェック 「課題」復習・予習：レッスンで指摘を受けた箇所、楽曲全曲の音、リズムを正確に練習(2～3h)						
4	個人レッスン 楽曲全曲の音、リズムを中心にチェック 「課題」復習・予習：レッスンで指摘を受けた箇所、楽曲前半のテンポ、表現記号等に注意し練習(2～3h)						
5	個人レッスン 楽曲前半のテンポ、表現記号等を中心にチェック 「課題」復習・予習：レッスンで指摘を受けた箇所、楽曲後半のテンポ、表現記号等に注意し練習(2～3h)						
6	個人レッスン 楽曲後半のテンポ、表現記号等を中心にチェック 「課題」復習・予習：レッスンで指摘を受けた箇所、楽曲全曲のテンポ、表現記号等に注意し練習(2～3h)						
7	個人レッスン 楽曲全曲のテンポ、表現記号等を中心にチェック 「課題」復習・予習：レッスンで指摘を受けた箇所、楽曲前半の独自の表現等を取り入れ練習(2～3h)						
8	個人レッスン 楽曲前半の個性を大切にした表現等のチェック 「課題」復習・予習：レッスンで指摘を受けた箇所、楽曲後半の独自の表現等を取り入れ練習(2～3h)						
9	個人レッスン 楽曲後半の個性を大切にした表現等のチェック 「課題」復習・予習：レッスンで指摘を受けた箇所、楽曲全曲の独自の表現等を取り入れ練習(2～3h)						
10	個人レッスン 楽曲全曲の個性を大切にした表現等のチェック 「課題」復習・予習：レッスンで指摘を受けた箇所、不得手な箇所を中心に練習(2～3h)						
11	発表1 楽曲を演奏しそれぞれ指摘し合う(8～9名) 「課題」復習・予習：教員、他学生から指摘を受けた箇所、不得手な箇所を中心に練習(2～3h)						
12	発表2 楽曲を演奏しそれぞれ指摘し合う(8～9名) 「課題」復習・予習：教員、他学生から指摘を受けた箇所、不得手な箇所、伴奏を付けた練習(2～3h)						
13	伴奏付き個人レッスン1 伴奏を付けて最終的に仕上がりチェック(8～9名) 「課題」復習・予習：レッスンで指摘を受けた箇所、不得手な箇所の練習(2～3h)						
14	伴奏付き個人レッスン2 伴奏を付けて最終的に仕上がりチェック(8～9名) 「課題」復習・予習：レッスンで指摘を受けた箇所、不得手な箇所の練習(2～3h)						
15	発表 楽曲を演奏会形式で発表(伴奏付き) 「課題」復習・予習：発表時の反省を踏まえ、実技試験に向け不得手な箇所を練習(2～3h)						
時間外での学修	課題としてレッスン時に指摘された箇所を復習及び次のレッスンに向けての予習を行う。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間～45時間】						
受講学生へのメッセージ	レッスン時に指摘された箇所は必ず復習し、不明な点があれば教員に尋ねるよう心掛け、個々の演奏技術向上を目指して下さい。						